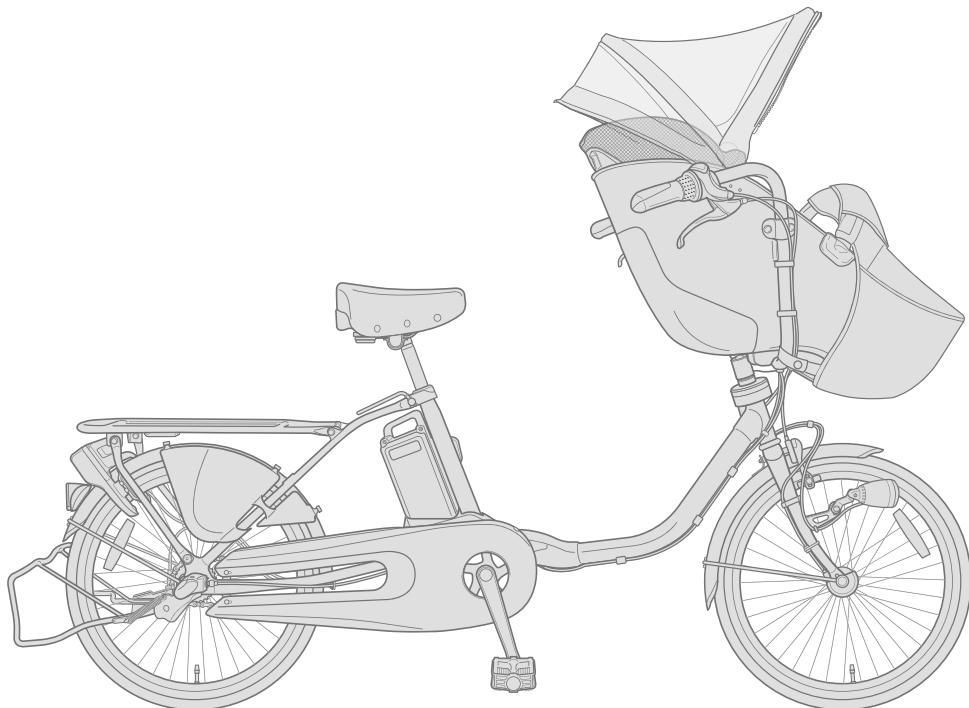


Panasonic®

取扱説明書 電動アシスト自転車

品番

ギュット・クルーム・EX BE-FFE032



保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

●取扱説明書をよくお読みの上、正しく安全にお使いください。

●ご使用まえに「安全上のご注意」(4 ~ 23 ページ) を必ずお読みください。

●保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

パナソニックの会員サイト 「CLUB Panasonic」 で 「商品登録」 をお願いします

特典

- お持ちの家電商品、消耗品情報が一元管理できる！
- 登録商品に関するお知らせやサポート情報が入手できる！
- 登録者限定のキャンペーンに参加できる！

詳しくはこちら

<https://club.panasonic.jp/aiyo/>



はじめに

- この自転車は、一般乗車用として設計されています。新聞配達などの業務用としてご使用にならないでください。
また、日本国外以外の交通法規には適合していませんので、日本国外以外でご使用にならないでください。
- 必ず、販売店で防犯登録を行ってください（法令で義務付けられています）。

●製品をほかの人に譲渡される場合は、この取扱説明書と一緒に渡してください。

- お子様がお使いになる場合は、保護者の方がこの取扱説明書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。
- 本書のイラストはイメージ図を使用していますので、一部実車と異なる場合があります。

お子様と一緒に時間にぴったり！

乗せやすく
降ろしやすい

低床設計で、お子様を持ち上げる際にかかる負荷を軽減。

こぎ出し
軽やか

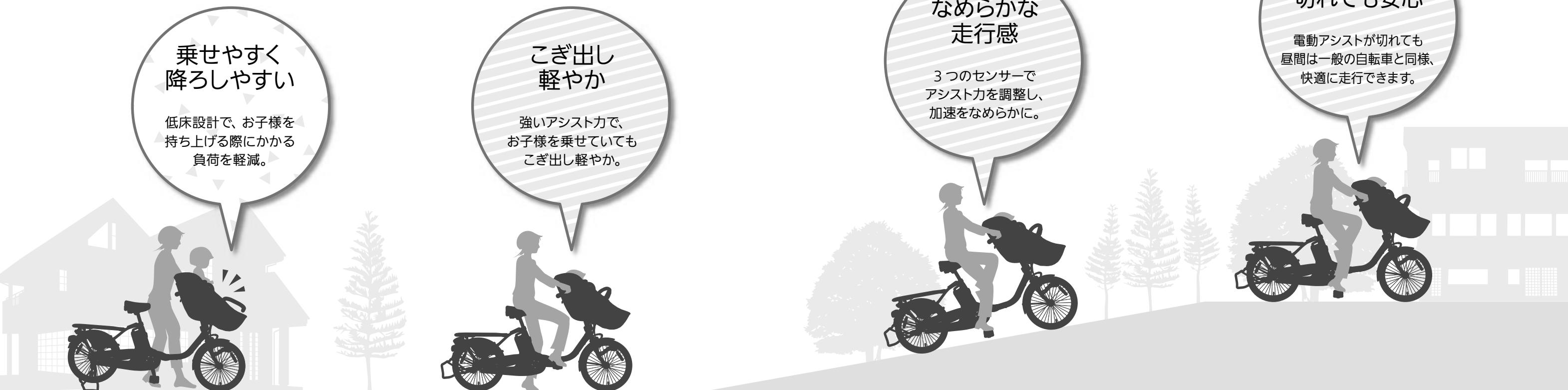
強いアシスト力で、
お子様を乗せていても
こぎ出し軽やか。

なめらかな
走行感

3つのセンサーで
アシスト力を調整し、
加速をなめらかに。

電動アシストが
切れても安心

電動アシストが切れても
昼間は一般の自転車と同様、
快適に走行できます。



もくじ

ご使用のまえに	乗るまえに	乗りかた	乗り終わったら	必要なとき
安全上のご注意 4	乗るまえの点検と調整 37	さあ、乗りましょう! 60	駐輪・施錠のしかた 71	お手入れについて 74
使用上のお願い 24	充電しましょう 45	ブレーキのかけかた 64		別売品（アクセサリー） 90
各部のなまえとはたらき 26	■バッテリーの残量について 49	変速のしかた 66	注油について 78	定期点検について 92
■付属品 28	荷物やお子様を乗せるとき 51	アシストの強さを変える 67	故障かな? 79	自転車安全基準／BAAマーク／ 点検整備済 TSマークのご紹介 93
		走行できる距離の目安 69	運搬／保管／廃棄について 84	盗難補償優遇制度について 94
			バッテリーについて 86	保証とアフターサービス 95
			仕様 88	

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

危険 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

注意 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています(次は図記号の例です)。

してはいけない内容です。

実行しなければならない内容です。

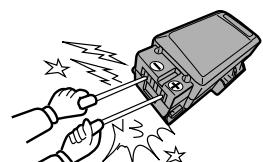
気付けていただく内容です。

危険

バッテリーについて



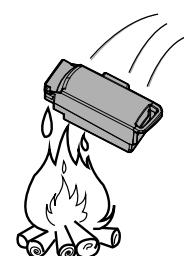
■(+)(-)を金属などで接触させない



(発熱、発火、破裂の原因)

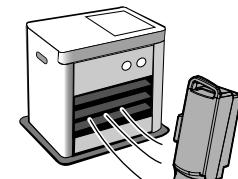
⇒ネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管しないでください。

■火への投入、加熱をしない



(発熱、発火、破裂の原因)

■火のそばなど高温の場所で充電・使用・放置しない



(発熱、発火、破裂の原因)

■落らせない

(発熱、発火、破裂の原因)



■当社電動アシスト自転車専用の充電式バッテリーです。この機器と専用アダプターでの接続以外は使用しない

(発熱、発火、破裂の原因)

⇒別売品(90 ページ)の USB 出力アダプターを介しての USB 対応機器への給電は可能です。

■専用の充電器以外は使用しない

(発熱、発火、破裂の原因)

■クギで刺したり、衝撃を与えたたり、分解・改造をしない



(発熱、発火、破裂の原因)

■再生・リサイクルバッテリーは使用しない

(発熱、発火、破裂の原因)

充電器について



■当社電動アシスト自転車バッテリーの充電以外の使用は絶対にしない

(バッテリーの液漏れ、発熱、破裂によるけがの原因)

警告

バッテリーについて



■水を入れたり、水中に投下したりしない



(端子部から水が入ると発熱、発火、破裂の原因)
⇒バッテリー内部に明らかに水が浸入した場合は、使用を停止し、販売店で点検を受けてください。

■傷ついたまま使用しない

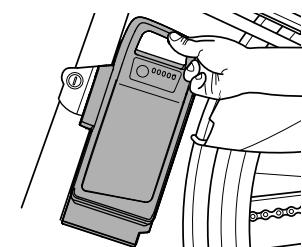
(ケースなど、破損したまま使用すると液漏れのおそれがあり、目に入った場合失明するおそれ。また、水の浸入により、発煙・発火のおそれ)

■大雨などで自転車本体(バッテリー部)が水につかった場合、使用しない

(不意にアシストが停止する場合があり、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)
⇒本自転車は生活防水性能を備えていますが、大雨などによりバッテリー内部に水が入った場合は使用を停止し、販売店で点検を受けてください。



■確実に自転車に装着されているか確認する



(走行中に脱落し転倒したり、足の上に落ちたり、けがのおそれ)

⇒必ず手前に引いて外れないか確認してください。

充電器について



■電源コードを充電器本体に巻き付けて保管しない
(電源コードやプラグが断線し、傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因)

■充電中はカバーをしたり、上に物を置いたりしない
(内部が発熱し、火災のおそれ)

■充電中は引火のおそれがあるものを近づけない
(スパークし、火災や爆発の原因)

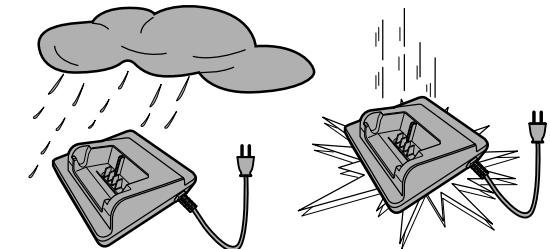
■分解、改造は絶対にしない



(充電時、バッテリーの液漏れ、発熱による火災のおそれ)

■以下のようなことはしない

●衝撃を与えること ●落下 ●水ぬれ
●高湿度な場所(浴室・洗面所や水がかかる場所)での使用



(発熱、発火、感電のおそれ)
⇒水にぬれた場合には、内部基板に水が浸入していることがありますので、使用しないでください。

安全上のご注意(つづき)

⚠ 警告

充電器について

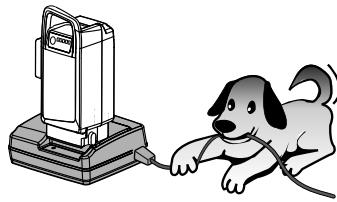


- 充電端子を金属でショートさせたり、ボタン・コイン電池を接触させない



(発熱、発火、感電のおそれ)
⇒充電しないときは、端子カバー(別売品 90 ページ)をかぶせておくことをお勧めします。

- 幼児やペットが触れる所に放置しない



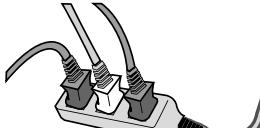
(幼児やペットがコードを傷め、感電・故障・火災の原因)

- 電源コードや電源プラグ・ケースを破損するようなことはしない(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるなど)



(傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因)
⇒電源コードなど単体での修理・交換はできません。電源コードなどが傷んだ場合、販売店にご相談ください。

- コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、家庭用の交流 100 V 以外での使用はしない



(たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因)



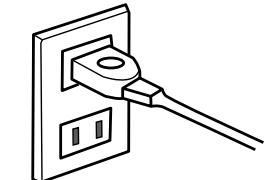
- ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない



(感電のおそれ)

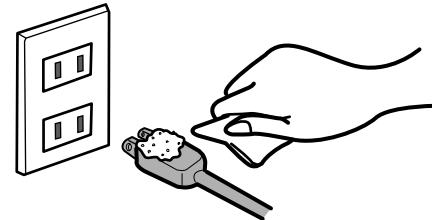


- 電源プラグは根元まで確実に差し込む



(接触不良による感電や火災の原因)

- 充電端子や電源プラグのほこりなどは定期的に取る



(ほこりがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因)
⇒電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。

- 充電中に次の異常を感じたら充電を中止する(異音・異臭・煙の発生など)

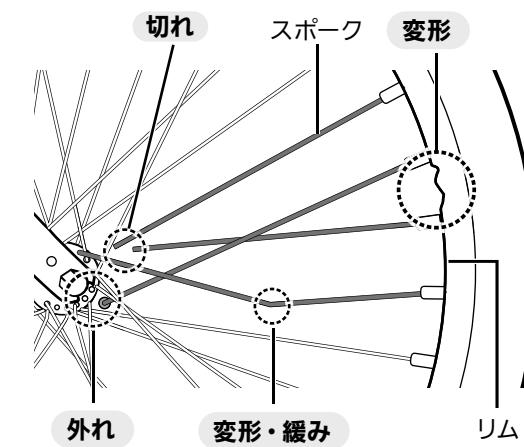
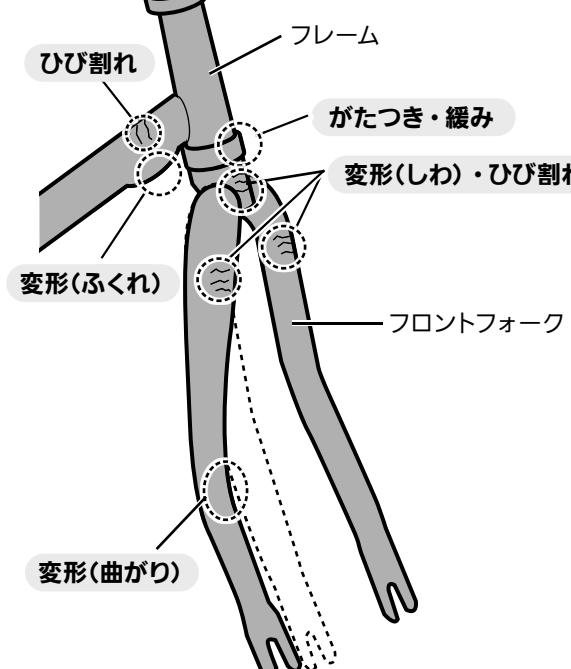
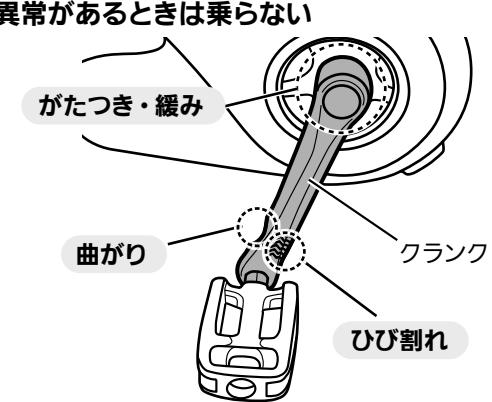
(火災や爆発の原因)
⇒充電器の電源プラグを抜き、バッテリーを取り外してください。

⚠ 警告

自転車本体について



- 各部にがたつきや緩みおよび、変形・ひび割れなどの異常があるときは乗らない



(折れや固定の緩みにより、転倒や衝突によるけがのおそれ)
ひび割れや変形などの異常を見つけたら、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検、交換をしてください。
⇒フロントフォークは衝突などの強い力を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるよう設計してあります。衝突や転倒など強い衝撃が加わったあとは、フロントフォークに変形やひび割れなどの異常が無いか点検してください。

⇒スポークが 1 本でも切れたまま使用を続けると、ほかのスポークに負担がかかり寿命が短くなります。切れ・変形・緩みのあるスポークは直ちに交換してください。できれば、すべてのスポークを交換されることをお勧めします。
⇒ハンドルやサドルを締め付けてもがたつき・緩み・ずれがあるとき、またハンドルの回転が重い・引っ掛かりがあるときは、すぐに乗るのを止め、販売店で点検してください。

- 調整後の締め付け・固定を確認せずに乗らない

●車輪 / サドル / バッテリーライト / リアキャリア / ハンドル / フロントフォーク / クランク など
(転倒や部品や物が落下し、けがのおそれ)



- 次の様なときは外観上異常が無くても販売店で点検を受ける

●車輪が変形するような衝突や段差の乗り上げ・落下をしたとき
●ペダルやクランクに強い衝撃が加わるような衝突や転倒をしたとき

(ブレーキの動作不良、フレーム・フロントフォークの折損、駆動ユニットの異常動作により転倒し、けがのおそれ)

- 定期点検の時期以外でも、激しい使用後は常に点検をする(受ける)

(異常や破損によるけがのおそれ)

安全上のご注意(つづき)

! 警告

自転車本体について



■改造や分解はしない

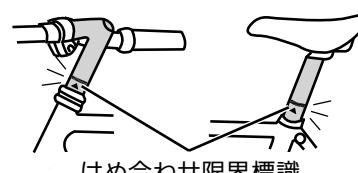


(部品の破損や、ブレーキが利かなくなったり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

■回転部(車輪・チェーンなど)に手や足を近づけない

(車輪やチェーンに巻き込まれ、けがのおそれ)
⇒幼児や児童も近づけないようにご注意ください。

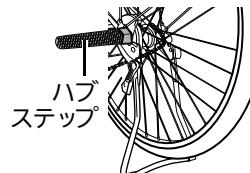
■サドルやハンドルは「はめ合わせ限界標識」が見える状態で乗らない



はめ合わせ限界標識

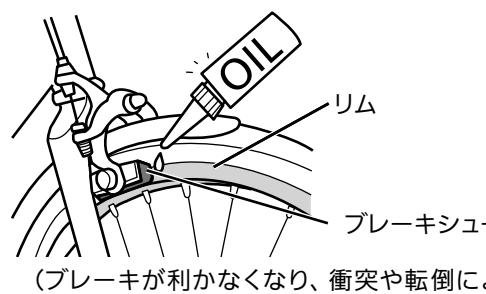
(シートポストやハンドルシステムの折れにより、転倒や衝突によるけがのおそれ)
⇒ハンドルの高さ調整は、販売店にご相談ください。

■ハブステップなどの突出物を装着しない



(歩行者などに危害を及ぼすおそれ)

■注油禁止場所(リムやブレーキシューのゴム部など)に注油しない



(ブレーキが利かなくなり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

自転車本体について



■リム(アルミリム)に著しい摩耗のあるときは乗らない



(リムが破損し、転倒によるけがのおそれ)
⇒リム交換マークが見えなくなったら新しいリムと交換してください。
⇒交換は販売店に依頼してください。

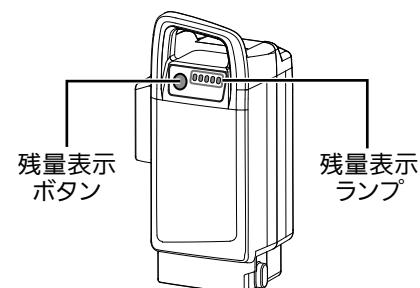
バッテリーライトについて



■ライトの取り付けが緩んだまま、走行しない
(前方を照らす角度が狂い、衝突や転倒によるけがのおそれ)
⇒乗るまえに点検してください。

■ライトの光を見続けない
(目を痛める原因)

■夜間走行する場合、バッテリー残量が少ない状態のときには乗車しない



(消灯後の乗車は衝突や転倒によるけがのおそれ)
⇒夜間走行中、ライトが点滅状態や消灯状態になった場合、押して歩いてください。
無灯火での夜間走行は、法令違反になります。
⇒走行中アシストが切れた場合、ライトはしばらく点灯したあと消灯します。

! 警告

ブレーキについて



■ブレーキ(前・後)の作動を確認せずに乗らない*

■ブレーキレバーの遊びが大きいままや、小さいまま走行しない*

■タイヤやブレーキから異音がする場合は使用しない*

※(ブレーキが利かなくなったり、利き過ぎたりすることがあり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

⇒ブレーキが利かないときやブレーキレバーの遊びが不適切なときは、すぐに販売店で点検を受けてください。

■ローラーブレーキグリスの補給には、ローラーブレーキ専用グリス以外は使用しない

(制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ)

⇒販売店でローラーブレーキ専用グリス(当社品番: NBP002)を補給してください。

■雨天時や下り坂ではスピードを出さない

(制動距離が長くなったり、スリップしやすくなったりするため、衝突や転倒によるけがのおそれ)

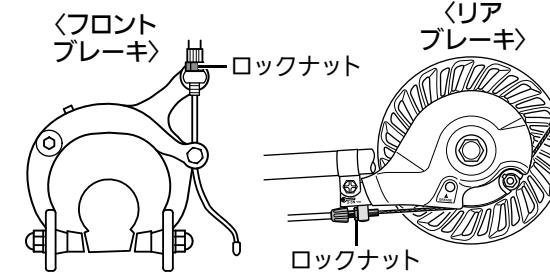
■フロントブレーキだけを強くかけない

(車輪がロックし、自転車が前方に転倒し、けがのおそれ)



必ず守る

■ブレーキ(前・後)のロックナットは確実に締め付ける(☞ 41 ページ)

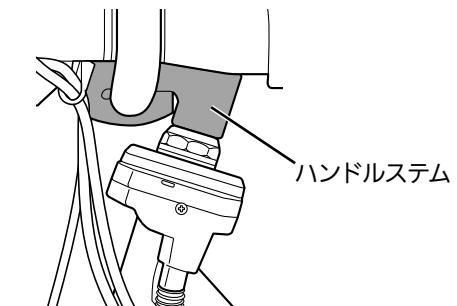


(ブレーキの調整が狂い、転倒や衝突によるけがのおそれ)

ハンドルについて



■ハンドルシステムは、必ず最も下げた状態で取り付ける



ハンドルシステム

(ハンドルシステムの折れにより転倒し、けがのおそれ)

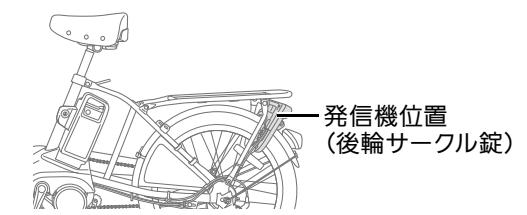
ラクイックシステムについて



■植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器装着者は発信機から 22 cm 以内に近づかない

(電波によりペースメーカー・除細動器の作動に影響を与えるおそれ)

●自転車本体の後輪サークル錠の発信機からラクイックシステムの電波が発信されます。



⇒そのほかの医療用電子機器を使用している方は、医師や医療用電子機器製造業者に影響を確認してからご使用ください。

乗車まえに後輪サークル錠が解錠しているか確認する

(解錠していない場合、カンヌキが車輪に引っ掛けられ、転倒によるけがのおそれ)

⇒ラクイックシステムの場合、相互認証ができておらず、後輪サークル錠が解錠していないときがありますので、必ず確認してください。

安全上のご注意(つづき)

! 警告

前車輪旋回抑制機構について

前車輪旋回抑制機構(スタピタ2S)：スタンドを立てるとハンドルが回りにくくなる機構

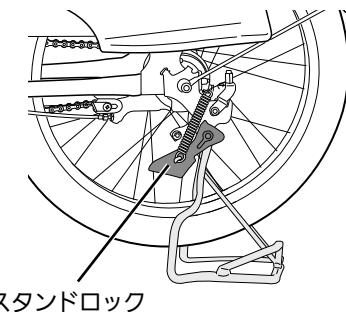
- 禁止** ■幼児をチャイルドシートの上で立たせない
(前車輪旋回抑制機構の抑制力以上の力が働き、前車輪が回って自転車が転倒し、けがのおそれ)

- 必ず守る** ■チャイルドシートのシートベルトを外したらすぐに幼児を降ろす※
■自転車を停止させ、幼児を乗せたまま自転車から離れず、すぐに幼児を降ろす※
※(幼児が立ったりあはれたりすると、前車輪旋回抑制機構の抑制力以上の力が働き、前車輪が回って自転車が転倒し、けがのおそれ)

- スタンドを走行状態にしたとき、ハンドルがスムーズに操作できることを確認してから乗る
(ハンドルの旋回が抑制されて、転倒によるけがのおそれ)
⇒スタンドを跳ね上げてもハンドルの旋回が抑制される場合は、ご使用を中止し、販売店にご相談ください。

スタンドについて

- 必ず守る** ■荷物の積み降ろしや、幼児の乗せ降ろしをする際には、安全のためスタンドロックが正常なロック位置にあることを確認する
(スタンドが跳ね上がり、転倒によるけがのおそれ)



〈正常な位置〉

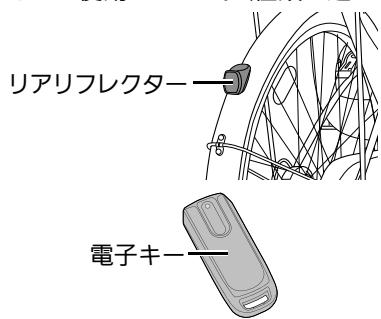
- 幼児を乗せてスタンドの操作をする場合は、十分練習してから使用する
(ふらつきや転倒によるけがのおそれ)

ボタン・コイン電池について



- ボタン・コイン電池は次のような使いかたをしない
 - 充電器などで充電する
 - 電池を火の中に投入する
 - 電池をショートさせる
 - 電池の $\oplus\ominus$ を逆にして使用する
(電池が発熱・液漏れ・破裂によるけがのおそれ)

- ボタン・コイン電池は乳幼児の手の届く所に置かない
(誤って飲み込むと、身体に悪影響)
⇒万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。
- ボタン・コイン電池はリアリフレクター、電子キーに使用しています(種類は違います)。



チェーンについて



- たるんだまま走行しない
(チェーンのたるみが大きくなると、走行時にチェーンが外れやすくなり、転倒や衝突によるけがの原因)
⇒ご使用を中止し、販売店で調整してください。

サドルについて



- 乗るまえには、必ずがたつきやすれが無いか点検をする



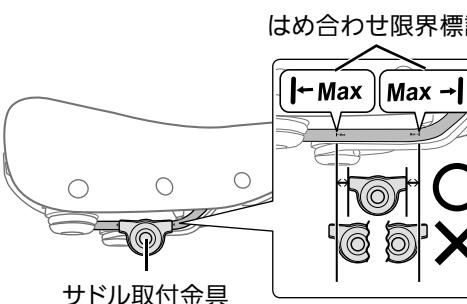
舟線 シートポスト
(シートポストや舟線が折れたり、固定が不安定になつたりし、転倒によるけがのおそれ)
⇒サドルのがたつきやすれがある場合は、ご使用を中止し、販売店にご相談ください。

! 警告

サドルについて



- サドル取付金具は、はめ合わせ限界標識を越えて固定しない



(舟線が折れ、転倒によるけがのおそれ)
⇒固定は販売店にご依頼ください。

定期点検は



- 定期点検と整備は、異音がしたり、異常を感じたとき、それ以外でも必ず6か月に1回(初回を除き)実施する

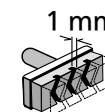
(異常や故障の発見がおくれ事故発生によるけがのおそれ)

⇒必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士・自転車技士(自転車組立整備士)により点検・整備をお受けください。

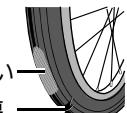
- ・初回(2か月以内)の点検と整備
お買い上げ2か月ぐらいのご使用で、各部にねじの緩みが出ることがあります。
- ・2回目以降(6か月ごと)の点検と整備
安全にご愛用いただくため、お買い求めの販売店または修理代行店に依頼し、必ず継続してお受けください。

定期点検は

- ブレーキケーブル・変速ケーブルは、外観上異常が無くても2年に1回は、交換する※
- ブレーキシューは、溝の残りが、1mmになるまえに交換する※



- ブレーキシューは、リムにあった純正ブレーキシュー(当社品番:NBC064FF)に交換する※
- タイヤは、接地面(トレッド)の溝がなくなるまえに交換する※



※(ブレーキが利かなくなり、スリップのため転倒によるけがのおそれ)
⇒タイヤは仕様(☞88ページ)のタイヤ寸法にあったものと交換してください。
⇒交換は販売店に依頼してください。

- スタピタケーブル(☞26ページ)は、外観や作動に異常が無くても2年に1回は点検・調整し、必要に応じて交換する
(ハンドルロックがかかり、バランスを崩して転倒によるけがのおそれ)
⇒点検・調整や交換はお買い求めの販売店または修理代行店に依頼してください。

消耗品を交換するときは



- 純正部品を使用する
(純正部品以外の使用で故障や事故発生によるけがのおそれ)
⇒交換はお買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士・自転車技士(自転車組立整備士)に依頼してください。

安全上のご注意(つづき)

⚠ 警告

自転車に乗るまえに



■乗るまえの点検は必ず行う*

必ず守る



⇒点検の詳細については 37 ページを参照してください。

■自転車を身体に合わせる*



⇒正しい姿勢で乗車できるよう、上図のように販売店で調整してもらってください。

⇒操作して次のことを確認してください。

- ①円滑なペダリングができる。
- ②ブレーキや変速機が確実に操作できる。
- ③ハンドル操作が容易にできる。



■自転車に慣れるまでは、車が通らない平坦な場所(公園や広場など)で十分練習する*

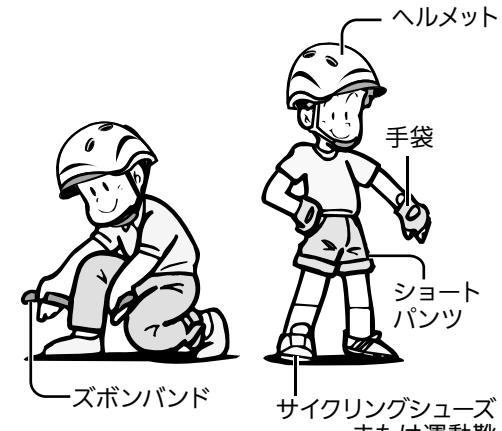
必ず守る



⇒よく練習してから一般道路でお乗りください。

⇒電動アシスト自転車の場合、慣れるまでは「ロング」で走行してください(☞ 67 ページ)。

■安全な服装を着用する(車輪に巻き込まれやすい服装はしない)*



⇒ズボンの汚れやチェーンへの巻き込み、ギアへの引っ掛かりなどを防止するために、チェーンやギアがむき出しの自転車に乗るときは、ズボンの裾をズボンバンドで止めてください。

※(衝突や転倒によるけがのおそれ)

⚠ 警告

安全に乗るために



■安全装置は、取り外さない

(外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれ)(☞ 36 ページ)



■発進時または低速走行時は、ペダルを強く踏み込まない



(思わぬ急発進やアシストの働きにより転倒や衝突事故によるけがのおそれ)

⇒強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。

■停車中は、ブレーキ(前・後)をかけた状態にし、ペダルに足を乗せない



(不用意なアシスト力が働き転倒や接触事故によるけがのおそれ)

■スピードをだしすぎない



(衝突や転倒、接触事故によるけがのおそれ)

■発進時や、きつい上り坂走行時は重い変速位置を選ばない(☞ 66 ページ)*

■バッテリー残量が少ない状態(残量表示が点滅状態)のときには、上り坂で乗車しない*



※(アシストが切れたときに、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

■スタンドを下げた状態で、乗らない(発進しない)

(スタンドが変形・破損して、走行中に引っ掛けたりバランスを崩して転倒し、けがをするおそれ)
⇒スタンドを上げてから乗車してください。

■後輪サークル錠は走行中に作動させない

(車輪がロックされ転倒によるけがのおそれ)

安全上のご注意(つづき)

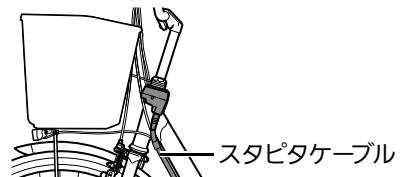
! 警告

安全に乗るために



- パンクしたままやタイヤの空気圧を確認せずに走行しない
(ハンドルが取られ、転倒や衝突によるけがのおそれ)

- 走行中にスタンドを下げたり、スタビタケーブルを引っ張らない



(ハンドルが固定され、転倒によるけがのおそれ)

- けんけん乗り(けり乗り)しない



(転倒や接触事故によるけがのおそれ)
⇒ペダルを強く踏めば、モーターがそれに応じて強いアシスト力を出すため、乗り込む際に自転車が飛び出し、危険です。必ずサドルにまたがって、発進してください。

- けんけん乗り(けり乗り)とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動を付けてサドルにまたがる乗りかたです。

変速するときは



- 一度に2段変速しない
(一気に変速すると、ショックが大きく、転倒によるけがのおそれ)
⇒1段ずつ変速してください。

- ペダルを踏み込みながら変速しない
(変速操作に対し、実際のギアの切り替えが遅れ、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

荷物を積むときは



- 積載条件(積載質量、積載物の大きさ)から外れる荷物を積まない(☞58・59ページ)



(リアキャリアやフレームが破損したり、ふらついて転倒によるけがのおそれ)

- リアキャリアを改造および改造はしない
(部品が破損したり、外れたりし、転倒によるけがのおそれ)

- 荷物を載せたまま自転車を押し歩きするとき、ハンドルを大きく切ったり、傾けたりしない

(ハンドルを大きく切った際に、自転車が左右に傾きやすくなり、荷物の重みで転倒によるけがのおそれ)

⇒傾斜面や路面の凹凸がある所では、特に起こりやすくなりますのでご注意ください。



- リアキャリアやバスケットの荷物でリフレクターやライトの光を遮らないようにする
(事故によるけがのおそれ)

- 荷物は確実に固定する

(バランスを崩したり、ひもやベルトを後車輪に巻き込んで、転倒によるけがのおそれ)

- 荷物を積載するときは、安全の確保できる場所で、十分練習してから乗車する

(自転車のハンドル操作や走行安定性を損ない、ブレーキをかけたときに制動距離が長くなり、バランスを崩したり、ブレーキの利きが悪くなることにより、転倒によるけがのおそれ)

! 警告

交通事故を防ぐために

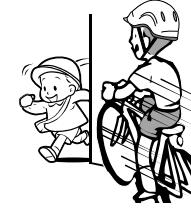


- 車の横を走るときは!
■開くドアや人の飛び出しに注意する*



学校や公園が近くにあるときは!

- 子供の飛び出しに注意する*



交差点を通るときは!

- 左折車に巻き込まれないように注意する*



※(事故による重大なけがのおそれ)

**自動車や子供に注意!
安全を確認し、乗りましょう**



転倒事故を防ぐために



- こんな使いかた
■走行以外に使わない(踏み台代わりなど)



(転倒によるけがのおそれ)

- スポークの間に固体物(ボールなど)を入れて走らない



(車輪に巻き込まれ、車輪の異常ロックや転倒によるけがのおそれ)

こんな乗りかた

- 傘やステッキ、釣りざおなどを車体に差し込んだり、釣り下げたりして乗らない*



- 路上の異物を不用意に踏まない*

- 車輪の近くに取り付けてある部品の固定が確実であるかを確認せずに乗らない*

- ブレーキをかけたときにブレーキシューがタイヤに接触していたり、リムからはみ出しているいかを確認せずに乗らない*

※(車輪に巻き込まれ、車輪の異常ロックによる転倒や、ほかの人や物にぶつかって事故によるけがのおそれ、特に前輪への巻き込みは前転により大きな被害になるおそれ)

安全上のご注意(つづき)

⚠ 警告

転倒事故を防ぐために



- 手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつないだりしない



(荷物やひもが、車輪に巻き込まれ、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

- 巻き込みやすいものを車輪やギアに近接させて乗らない(長いスカートやマフラー、傘やペットのひもなど)



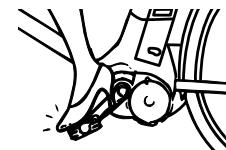
(車輪やギアに巻き込まれ、車輪の異常ロックや転倒によるけがのおそれ)

- 土踏まずやかかとでペダルを踏まない



(カーブでつま先が前車輪に当たり転倒によるけがのおそれ)

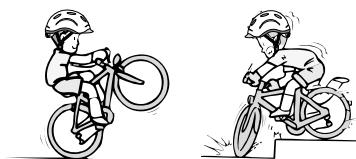
- 滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない



(ペダルから足が外れ、転倒によるけがのおそれ)



- アクロバット的な乗りかたはしない*
- 凹凸の激しい所を走らない(段差の乗り降りや溝など)*



(※転倒や落車によるけがのおそれ)
⇒段差を超える場合は、降りて押して歩いてください。やむを得ず、低い段差を乗り越える場合は十分に注意してください。滑ったり、バランスを崩したりするおそれがあります。

- カーブで曲がる側のペダルを下げない



(ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれ)

- 合図以外は、ハンドルから手を離さない



(バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

⚠ 警告

転倒事故を防ぐために



- 雨・風・雪のひどいときは乗らない



(バランスを崩したり、スリップすることで転倒によるけがのおそれ)

⇒雨の降り始めでも、路面の一部がぬれ、滑りやすくなります。乾いた路面からぬれた路面に入るときはスリップによる転倒に注意してください。

- 滑りやすい所では乗らない(積雪や凍結した道・ぬれた路面・石板(大理石など)・マンホールや側溝のフタ・路面上の表示(白線など)・タイル張りや点字ブロック・路肩の砂や砂利・ぬかるみなど)



(スリップして、転倒によるけがのおそれ)
⇒降りて、押して歩いてください。

保管するときは



- 不安定な場所に自転車を保管しない
(自転車が動き出したり、風などで自転車が転倒したりして事故につながるおそれ)

運搬するときは



- 自転車を運搬するときはバッテリーを外す
(自動車への積載時など、運搬の際に不意にペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転し、巻き込まれてけがをするおそれ)

包装の袋などは



- 取扱説明書が入っているポリ袋や、サドル・バスケット・付属品などのポリ袋は幼児の手の届く所に置かない
(頭からかぶるなどしたときに、口や鼻をふさぎ窒息するおそれ)

安全上のご注意(つづき)

⚠ 警告

チャイルドシートを使用するときは

- 必ず守る**
 - チャイルドシートに幼児を乗せる場合は 51 ~ 59 ページの内容に従う
(幼児が落下して、けがをするおそれ)

- 乗車および走行中は、必ず幼児にヘルメット(SG 基準認証済みの自転車用ヘルメットと同等以上のもの)を着用させる



(幼児がけがをするおそれ)
⇒ヘルメットを着用させないでチャイルドシートに幼児を乗せると、事故時に致命的な傷害を受ける確率が高くなります。

- 適用年齢、体重制限、自転車のリアキャリアに表示されている積載重量、身長制限、定員を守る(☞ 51・58 ~ 59・91 ページ)*
- 乗車および走行中は、必ず幼児にグリップを持たせ寝ないように留意する*
- 乗車および走行中は、必ず幼児にシートベルトを着用させ、正しい姿勢を取らせる*
※(幼児が落下して、けがをするおそれ)

- 幼児を乗せるときは必ず靴をはかせる
(幼児の足が車輪に巻き込まれたり、障害物に接触し、けがをするおそれ)

- 走行中は、幼児の足部に注意する
(足のせ部分(ステップ)から外れると、足が車輪に巻き込まれたり、障害物に接触し、けがをするおそれ)

- 幼児の体重は、チャイルドシートが指定する最大適用体重以下であることを確認する(☞ 58 ページ)
(適用体重を越えて乗車すると破損・折損が生じ、事故またはけがをするおそれ)
⇒本自転車は幼児 2 人同乗用自転車です。幼児 2 人を乗せる場合は、弊社指定のチャイルドシートを装着してください(☞ 91 ページ)。

- 必ず守る**

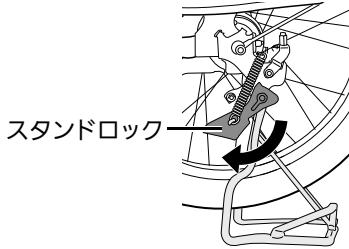
- 使用中、幼児の手足が届く範囲に錠がある場合は、幼児が操作しないように注意する
(車輪がロックされて自転車が転倒し、けがをするおそれ)

- ヘッドレストが幼児の頭部中心(耳の上)よりも高くなっているか確認する*
- ヘッドレストが確実に固定されているか確認する*
※(幼児がけがをするおそれ)

- ヘッドレストの高さ調節をしてからシートベルトの調節をする
(シートベルトの締め過ぎや緩みによる落下により、幼児がけがをするおそれ)

- 幼児は荷物などよりもあとに乗せ、最初に降ろす*

- 幼児の乗せ降ろしの際は、ハンドルをまっすぐにした状態で平坦な場所に駐輪し、必ず幼児を抱いて行う。また、スタンドロックがかかっているか確認して行う*



- スタンド操作時は、ハンドルや車体をしっかりと押さえる*

- グリップバーが確実に固定されていることを確認する*

- 幼児が 1 人でチャイルドシートに乗り降りしないように注意する*

- リアキャリア、スタンドの取り付けねじの緩みやがたつきが無いことを確認する*

⇒がたつき・緩みがある場合はご使用を中止し、販売店で調整してください。

※(自転車が転倒し、幼児が落下してけがをするおそれ)

⚠ 警告

チャイルドシートを使用するときは

- 必ず守る**

- 幼児を乗せるときは、安全の確保できる場所で十分練習してから乗車する
(自転車にチャイルドシートを取り付け、幼児を同乗させることにより、自転車のハンドル操作や走行安定性を損ない、ブレーキをかけたときに制動距離が長くなり、バランスを崩したり、転倒によるけがのおそれ)

- 幼児を乗せると前方下方の視野が悪くなるので注意して運転する
(バランスを崩し、接触事故などによるけがのおそれ)

- 急ブレーキ、急ハンドルは避ける
(転倒や衝突によるけがのおそれ)

- 炎天下での駐輪時、チャイルドシートが熱くなっていないか確認してから幼児を乗せる
(幼児がやけどするおそれ)

- 付属のクッションやカバー類は正しく使用する
(誤って使用すると、幼児がけがをするおそれ)

- 幼児を乗せるまえに、後輪サークル錠解錠動作を行い、後輪サークル錠が解錠していることを必ず確認する
(後輪サークル錠が施錠状態のままスタンド解除動作を行うと、車体のバランスが崩れて転倒し、けがのおそれ)

- 幼児をチャイルドシート(後用)にだけ乗せた状態で押し歩きする場合は、ハンドルを両手でしっかりと押さえる



(後方へ転倒したり、幼児がけがをするおそれ)
⇒チャイルドシート(後用)では重心が後寄りになりますのでご注意ください。

- 禁止**

- チャイルドシートに幼児を座らせている場合、可動部に触れさせない
(車輪やギアに手足を巻き込まれ、けがをするおそれ)

- 走行中、幼児に手元スイッチ、およびブレーキレバーを触らせない
(アシストが切れたり、ブレーキがかかったりしてバランスを崩し、自転車が転倒してけがをするおそれ)

- チャイルドシート以外の場所に幼児を乗せない*

- チャイルドシートに幼児を乗せているときは、短時間であっても、自転車から離れない*

- 幼児を乗せたまま駐輪しない*

- グリップバーを持って自転車を動かさない*
※(自転車が転倒し、幼児が落下してけがをするおそれ)

- チャイルドシートには荷物を載せない
(バランスを崩し、自転車が転倒し、けがをするおそれ)

- 当社自転車用のチャイルドシート(前用)のため、ほかの目的(バスケットとして荷物を載せるなど)に使用しない
(チャイルドシートが破損して、幼児がけがをするおそれ)

- チャイルドシートには幼児は 1 人しか乗せない*

- チャイルドシートが、自転車に確実に取り付けられていることを確認し、ねじの緩みがたつき・破損・変形などがある状態での使用はしない*

- 転倒などの強い衝撃を受けたチャイルドシートは、固定部のがたつき・変形・ひび割れなどの異常があれば使用しない*

※(幼児が落下して、けがをするおそれ)

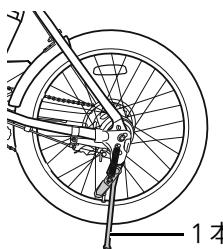
安全上のご注意(つづき)

⚠ 警告

チャイルドシートを使用するときは



- 1本スタンドに交換しない



(自転車が転倒し、幼児が落下してけがをするおそれ)

⇒必ず、純正の両立スタンドをご使用ください。

- チャイルドシートを改造したり、不当な修理をしない

(思わぬ事故につながり、けがをするおそれ)



シートベルトについて

- シートベルトが緩んだ状態で走行しない*
- シートベルトに傷が付いた状態で走行しない*



(※幼児が落下してけがをするおそれ)



- グリップバーの開閉に関係なく、幼児を乗せたらすぐにシートベルトを装着する*
- シートベルトを外したらすぐに幼児を降ろす*

※(幼児が立ったり、あはれたりすると、不安定で自転車が転倒し、けがのおそれ)
⇒グリップバーは幼児の抜け出しや立ちあがりを防止するものではありません(☞53ページ)。

- 調節ベルトが車輪に巻き込まれないよう注意する

(車輪がロックされて自転車が転倒し、けがをするおそれ)

- 調節ベルトを引き、シートベルトを幼児の体格に合わせ調節する

(長過ぎると幼児が飛び出してけがをしたり、首に巻き付き窒息するおそれ)

- 左右の差込タングを、確実にバックルに差し込む

(幼児が抜け出し、落下しけがをしたり、シートベルトが首に巻き付き、窒息するおそれ)

⇒体格や服装によって、タングがバックルに差し込めない場合は、シートワッシャン(☞28ページ)の使用を中止してください。

- チェストクリップは必ず付ける

(幼児が抜け出し、落下しけがのおそれ)

⚠ 警告

チャイルドシートを使用するときは



サンシェード・フットカバーについて

- 強風のときはサンシェードを絶対に使用しない(走行および駐輪時)

(風の影響を受け転倒によるけがのおそれ)

- 確実に装着されているか確認し、破損や不具合などがある場合は絶対に使用しない

(車輪などに巻き込んだり、バランスを崩したりして転倒によるけがのおそれ)

- 走行中にサンシェードの開閉操作をしない

(バランスを崩し、接触事故などによるけがのおそれ)
⇒必ず、停車した状態で操作してください。

- サンシェードに幼児をぶらさがらせない

(幼児が落下したり、けがをするおそれ)

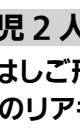
- 破れ、すり切れ、ほつれなどが生じた場合使用しない

(走行中に外れ、車輪に絡まるおそれ)



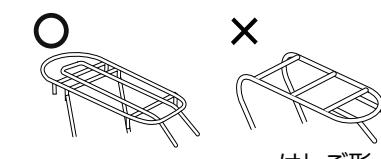
- 正しく取り付けの上、使用する

(取り付けが不完全な場合、自転車に巻き込み転倒するおそれ)



幼児2人同乗するとき

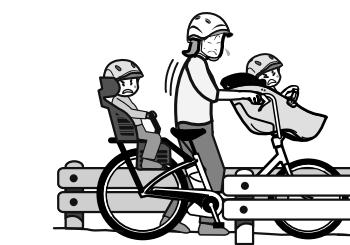
- 「はしご形」のパイプキャリアなど、外枠だけのリアキャリアには交換しない



はしご形

(チャイルドシートの取付金具が反って変形する場合があり、使用中に振動などで締め付けが緩み、チャイルドシートが脱落するおそれ)

- 幼児を乗せたまま自転車を押し歩きするとき、狭い所や混雑した場所には進入しない



(歩行者や自転車と接触し、乗せている幼児の動き、路面の凹凸・傾斜などにより、自転車の立て直しができずにバランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

- 幼児にチャイルドシートのステップ、チェーンケースやフレームを踏み台にして乗り降りさせない*



- 幼児にステップおよび座面の上に立ちあがらせない*

(ステップやチェーンケースが変形・破損したり自転車が倒れたりし、幼児がけがをするおそれ)

安全上のご注意(つづき)

⚠ 警告

チャイルドシートを使用するときは



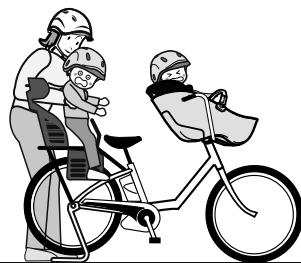
禁止

- 幼児を乗せたまま自転車を押し歩きするとき、ハンドルを大きく切らない



(ハンドルを大きく切った際に、自転車が左右に傾きやすくなり、転倒によるけがのおそれ)
⇒傾斜面や路面の凹凸がある所では、特に起こりやすくなりますのでご注意ください。

- 前に幼児を乗せたまま、後ろの幼児の乗せ降ろしをしない



(バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)



必ず守る

- 幼児2人を乗せる場合、必ず弊社指定のリアキャリア取付式チャイルドシートを装着する

(破損、変形によりけがをするおそれ)
⇒この自転車は幼児2人同乗用自転車ですが、指定品番(☞91ページ)のチャイルドシートを取り付けたときに安全基準に適合するように設計されていますので、必ず指定品番のチャイルドシートを使用してください。弊社指定以外のチャイルドシートを装着すると、幼児2人同乗基準に適合しなくなります。

- リアキャリア取付式チャイルドシートを取り付けるときは、乗車・運転に支障の無い範囲でできる限り前寄りに取り付ける

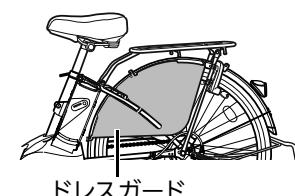
(バランスを崩して転倒によるけがのおそれ)
⇒前に寄り過ぎて取り付けると、ペダリング時にチャイルドシートに足が当たりますのでご注意ください。



必ず守る

- リアキャリア取付式チャイルドシートを取り付けるときは、リアリフレクターの後方からの視認を妨げないように取り付ける(視認性が悪くなると、事故によるけがのおそれ)

■乗車および走行中は、必ず幼児にシートベルトを着用させ、正しい姿勢を取らせる
(幼児が落下して、けがをするおそれ)
⇒乗せることができる幼児は、年齢1歳(12か月)以上ですが、特にチャイルドシート(後用)は目が届きにくいため、幼児が急に立ちあがったりしても気づかないおそれがあります。必ず、シートベルトを装着してください。



(車輪に手足を巻き込まれ、けがをするおそれ)
⇒ドレスガードが装備されていない場合は、販売店にご相談ください。

- ステップが調整できるチャイルドシートを取り付けるときは、必ず幼児の体型にあつた位置に調整し、取り外したりしない※

■走行中は、幼児の足が車輪に巻き込まれないよう、幼児の足はステップに乗せる※
※(幼児の足が車輪に巻き込まれたり、障害物に接触し、けがをするおそれ)

- 幼児を2人乗せることにより全体の質量が増大し、衝突などの際の衝撃が大きくなり同乗幼児および乗員の被害が大きくなるので十分に注意する。また、歩行者などと衝突した場合には歩行者などの被害が大きくなるので十分に注意する

(バランスを崩し、接触事故などによるけがのおそれ)

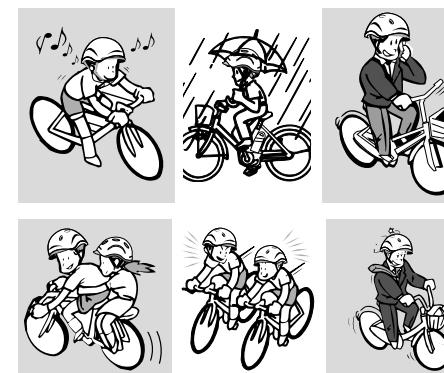
⚠ 警告

自転車の交通安全ルールについて



禁止

- 次の様な運転は絶対にしない※
 - ヘッドホンを使用しながらの運転
 - 飲酒運転 ●傘差し運転 ●2人乗り
 - 携帯電話を操作しながらの運転
 - 信号無視 ●並進



⇒小学校就学の始期に達するまでの者をチャイルドシートに1人乗せる場合などを除き、2人乗りは禁止です(幼児2人同乗用自転車を除く)。

⇒「並進可」標識のある場所以外は並進は禁止です。



必ず守る

- 夜間やトンネル内、視界の悪いときは、ライトを点灯して通行する※

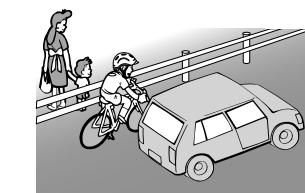


⇒夜の無灯火での運転は法令違反です。暗い所ではライトをつけて通行しましょう。

⇒夜間および視界の悪いときの無灯火走行は大きな事故につながります。前照灯がつかない場合やリフレクターが破損したり汚れているときは、押して歩いてください。

- 乗車するときは必ず自転車用ヘルメットを着用する※
⇒改正道路交通法の施行により、2023年4月1日から自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化されました。

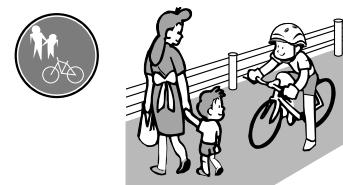
- 自転車は、車道を通行する※



⇒歩道と車道の区別のある所は、自転車は車道の左端に寄って通行しましょう(路側帯がある場合でも、自転車の通行は道路の左側部分に設けられた路側帯に限定されます)。

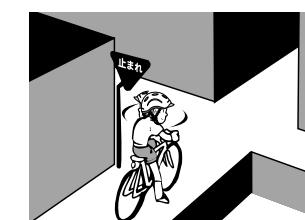
⇒次の様な場合は、歩道通行ができます。

- 自転車歩道通行可の標識などで指定されている場合
- 運転者が児童、幼児、70歳以上の場合
- 車道や交通の状況から見てやむを得ない場合



⇒歩道は歩行者優先、車道寄りを徐行してください。

- 交差点では一時停止と安全確認を行う※



⇒一時停止の標識を守り、広い道に出るときは、徐行と安全確認をしてください。

⇒信号機がある場合は、信号を必ず守りましょう。

※(交通ルールを守らないと衝突や転倒によるけがのおそれ)

使用上のお願い

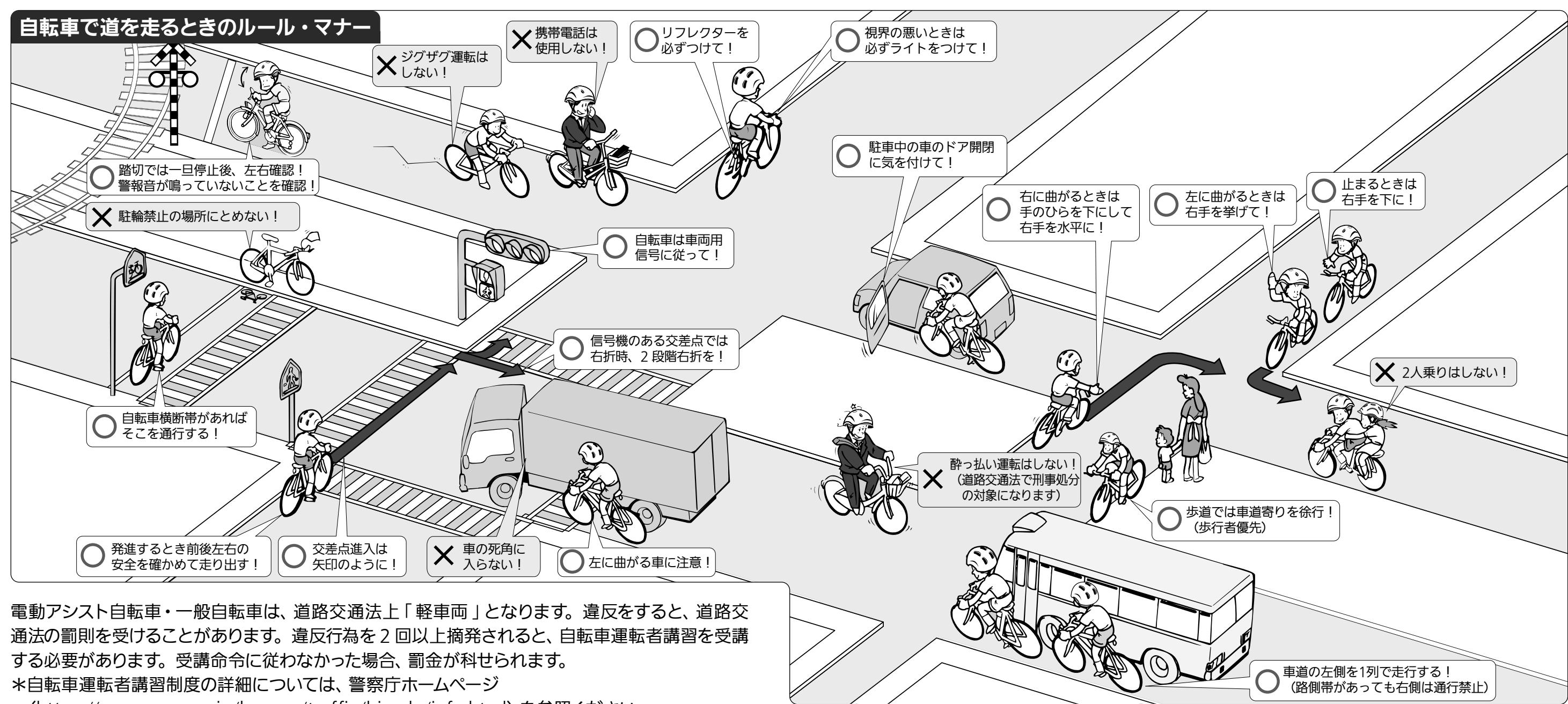
必ずお守りください

けがをせずに、ほかの人にも迷惑をかけないために、乗りかた・交通ルール・道路標識を守りましょう。
 ●安全のために、自転車用ヘルメットを着用してください
 ●万一の事故に備え、対人・対物賠償保険に加入されることをお勧めします。
 (加入義務化の地域もありますので、ご使用先の自治体にご確認ください)

ご使用のまえに

ご使用のまえに

自転車で道を走るときのルール・マナー



電動アシスト自転車・一般自転車は、道路交通法上「軽車両」となります。違反をすると、道路交通法の罰則を受けることがあります。違反行為を2回以上摘発されると、自転車運転者講習を受講する必要があります。受講命令に従わなかった場合、罰金が科せられます。

*自転車運転者講習制度の詳細については、警察庁ホームページ

(<https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/bicycle/info.html>) を参照ください。

自転車運転者講習の対象となる危険行為

- 信号無視
- 指定場所一時不停止等
- 酒酔い運転
- 歩道通行時の通行方法違反
- 遮断踏切立入り
- 制動装置(ブレーキ)不良自転車運転
- 通行禁止違反
- 交差点安全進行義務違反等
- 通行区分違反
- 歩行者用道路における車両の義務違反(徐行違反)
- 交差点優先車妨害等
- 安全運転義務違反
- 環状交差点安全進行義務違反等
- 路側帯通行時の歩行者の通行妨害
- 妨害運転(交通の危険のおそれ)

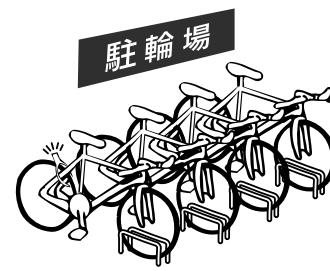
自転車安全利用五則

1. 自転車は、車道が原則、歩道は例外
2. 車道は左側を通行
3. 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
4. 安全ルールを守る
 - 飲酒運転・2人乗り・並進の禁止
 - 夜間はライトを点灯
 - 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
5. ヘルメットを着用

乗ったあとは

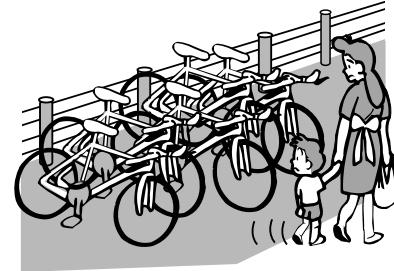
決められた場所に駐輪してください

- 駐輪するときは、ほかの人に迷惑にならないよう、決められた場所にとめましょう。
- 盗難防止のため、必ずかぎをかけましょう。
- 後輪サークル錠は、盗難予防に絶対的なものではありません。ワイヤー錠を使用するなど、二重施錠をお勧めします。



自転車放置禁止

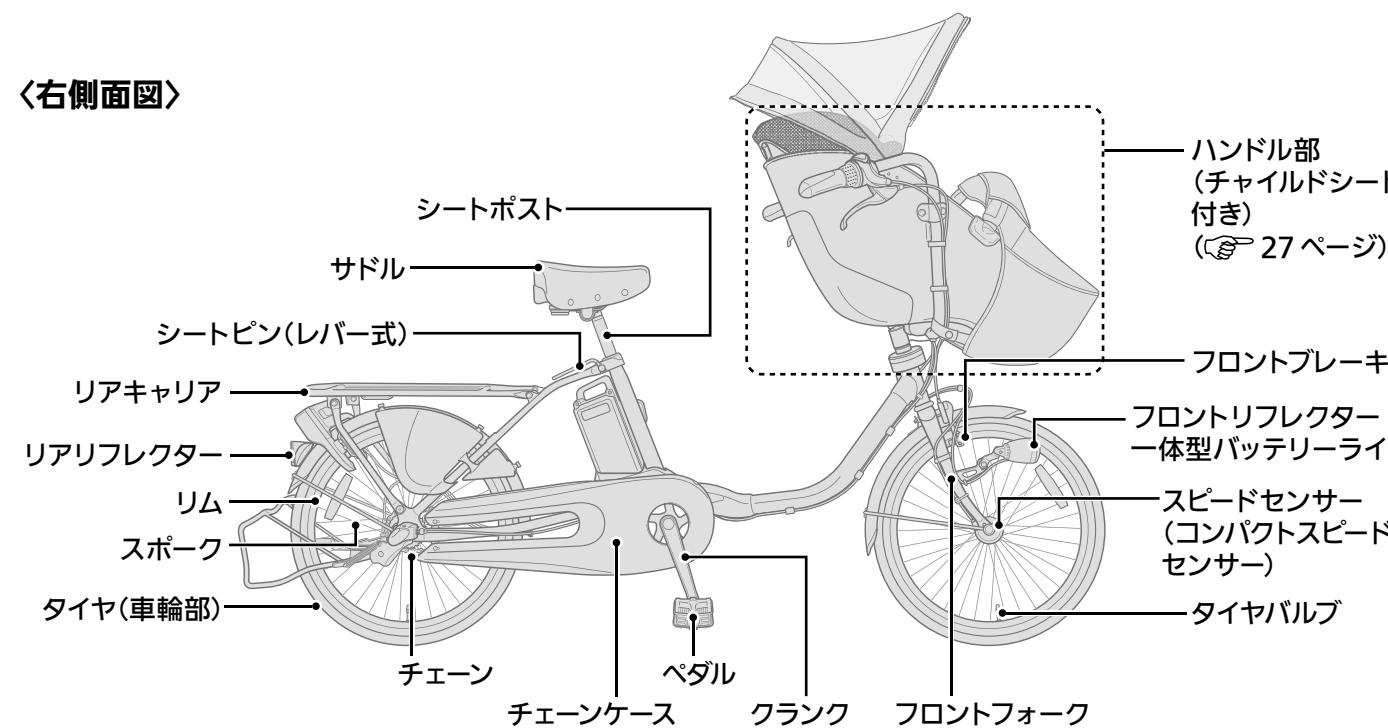
- 自転車の放置は、ほかの人に迷惑をかけるばかりでなく、環境悪化の原因となります。絶対にやめましょう。



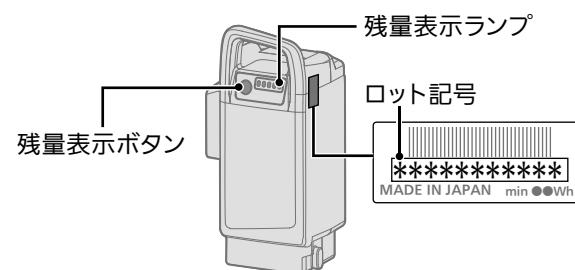
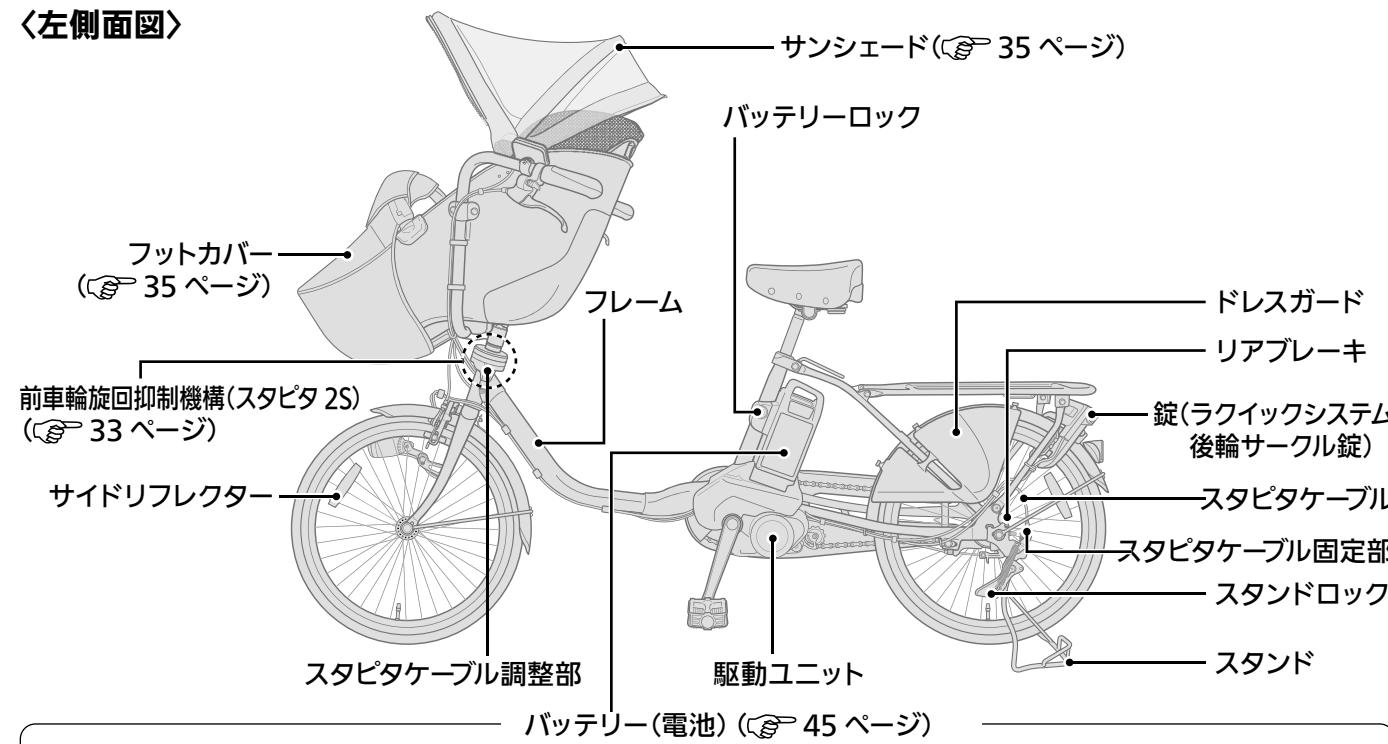
各部のなまえとはたらき

■自転車本体

〈右側面図〉



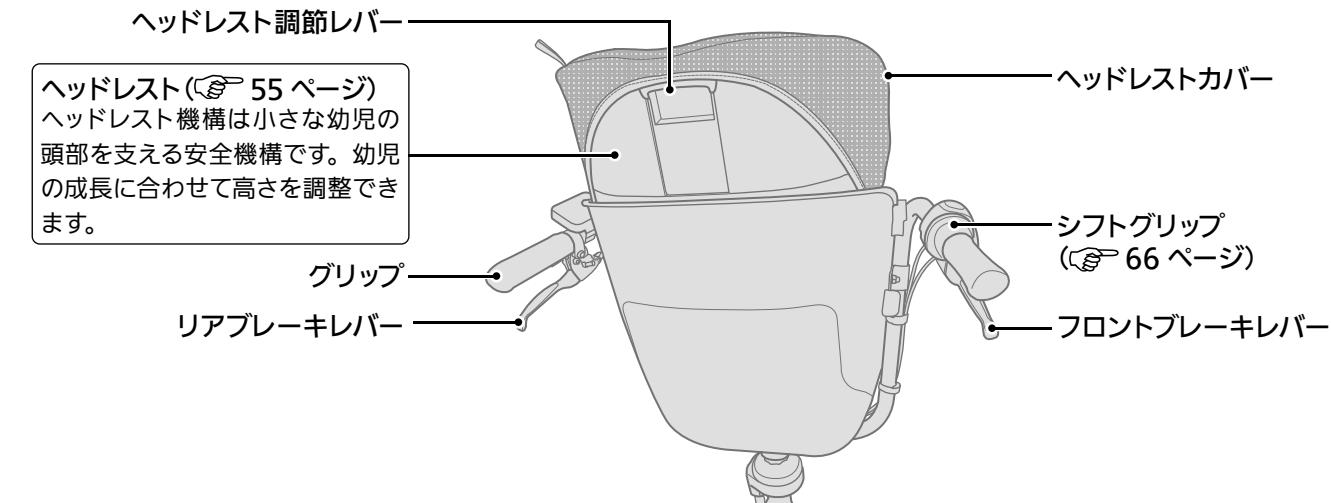
〈左側面図〉



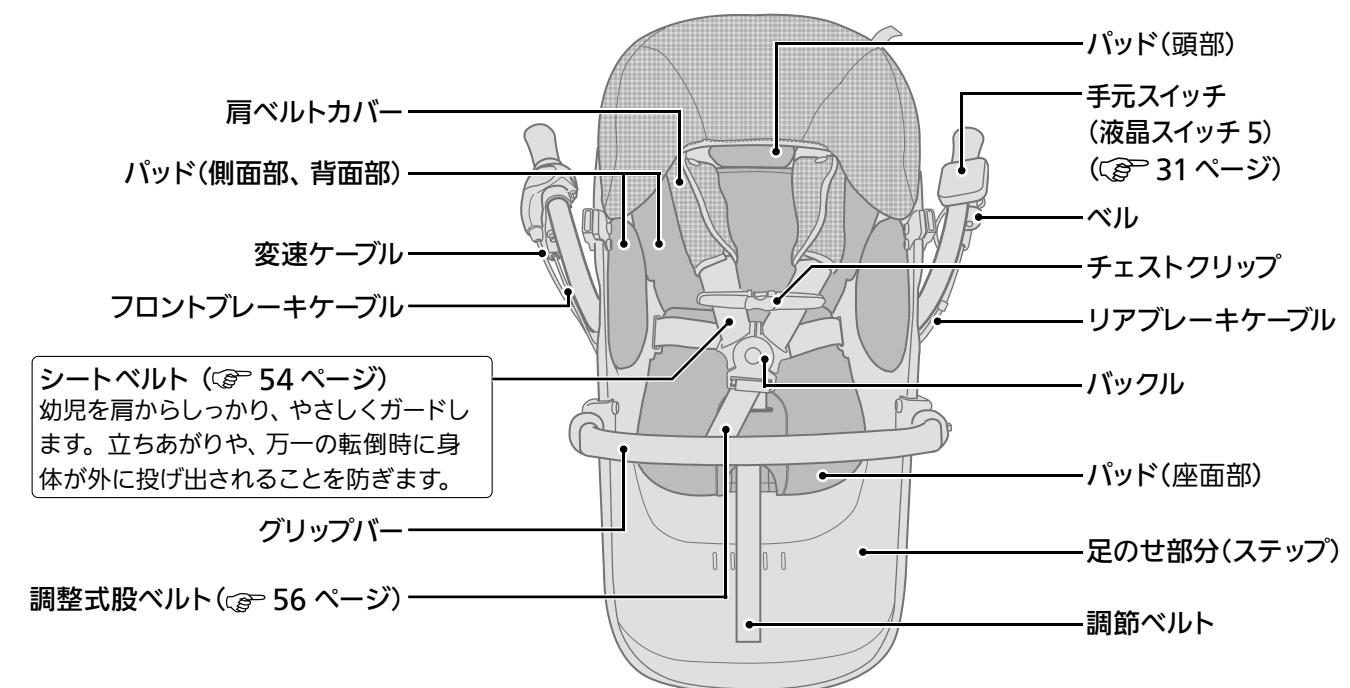
お願い

- 残量表示ランプ部と意匠マーク部の保護フィルムをはがしてご使用ください。
- バッテリーは特別保証の対象部品です(参照 87 ページ)。バッテリー管理のため、ロット記号を控えておいてください(参照 95 ページのバッテリーロット記号欄に記入しておかれることをお勧めします)。

■ハンドル部(チャイルドシート付き)



〈上から見た図〉

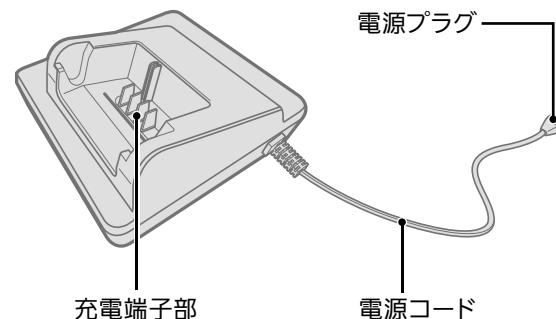


各部のなまえとはたらき(つづき)

■付属品

自転車本体のほかに、下記のものがすべて含まれていることをご確認ください。

●充電器



●電子キー(1個)※電子キー内のコイン電池はモニター用です。

初めて使用する場合や、コイン電池を交換したときは ON/OFF ボタンを長押しして、作動可能状態にしてください。



△ 注意



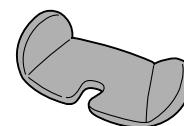
- 以下のようなことはしない
 - 衝撃を与えること
 - 落下 ●水ぬれ ●水没
(故障するおそれ)

お知らせ

- 電子キーの ON/OFF だけではラクイックシステム(後輪サークル錠)は作動しません(☞ 30・60 ページ)。
- 付属の電子キーは登録済みです。追加で 2 個まで、合計 3 個まで電子キーを登録できます(追加の電子キーは別売品(☞ 91 ページ))。
- 電子キーのコイン電池は販売店にて交換されることをお勧めします(品番: CR2032)。
- 新しい電池に交換した場合の電池寿命は約 1 年です。

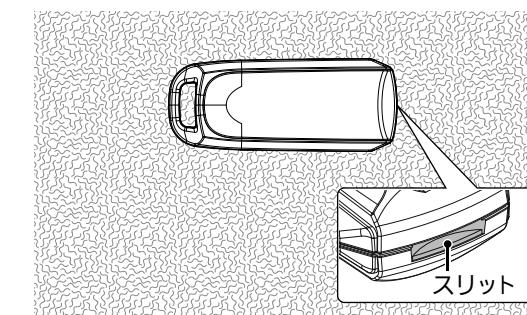
●取扱説明書(本書)

- 商品登録はがき
- 保証書
- ギュットあんしん傷害保険加入案内書
- ナット・キャップ(サドル最下時使用)
- チャイルドシート用シートクッション

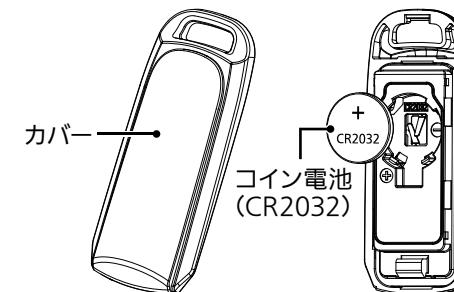


〈コイン電池の交換方法〉

- ①作業台など安定した所で厚手の布を敷いた上に電子キーを裏向けに置く
 - ・電子キーを安定させると楽にカバーを外せます。
 - ・ロゴ、ボタンの無い方が裏になります。



- ③古いコイン電池を取り出し、新しいコイン電池の+側(刻印のある側)をカバー側に差し込む



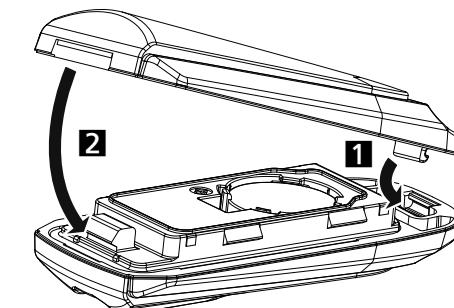
お願い

- カバーは正しい位置で取り付けられていることを確認してください。

- ②厚手の布を電子キーのスリットを覆うようにかぶせ、マイナスドライバーの歯先位置がずれないように軽く押さえながら回し、カバーを取り外す



- ④カバーを取り付ける
 - ・1側を引っ掛けてから2側をはめ込む。

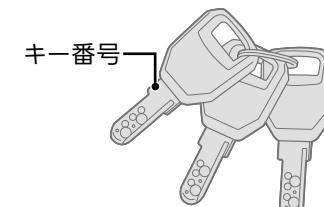


△ 注意



- マイナスドライバーを扱うときは十分に注意する
(刃先だけをするおそれ)

●キー(3 本)



後輪サークル錠を手動で解錠するときとバッテリーロックの両方に使用します。

お願い

- 電子キーとキーの両方を常に携帯してください。ただし、同時紛失しないよう別々に携帯してください。
- キーは紛失しないよう大切に保管し、キー番号は控えておいてください(95 ページのキー番号欄に記入しておかれるをお勧めします)。

キー番号は、キー本体と保証書に記載されています。

〈スペアキーの購入方法〉

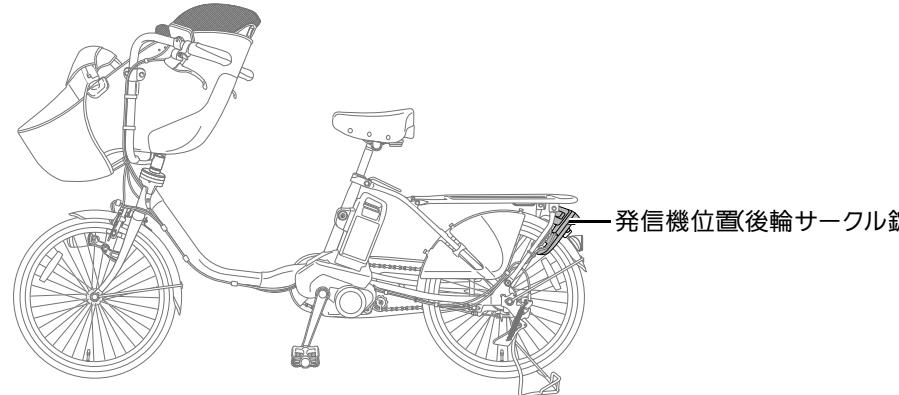
- 電子キー、またはキーを購入される場合はお買い求めの販売店にご相談ください。
- ※キーを紛失された際には、保証書とキー番号(電子キーは通信にて後輪サークル錠と個別認証を行いますのでキー番号はありません)が必要ですので、必ずご持参ください。

各部のなまえとはたらき(つづき)

■ラクイックシステムについて

ラクイックシステムは、自転車本体の後輪サークル錠と電子キーの間で相互認証を行い、手元スイッチの電源を入れることで、後輪サークル錠の解錠操作を行うシステムです。施錠操作は手動で行います。

発信機は、後輪サークル錠の上部です。



〈作動範囲〉

作動範囲は発信機位置より最小で約 1.2 m 以内、最大で約 3 m 以内の範囲です。

お知らせ

●ラクイックシステムは、微弱電波を使用しているため、使用環境により作動範囲が広くなったり、狭くなったりすることがあります。

また、以下の使用環境では正常に作動しないことがあります。

- ・電子キーの電池が消耗しているとき
- ・近くにテレビ塔や発電所、ラジオ局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
- ・電子キーと一緒にノートパソコン、ラジオ、携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- ・電子キーが金属製のものに接したり、覆われているとき(カバンの中に一緒に入っているなど)

●バッテリー残量表示ランプの LED が 1 つ点滅している場合、バッテリー残量が 0% のときがあります。このときはラクイックシステムでの解錠ができません。

お願い

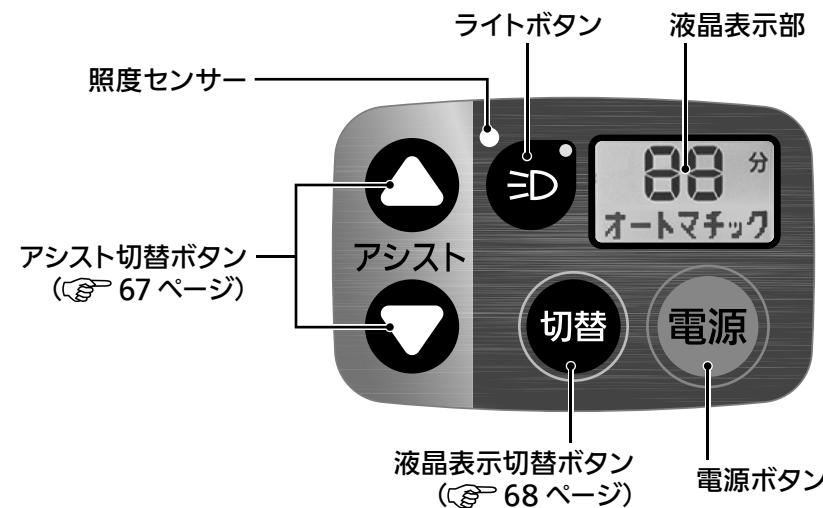
●ガラス越しや壁越しなどの隔てた場所でも電子キーがラクイックシステムの作動範囲内にあると、ほかの人でも解錠が可能です。自転車から離れていても電子キーが作動範囲内の場合は、ラクイックシステムを作動停止状態にしてください(☞ 28 ページ)。

●乗車時や自転車から離れるときは、必ず乗車者が電子キーを携帯してください。

■手元スイッチ(液晶スイッチ 5)

バッテリーライトの入切や、アシストの強さ(☞ 67 ページ) を変更できます。

バッテリー残量も確認することができます(☞ 68 ページ)。



- ・電源ボタンを「入」にすると、液晶表示部のバックライトが常に点灯し、表示が見やすくなります。

お知らせ

●偏光サングラス使用時は液晶画面が見にくくなる場合があります。

バッテリーライトの点灯について

電源が『入』の状態で周囲が暗くなると、照度センサーが働き自動で点灯します(オートライト機能)。明るくなると、自動で消灯します。

〈手動で点灯・消灯したいとき〉

手元スイッチのライトボタンを長押し(約 1 秒)すると、電源の入切に関係なく、バッテリーライトを点灯・消灯することができます。



- ・電源が入った状態で 10 分以上車両を放置すると、自動で消灯します。
- ・ライトボタンを操作すると、オートライト機能は働きません。
- ・手元スイッチの取り付け状態やご使用の周囲環境によって、意図しない点灯・消灯をする場合があります。必要に応じて、手動操作での点灯・消灯の切り替えをご使用ください。

お知らせ

●アシストがなくなっても、バッテリーライトは点灯します。しばらくするとゆっくり点滅してから消灯しますので、点滅状態になったら、夜間やトンネル内、視界の悪いときは、降りて押してください。ラクイックシステムは作動しません。

●電源ボタンが点灯していても、液晶表示部に「アシストナシ」と表示されるときは、アシストは働きません。アシストを動作させたい場合は、電源ボタンを押して電源を ON してください。

各部のなまえとはたらき(つづき)

■リアリフレクター(ソーラーオートテール 4)

このリアリフレクターは充電用のボタン電池に太陽光発電(ソーラーパネル)で充電され、走行中に周囲が暗くなると自動で点滅し、停止すると消灯します(ただし、停止後も約1分間は点滅を続けます)。

- ご使用のまえに充電池の絶縁シートを取り外し、直射日光下で約2時間充電してください。

〈充電池の絶縁シートの取り外しかた・電池フタの開けかた／閉めかた〉

- ①マイナスドライバーなどで電池フタを開ける
- ②電池フタに装着されている電池の絶縁シートをはがす
- ③電池フタを閉める

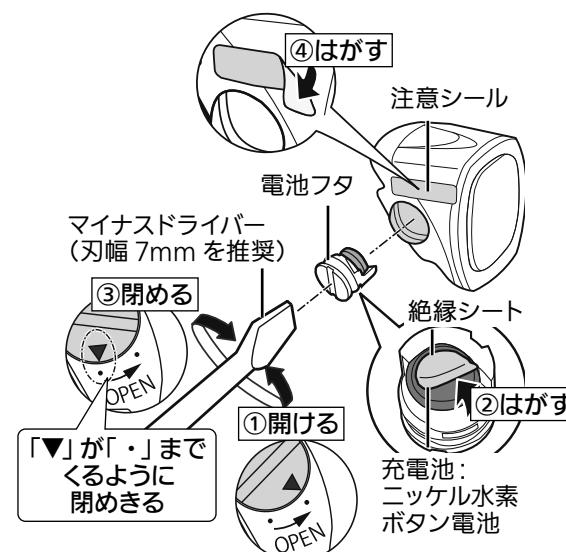
お願い

- 電池フタが確実に閉まらない場合がありますので、軽く押し込みながら閉めてください。
- 電池フタの「▼」が本体の「・」の位置にくるまで閉めきってください。

- ④注意シールをはがす

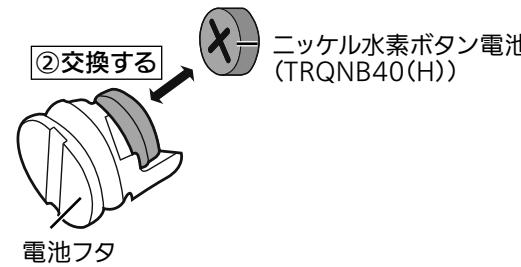
お願い

- 本体にシールのはがれ跡が残らないようにゆっくりと丁寧にはがしてください。



〈充電池の交換のしかた〉

- ①電池フタを開ける(上記電池フタの開けかた①を参照)
- ②+表示をフタ側にして装着し、充電池を交換する(右図参照)
- ③電池フタを閉める(上記電池フタの閉めかた③を参照)



お願い

- 取り換えた充電池は、販売店かリサイクル協力店へお持ちください。
- 交換用の充電池は、「ニッケル水素ボタン電池(TRQNB40(H))」を使用してください。

お知らせ

- 内部のLEDは基板直付けのため交換はできません。
- 連続点滅時間は、約8時間(直射日光下2時間放置後満充電時、連続点滅)となっておりますが、ご使用の状況により、変わることがあります(曇りまたは雨の日でも充電は可能ですが、充電効率が低くなります)。
- リアリフレクターを覆ったり、暗い所へ自転車を置いたりした場合、充電できずに自動点滅しない場合があります。このようなとき、蓄えた電力量を使い切る深放電が繰り返され、極端に電池寿命が短くなることがあります。
- 充電池の寿命は、約2年が目安となっておりますが、ご使用の状況により、変わることがあります。
- 透明部(受光部)の汚れがひどいと光センサー受光部に光が届きにくくなるため、明るい昼間でも、点滅することがあります。また、太陽電池の充電効率も悪くなります。



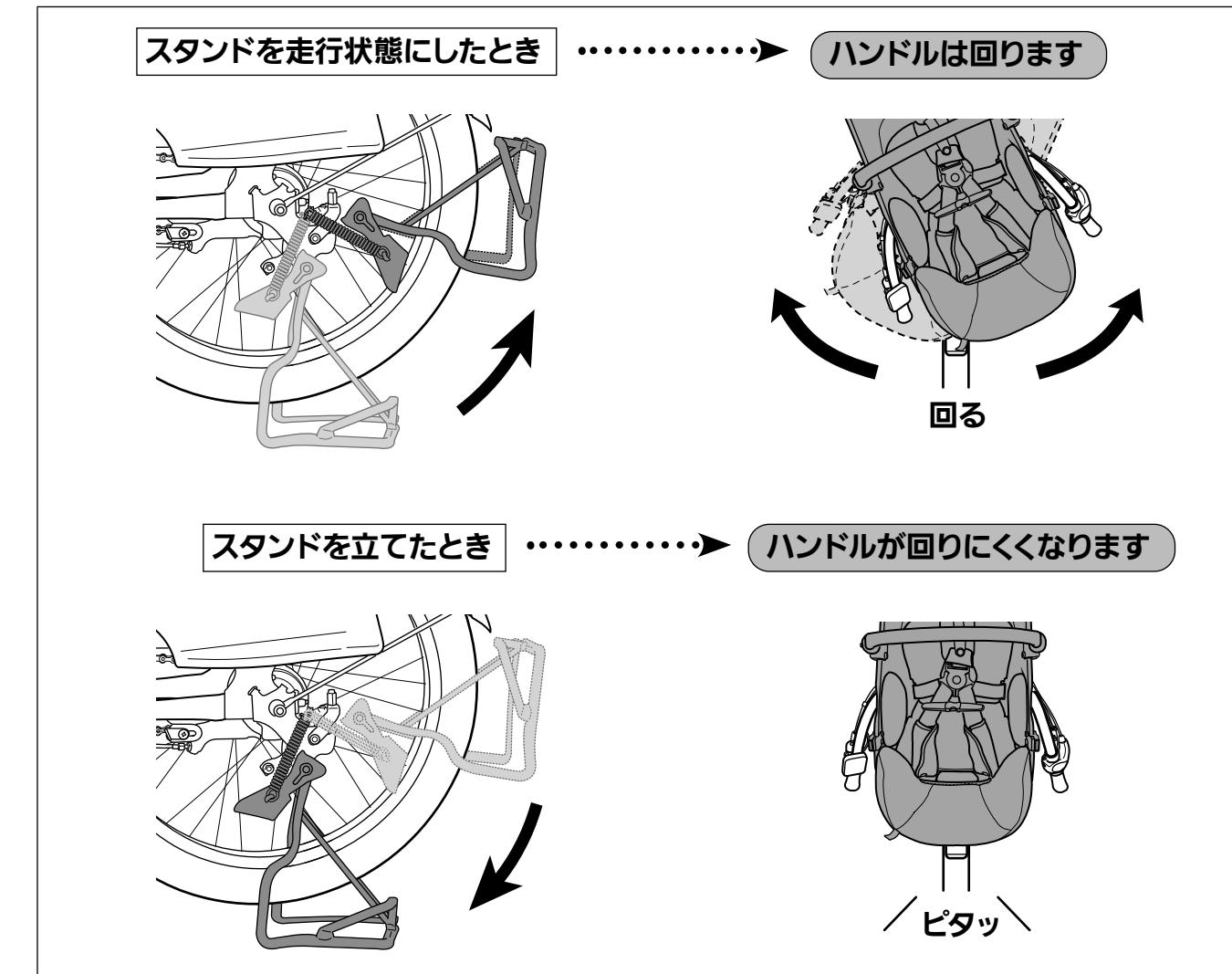
■前車輪旋回抑制機構(スタビタ2S)について

スタンドを立てることにより、ハンドルが回りにくくなる当社独自の機能部品です。

駐輪するときのハンドルのふらつきや、回転を抑制します。



- 前車輪旋回抑制機構が壊れたまま使用しない**
- 禁止 (停車中、ハンドルが回転して転倒し、けがのおそれ)
⇒ご使用を中止し、販売店にご相談ください。



お願い

- スタンドを立てた状態で、無理なハンドル操作は行わないでください。
前車輪旋回抑制機構が壊れる原因になります。

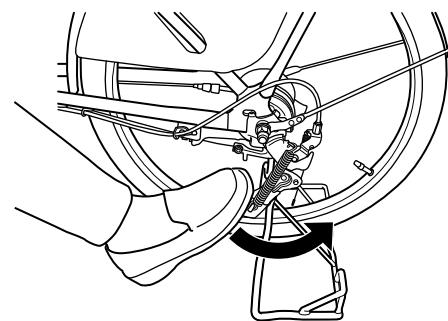
各部のなまえとはたらき(つづき)

■スタンド(かろやかスタンド)について

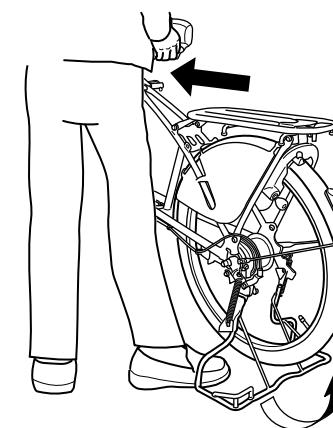
このスタンドは、駐輪するときにスタンドの端を足で踏むようにすると、幼児や荷物を載せた状態でも比較的楽に立てることができます。

〈スタンドの跳ね上げかた(乗車するとき)〉

- ①両手で自転車を支え、スタンドロックを足で後ろへ押してロックを解除する

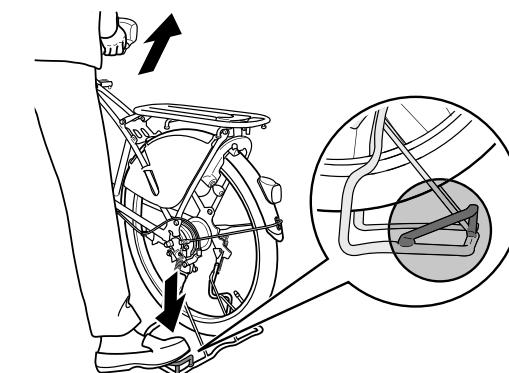


- ②自転車を支えながら前へ押し、スタンドを跳ね上げる



〈スタンドの立てかた(駐輪するとき)〉

- ①ブレーキを握ったままサドルから降りる
- ②左手でハンドルを持ち、スタンドの○の位置を足で踏む
- ③右手でサドルを引っ張り、スタンドを立てる
・スタンドロックが自動的にかかります。



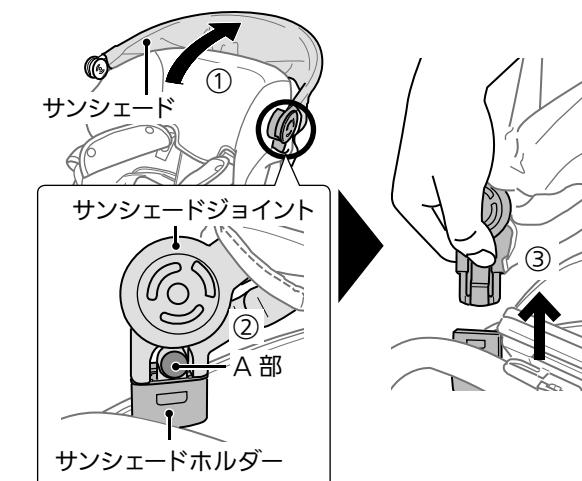
お願い

- 油切れや変形などで、スタンドロックが自動でかかるない場合があります。駐輪時には必ず、スタンドロックがかかっているか確認してください(☞71ページ)。

■サンシェードについて

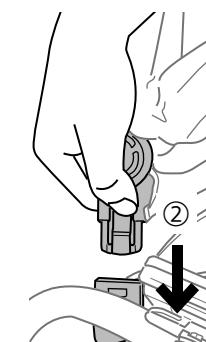
〈サンシェードの取り外しかた〉

- ①サンシェードを小さくたたみ、
- ②左右のサンシェードジョイントのA部を指先で押しながら、
- ③サンシェードホルダーから引き抜いて取り外す



〈サンシェードの取り付けかた〉

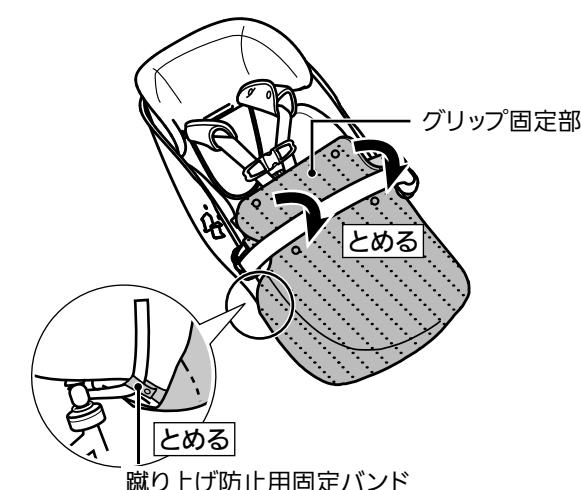
- ①サンシェードジョイントをヘッドレスト側面のサンシェードホルダーに合わせ、
- ②サンシェードジョイントをしっかり差し込み固定する



■フットカバーについて

〈フットカバーの取り付けかた〉

- ①本製品を広げ、取り付け方向を確認し、チャイルドシートの底部に沿わせ、かぶせる
- ②チャイルドシートのグリップバーにグリップ固定部を巻き付け、ホック(2か所)でとめる
- ③蹴り上げ防止用の固定バンド(片側のみ)を自転車のハンドル部に巻き付けホックでとめる



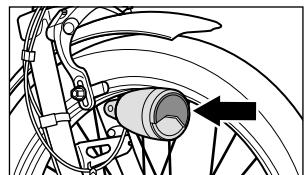
各部のなまえとはたらき(つづき)

乗るまえの点検と調整

■安全装置

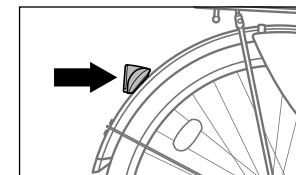
ご使用のまえに

フロントリフレクター
(前部反射器)



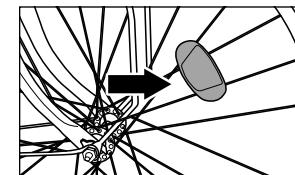
前からの光を反射します。

リアリフレクター
(ソーラーオートテール 4)



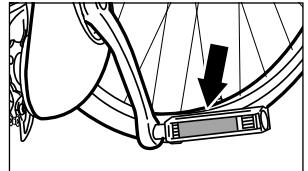
後からの光を反射します。
夜間は LED が点滅します。

サイドリフレクター



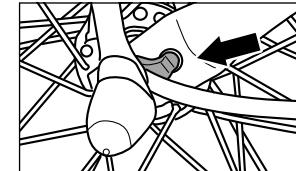
横からの光を反射します。

ペダルリフレクター



前後からの光を反射します。

前車輪脱落防止金具



前車輪の脱落を防止します。

お願い

- リフレクターが破損した場合は、直ちに新品と交換してください。
(破損したまでの夜間走行はしないでください)
- リフレクターが汚れているときは、必ず汚れをふき取ってください。

警告



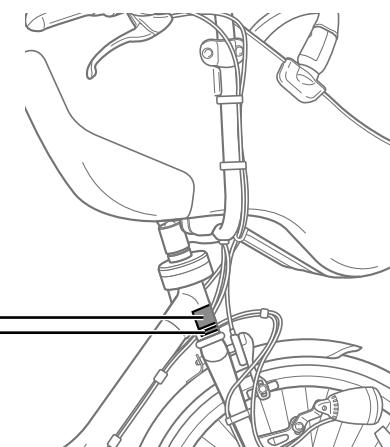
- 安全装置は取り外さない**
(外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれ)

■品番および型式認定済 TS マーク(保険無し)

- この型式認定済 TS マークは、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にだけ表示することができるもので、法令の基準に適合することを明らかにするものです。
- このマークには、交通傷害保険は付帯していません。
保険付き TS マークについては 93 ページを参照ください。



車種品番
型式認定済
TS マーク
車体番号



お願い

- マークをはがしたり、傷つけたりしないでください。

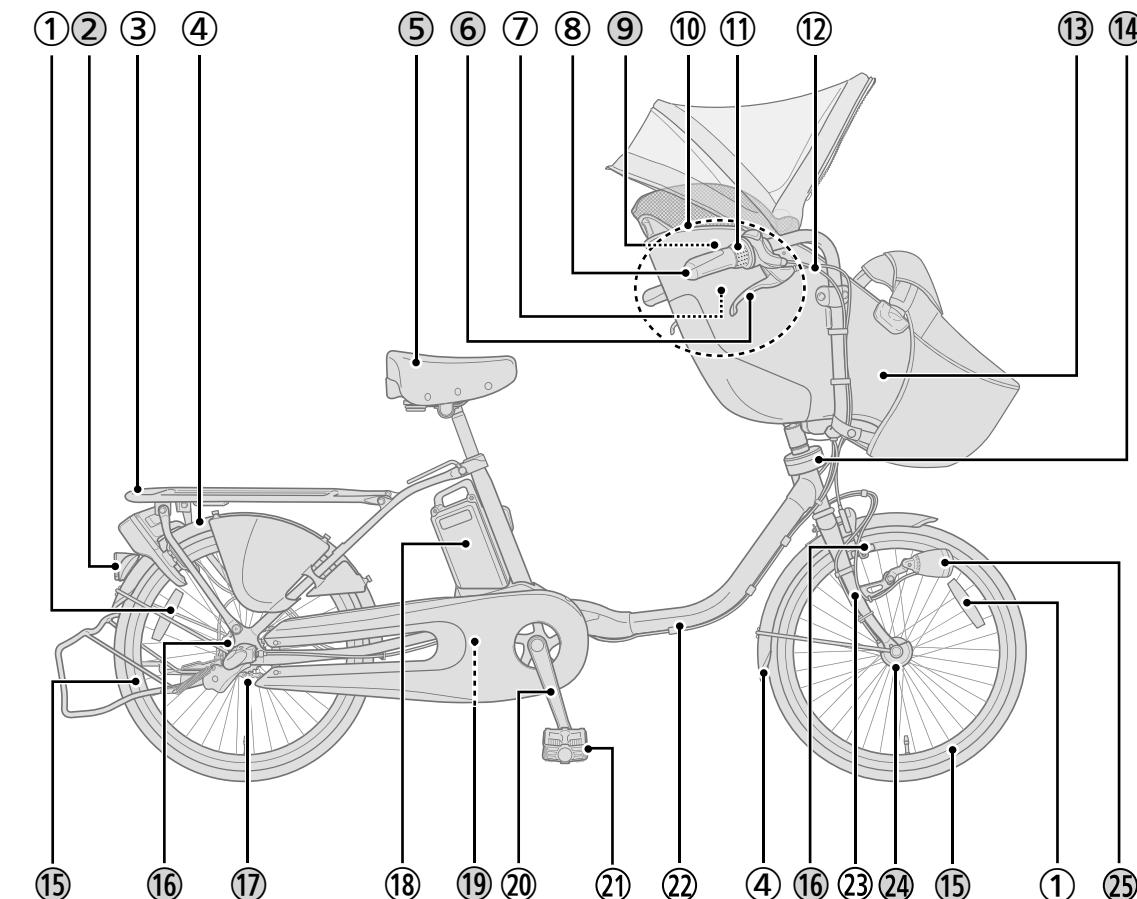
■車体番号(刻印位置)

防犯登録に必要で、数字と英字で表示しています。

安全にご乗車いただくため、乗るまえに点検と調整を実施する習慣を付けましょう。

お願い

- 点検と調整は電源を切った状態で行ってください。
- 未組立、未調整および調整不良の自転車は使用しないでください。
- わからないときは、販売店にご相談ください。



点検箇所	点検内容
① サイドリフレクター<前・後>	<input type="checkbox"/> 割れやがたつきは無いか?
② リアリフレクター	<input type="checkbox"/> (☞ 39 ページ)
③ リアキャリア	<input type="checkbox"/> 固定は確実か?
④ 泥よけ<前・後>	<input type="checkbox"/> がたつきや外れは無いか? <input type="checkbox"/> タイヤに当たっていないか? <input type="checkbox"/> 曲がりは無いか?
⑤ サドル	<input type="checkbox"/> (☞ 39 ページ)
⑥ ブレーキレバー<左・右>	<input type="checkbox"/> (☞ 40 ページ)
⑦ ベル	<input type="checkbox"/> よく鳴るか? <input type="checkbox"/> 固定は確実か?

乗るまえに

乗るまでの点検と調整(つづき)

乗るまでに

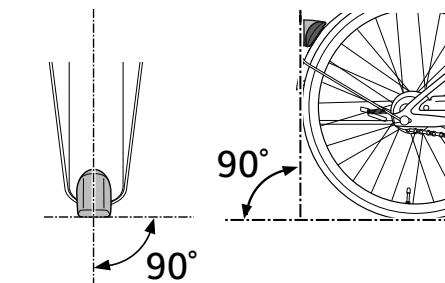
点検箇所	点検内容
⑧ グリップ(左・右)	<input type="checkbox"/> ひび割れは無いか? <input type="checkbox"/> 抜けは無いか? <input type="checkbox"/> 回らないか?
⑨ 手元スイッチ	(☞ 42 ページ)
⑩ ハンドル部(調整は販売店にご依頼ください)	<input type="checkbox"/> ハンドルの固定は確実か? <input type="checkbox"/> ハンドルの回転はスムーズか? <input type="checkbox"/> ハンドルが前輪に対して直角か? <input type="checkbox"/> ハンドルが左右方向に 60 度以上回転するか? <input type="checkbox"/> ハンドルが 360 度回転していないか?
⑪ シフトグリップ	<input type="checkbox"/> スムーズに変速できるか?
⑫ ケーブル類(ブレーキ・変速機など)	<input type="checkbox"/> たるみ・さび・固着・断線や損傷が無いか?
⑬ チャイルドシート	(☞ 42 ページ)
⑭ 前車輪旋回抑制機構	(☞ 42 ページ)
⑮ 車輪部(前・後)	(☞ 42 ページ)
⑯ ブレーキ(前・後)	(☞ 40 ページ)
⑰ チェーン	(☞ 43 ページ)
⑱ バッテリー	残量表示ボタンを押したとき <input type="checkbox"/> 残量表示ランプが点灯するか?(☞ 49 ページ) 外観を見て <input type="checkbox"/> ケースにひび割れや変形、ねじの緩みなどは無いか? <input type="checkbox"/> 端子部が汚れていないか? 車体に装着してみて <input type="checkbox"/> しっかりと車体にはまっているか?(☞ 47 ページ)
⑲ 駆動ユニット	(☞ 43 ページ)
⑳ ペダル・クランク	<input type="checkbox"/> がたつきは無いか? <input type="checkbox"/> ひび割れや曲がりは無いか?
㉑ ペダルリフレクター	<input type="checkbox"/> 割れやがたつき、汚れは無いか?
㉒ フレーム	<input type="checkbox"/> ひび割れや変形は無いか? <input type="checkbox"/> ケーブル類が巻き付いていないか?
㉓ フロントフォーク	<input type="checkbox"/> ひび割れや変形は無いか?
㉔ スピードセンサー	(☞ 44 ページ)
㉕ フロントリフレクター一体型バッテリーライト	(☞ 44 ページ)

② リアリフレクター(ソーラーオートテール 4)

- 割れや、汚れは無いか?
- 反射面の角度は適切か?

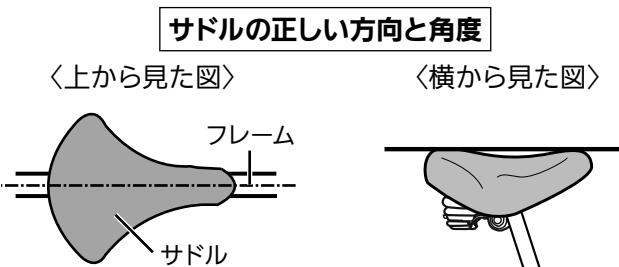
〈お手入れについて〉

レンズに付いた汚れはこまめにふき取ってください。
レンズの汚れがひどい場合は、水もしくは薄めた中性洗剤を浸み込ませた布でふき取ってください。



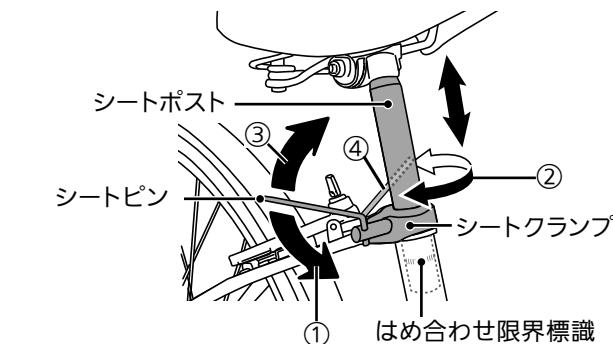
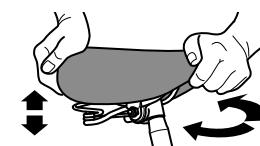
⑤ サドル

- 両足が地面に着くか?
- サドルの固定は確実か?
- サドルがフレームと平行になっているか?
- サドルの上面と地面が平行になっているか?



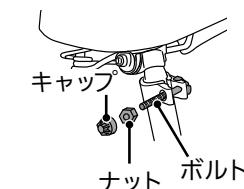
〈サドルの高さと向きの調整は〉

- ①シートピンを緩める
- ②サドルの高さと向きを調整する
- ③シートピンを締める
締付トルク : (8 ~ 12) N・m{(80 ~ 120)kgf・cm}
- ④シートピンを身体に当たらない位置に固定する
- ⑤がたつきやすれが無いことを確認する



お願い

- 上記のトルクでシートポストは十分固定されます。
シートピンを締め過ぎないでください(シートクランプが破損するおそれ)。
- サドルを最下部付近まで下げて使用するとき、および直付けサドル使用時は、シートピンが回転しにくいため、同梱のナットに交換して組み付けてください。最後にキャップをかぶせてください。



お知らせ

- サドルを標準仕様より低くしたいときは、別売品の直付けサドル(☞ 90 ページ)に交換されるとサドル高さを通常より約 3 cm ~ 4 cm 下げることができます。
- サドル抜け防止機構を装備していますので、はめ合わせ限界標識は確認できません(はめ合わせ限界標識が見える状態で使用するとシートポストが折れてしまうことがあります)。

乗るまえの点検と調整(つづき)

乗るまえに

⑥ ブレーキレバー ⑯ ブレーキ(調整は販売店にご依頼ください)

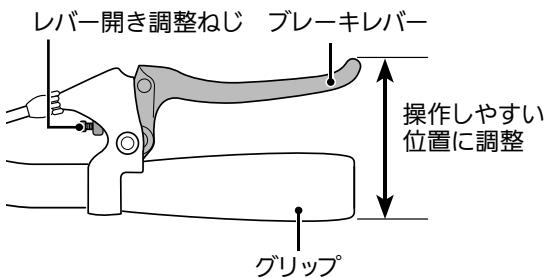
ブレーキレバー(左右)

- ブレーキの利きは良いか?
- ブレーキケーブルのさびやはつれは無いか?
- 左右ブレーキレバーの取り付け部を押して動いたりしないか?

- 開き・引きしろは適正か?
 - 操作したときに動作は円滑か?
 - ブレーキの引きずり^{*}は無いか?
- *ブレーキの引きずりとは、ブレーキをかけていないのにブレーキがかってしまう状態のことです。

〈ブレーキレバーの開き調整〉

- ①ブレーキレバーを開放した状態で、レバー開き調整ねじを回す
- ②操作しやすい位置(ブレーキレバーを引く指の第一関節から第二関節がかかる位置が推奨)に調整する

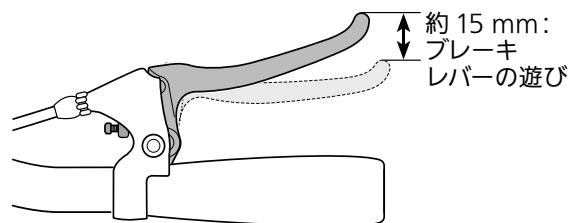


お願い

- ブレーキレバーを強く握って、レバーとグリップが付く場合は、遊びを少なくて再調整してください。

〈ブレーキレバーの引きしろ調整〉

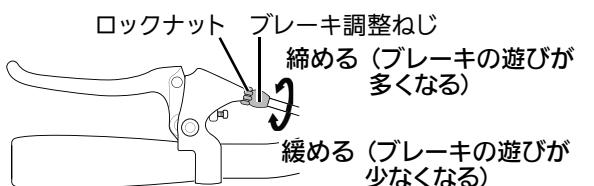
- ブレーキレバーの遊びが約 15 mm になるよう、ブレーキ(前・後)の引きしろをブレーキ調整ねじで調整する。



下記はブレーキの調整ねじを使用した応急的な調整方法です。販売店でブレーキケーブルを張り直すなど、点検・再調整を行ってください。

〈ブレーキレバーの調整〉

ブレーキが利きにくい場合には、ロックナットを緩めて、ブレーキ調整ねじで調整したあと、ロックナットを必ずもとどおり確実に締め付けてください。それでも、利かない場合は、販売店で調整を依頼してください。



お願い

- 上記の調整範囲は目安です。調整後は必ずブレーキテストをしてください。
- 前後車輪の回転が重くないことを確認してください(電源を入れずに運転してください)。

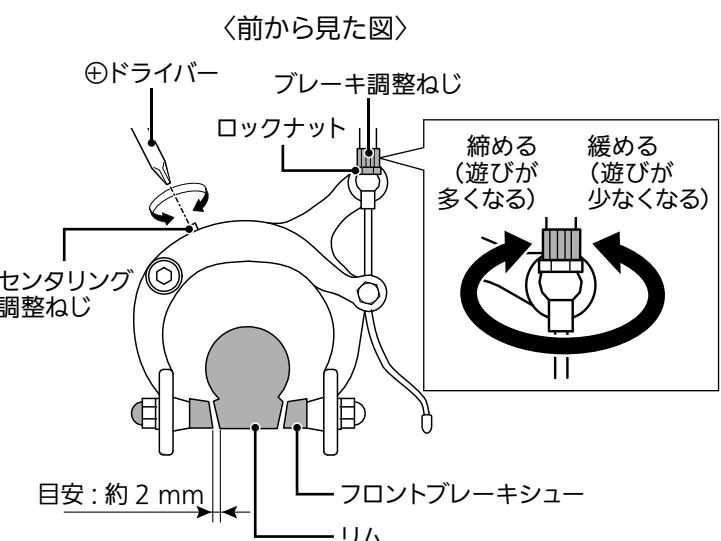
フロントブレーキ(ブレーキシュー)

- すりへっていないか?
- 異物は付いていないか?
- 固定は確実か?

- タイヤに当たっていないか?
- 横から見てリムと平行になっているか?

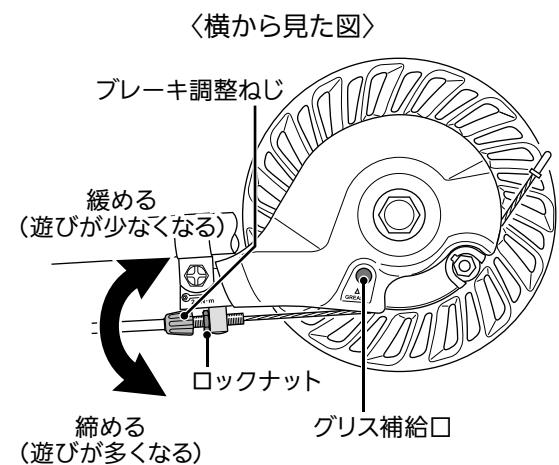
〈フロントブレーキの調整〉

- ①ロックナットを緩める
- ②ブレーキ調整ねじを回す
- ③センタリング調整ねじで、リムとフロントブレーキシューの隙間が左右均等になるように調整する
- ④走行してブレーキの利きを確認する
- ⑤ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける
締付トルク : (1~2) N·m{(10~20)kgf·cm}



〈リアブレーキの調整〉

- ①ブレーキ調整ねじのロックナットを緩める
- ②ブレーキ調整ねじを回す
- ③走行してブレーキの利きを確認する
- ④ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける
締付トルク : (1~2) N·m{(10~20)kgf·cm}



お願い

- 確実な制動力を得るために、通常 1 ~ 2 年に 1 回程度は販売店でローラーブレーキ専用グリス(当社品番: NBP002)を補給してください。
- ブレーキ調整が不適切な場合、ブレーキが利き過ぎたり、逆に利かなかったりすることがあります。また、使用によるなじみや摩耗で、ブレーキの利き具合が変わります。ブレーキが利きにくい場合は、販売店で点検を受けてください。
- 電動アシスト自転車は、一般自転車とくらべて車両質量が重くなっています。そのため、ブレーキシュー、リム(42 ページ)の摩耗や専用グリス等の消耗が早くなることがあります。乗るまえには必ずブレーキ(前・後)の点検を行ってください。不具合があった場合の調整や交換は、販売店にご相談ください。

お知らせ

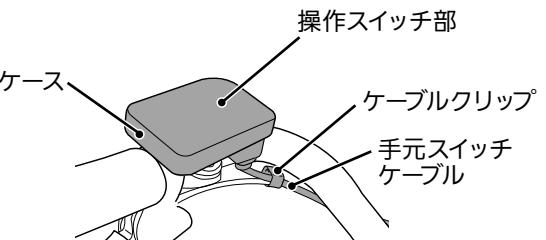
- 制動装置(ブレーキ)に不備のある自転車と認められる自転車が運転されているときは警察官が停止させ検査ができるようになりました。停止や検査を拒んだり、運転継続禁止命令に従わなかった場合は罰金が科せられる場合があります。

乗るまでの点検と調整(つづき)

乗るまでに

⑨ 手元スイッチ

- ケースや操作スイッチ部にひび割れなどが無いか?
- スタンドを上げて、ハンドルを回転させたとき、手元スイッチケーブルが突っ張っていないか?
- ケーブルに断線や損傷は無いか?
- ケーブルクリップは外れていないか?



- 電源を入れたとき
- 液晶表示部に「888」が表示されるか?(☞ 62 ページ)
 - ライトボタンを押して、ライトは点灯するか?(☞ 31 ページ)

⑬ チャイルドシート

- 自転車との固定にねじ等の緩みが無く、取り付けが確実か?
- シートベルトに傷や破れ等無いか?
- バックルに差込タングが確実に差し込めるか?
- バックル・チェストクリップが破損していないか?(☞ 56 ページ)

お願い

- シートベルトの寿命は約2年です。異常が無くても販売店にて定期的に交換してください(品番: NCB340S)。

⑭ 前車輪旋回抑制機構(調整は販売店にご依頼ください)

- スタンドを跳ね上げたとき、ハンドルがスムーズに回るか?
- ハンドルを回したとき、カリカリと音(小さな音)がしているか?

注意

■必ず販売店で調整する
(誤った調整により故障し、転倒によるけがのおそれ)
必ず守る

⑮ 車輪部<前・後>

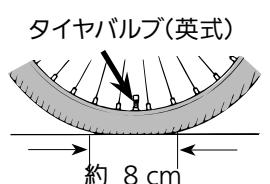
- タイヤに摩耗・切傷は無いか?
- 車輪の固定は確実か?
- タイヤに異物は付いていないか?
- スポークに曲がり・切れ・緩みは無いか?
- 空気圧は適正か?

- リムに振れ、変形は無いか?
- リム(アルミリム)が摩耗し、リム交換マークが消えていないか?



〈タイヤの適正な空気圧〉

自転車に乗った状態での適正な接地部の長さは、右図のとおりです。



お願い

- タイヤ側面に刻印されている標準空気圧は(280 ~ 450) kPa[(2.8 ~ 4.5)kgf/cm²]です。圧力計の付いたポンプで空気を入れる場合は、数値内になるように入れてください。圧力計の付いていないポンプで空気を入れる場合は、先述のイラストの接地部の長さを参考にしてください。
- 上記の空気圧は体重65 kg程度の方が乗車された場合の適正な空気圧です。常時、幼児を乗せて走行する場合は、高めの空気圧(400 ~ 450) kPa[(4.0 ~ 4.5)kgf/cm²]にて使用してください。
- タイヤの空気圧は標準空気圧未満では使用しないでください。タイヤのひび割れ、偏摩耗やパンクの原因になります。
- タイヤにガソリン・有機溶剤・油類が付着したときは、すぐにふき取ってください。
- タイヤはストーブなどの熱源の近くに置かないでください。
- リム交換マークが見えなくなったら新しいリムと交換してください。

お知らせ

- 長期間使用しない場合は、空気圧は自然に減ります。
- アルミリムの場合、フロントブレーキをかけることにより前車輪のリム表面は摩耗します。

⑯ チェーン(調整は販売店にご依頼ください)

- 空回りしないか?
- 小石などが挟まってないか?
- 歯飛びや異常な音(バリバリ音など)は無いか?

- 油切れはしていないか?
- たるみが大きいか?
- さびていないか?
- チェーンケースに接触していないか?

〈チェーンのたるみについて〉

走行中、チェーンの周りから異常な音がする場合は、チェーンが伸びているか、テンションプーリーが固着していることがあります。販売店に点検・調整・交換をご依頼ください。

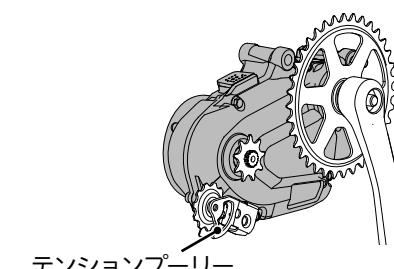
お願い

- この自転車は電動アシスト自転車用に耐久性を高めた強化チェーンを使用しています。チェーンを交換する際は、必ず刻印のある純正チェーン(当社品番: NGC013-122 ☞右図)を使用してください。



⑰ 駆動ユニット

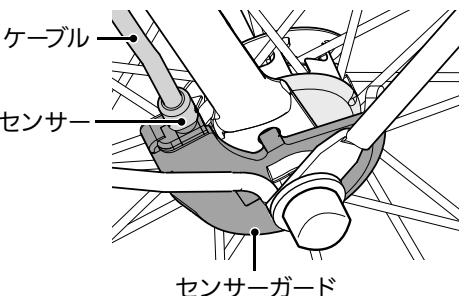
- ペダルに力を加えてみて
- 駆動ユニットがフレームに対してがたつていないか?
 - テンションプーリーは円滑に動作するか?



乗るまえの点検と調整(つづき)

② スピードセンサー(調整は販売店にご依頼ください)

- センサーの固定は確実か?
- ケーブルに断線や損傷は無いか?
- ケーブルはしっかりと固定されているか?
- 車輪を回転させたときに、異常は無いか?



⑤ フロントリフレクター一体型バッテリーライト(調整は販売店にご依頼ください)

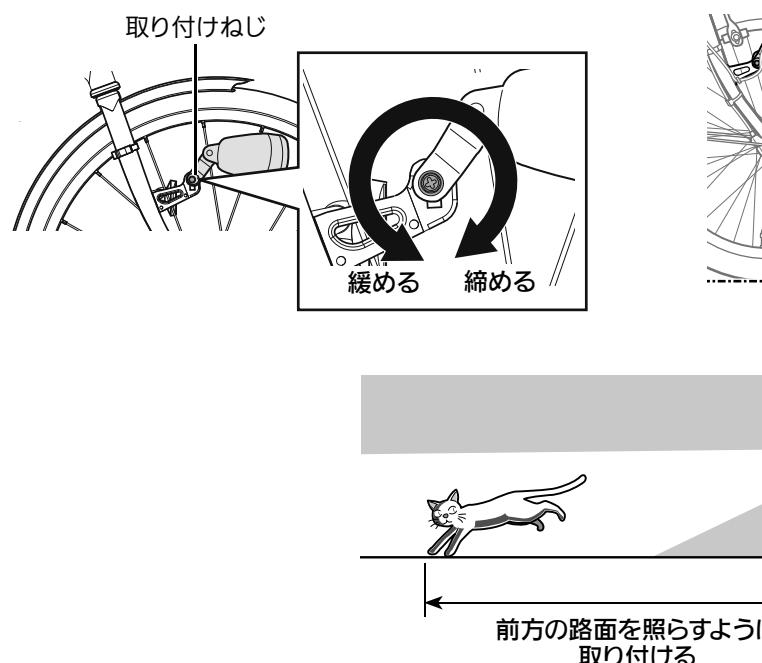
- 点灯するか?
- 取り付け角度は適切か?
- 割れやがたつき、汚れは無いか?

- ケーブルにたるみ・断線・損傷は無いか?
- 反射面が地面および前車輪に対して直角になっているか?

〈ライトの角度〉

フロントリフレクター反射面を地面に対して垂直になるように調整をすると、ライト照射角度も適正になります。

使用工具：スパナ(10 mm) またはボックスレンチ(10 mm)
締付トルク：(6 ~ 7) N·m{(60 ~ 70)kgf·cm}



お願い

- 対向者(車)にまぶしくならない角度に調整してください。

お知らせ

- 内部の LED は、基板直付けのため交換できません。

充電しましょう

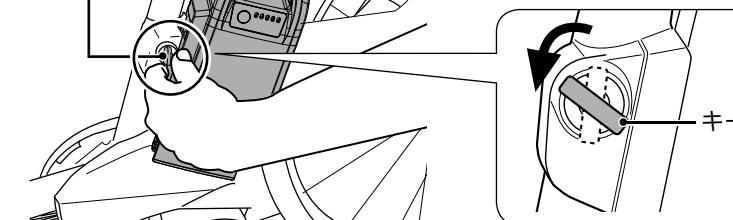
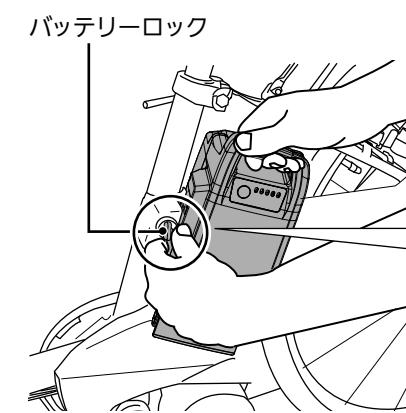
1. 電源ボタンを押して電源を切る



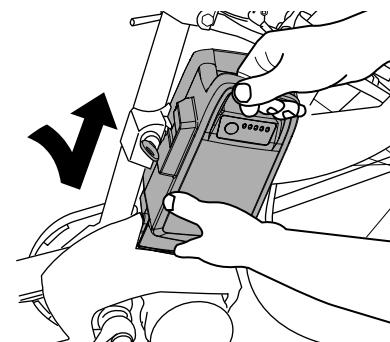
お知らせ

- 電源を切らないでバッテリーを外すと故障の原因になります。

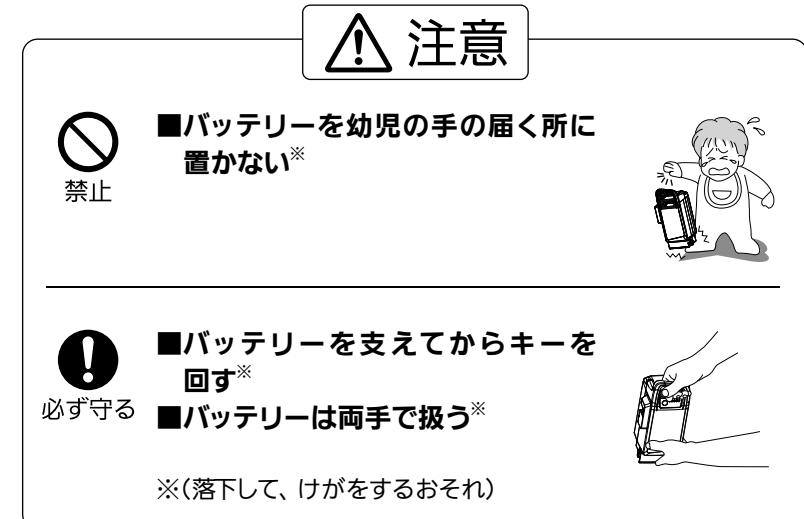
2. バッテリーロックを外し、バッテリーを取り外す



- ① バッテリーロックにキーを差す
- ② バッテリーを支えながら、キーを反時計方向に止まるまで回しロックを解除する
・キーは解錠状態のまま固定できます。



- ③ バッテリーを両手で支えながら、引き上げて外す
- ④ キーを時計回りに止まるまで戻してから、引き抜く



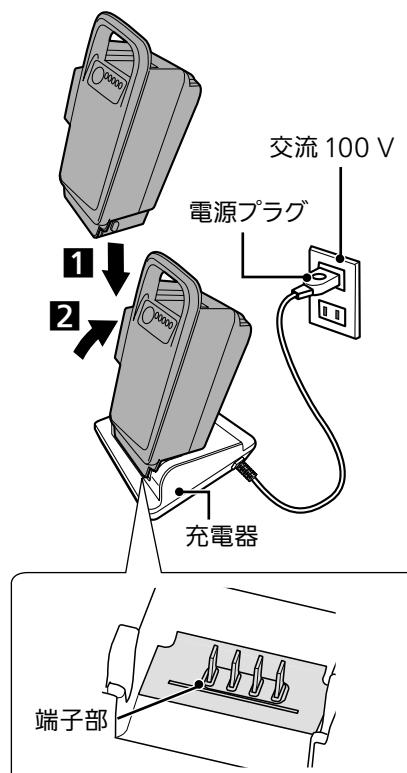
お願い

- バッテリーを取り外したあとは、キーを抜いて保管してください。

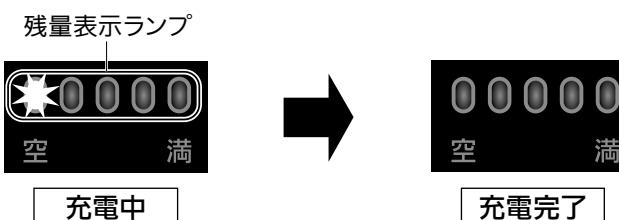
充電しましょう(つづき)

乗るまえに

3. バッテリーを充電器にセットする



- ① 電源プラグをコンセント(交流 100 V)に差し込む
② バッテリーを上から入れ(1の方向)、奥に倒す(2の方向)
・バッテリーの残量状態が表示(☞ 49 ページ)されて、充電が始まります。充電が完了すると、残量表示ランプは消灯します。



※充電時間の目安は仕様(☞ 88 ページ)をご覧ください。



! 注意

- 寝ているそばでは充電しない※
■充電中は長時間、充電器・バッテリーの同じ場所に触れない※
※(低温やけどのおそれ)
■熱に弱い床材などの上で充電はしない
(床材などの変色等のおそれ)
⇒充電する場合は断熱材等で床などを保護してください。

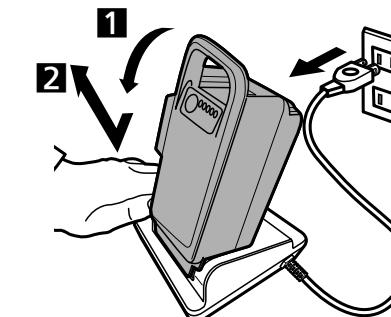
お願い

- 白木や畳、塩化ビニール(プラスチックシート貼りの材料)、プラスチックなどの熱に弱い材質の上でご使用の場合は、断熱のためのシート(耐熱温度 100°C以上)をお使いください。
耐熱性の低いシートを使用しますと、本体の熱によりシートが溶けて本体や床等に固着したり、本体や床材等を痛める原因となりますので、使用しないでください。

お知らせ

- 家庭用の交流 100 V 電源以外(車載用など)から充電すると、充電器が高温になったり、故障するおそれがあります。
●充電器のプラグをコンセントに差し込むと、火花が発生する場合があります。回避方法としてスイッチ付電源タップをご使用になることをお勧めします(☞ 81 ページ)。
●走行直後などバッテリー内部の温度が上昇しているときは、充電できないことがあります。バッテリー内部の温度が規定温度まで下がれば、充電を開始します(周囲の温度により、充電開始までに 1 ~ 2 時間かかる場合があります)。
●バッテリーは充電待機中、自動で残量表示ランプ 1・3・5 番目が同時点滅するモデルがありますが、異常ではありません(☞ 79 ページ)。
●バッテリー容量により、最後の残量表示ランプが全点灯から消灯に変わるまでの時間は異なります。

4. バッテリーを充電器から外す

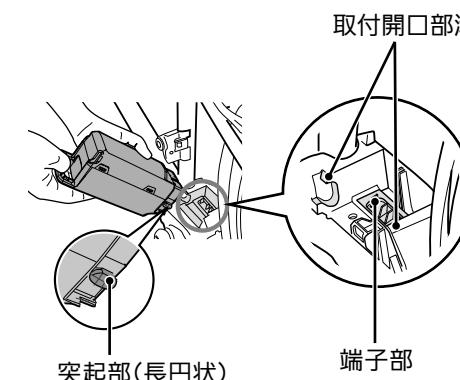


- ① 充電器を手で押さえ、バッテリーを手前に倒して(1の方向)、取り外す(2の方向)
② コンセントから電源プラグを抜く

! 注意

- 充電器を手で押さえながらバッテリーを外す
(充電器が落下し、けが・破損のおそれ)
必ず守る

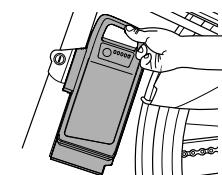
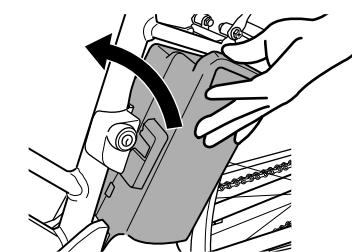
5. バッテリーを自転車に取り付ける



- ① バッテリーロックにキーが差し込まれている場合は、抜く
② バッテリーを残量表示ランプのある面を手前にして両手で持つ
③ バッテリーを手前に倒しながら、取付開口部の溝とバッテリーの突起部(長円状)を合わせる
④ バッテリーを起こして、しっかりと最後まで押し込む
⑤ 最後に手前に引いて、外れないことを確認する

! 警告

- 確実に自転車に装着されているか確認する
(走行中に脱落し転倒したり、足の上に落ちたり、けがのおそれ)
⇒必ず手前に引いて外れないか確認してください。



! 注意

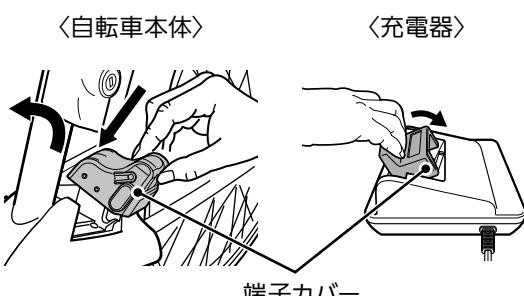
- バッテリーとフレームの間に指を入れない
(指を挟み、けがをするおそれ)
必ず守る

充電しましょう(つづき)

充電するときのポイント

お願い

- 初めて乗る場合や、1か月以上乗車していないときは、必ず充電してください(出荷時は、満充電していません)。
- 充電器は5°C ~ 35°Cの場所に設置してください。
- バッテリーの温度が0°C以下または充電する場所との温度差が大きい場合は、十分に充電できていない場合があります。その場所で1時間以上放置してから充電してください。
- 雨天走行後に充電するときは、水分をふき取ってから充電してください(充電器内に水が入って故障の原因になります)。
- 充電器は、必ず、外装箱から出して、ご使用ください(充電中の熱により、ケースなどが変形するおそれがあります)。
- じゅうたんや不安定な床材などの上では使用しないでください。
- 使用しなくとも、半年に1回は充電してください(☞86ページ)。
- テレビ・ラジオなどのそばで充電した場合、雑音が入ったり、テレビの画面がちらついたりするときがあります。その場合は、電化製品から離して(コンセントを変えるなど)充電を行ってください。
- 自転車本体もしくは充電器の端子部にほこりがたまらないよう、ご注意ください。長時間バッテリーを取り外したままにするときは、それぞれの端子部に端子カバー(別売品☞90ページ)をかぶせておくことをお勧めします。



お知らせ

- バッテリー保護のために、満充電からの再充電はできません。
- バッテリーの温度が低温・高温時ともに充電時間は長くなります。
- 充電中に充電器が熱くなりますが、異常ではありません。

乗るまえに

■バッテリーの残量について

●走行まえに、バッテリーの残量と目的地までの距離をよく確認してください。

バッテリーの残量表示ボタンを押すと、残量表示ランプで残量をお知らせします(あくまでも目安としてご使用ください)。

バッテリーパー 残量表示ランプの表示状況	20	40	60	80	100	%	目安
LED ランプ 5 つとも点灯 						81 % ~ 100 %	
LED ランプ 4 つ点灯 						61 % ~ 80 %	
LED ランプ 3 つ点灯 						41 % ~ 60 %	
LED ランプ 2 つ点灯 						21 % ~ 40 %	
LED ランプ 1 つ点灯 						11 % ~ 20 %	
LED ランプ 1 つ点滅 						0 % ~ 10 %	
LED ランプ 1 つ点滅 						0 %	

アシスト走行できます

満充電からスイッチの電源を入れて走行すると、1灯ずつ点灯数が減ります。

充電時期のお知らせ

そろそろ充電してください。
アシスト力が徐々に低下する場合があります。

アシスト走行停止

充電してください。
充電しない場合はアシスト無しの自転車として走行できます。

お知らせ

- バッテリーが新品のときや、長期間使用されていないとき、厳寒の日や急な坂を登ったときは、まれに残量表示ランプが点灯していても、アシスト力が働かないことがあります。このようなときは、再度充電してください。
- バッテリー残量が少ない状態で一定期間放置すると保護回路が働き、電源が入らなくなる場合があります。その場合はバッテリーを充電器にセットすると解除されます。

充電しましよう(つづき)

乗るまえに

手元スイッチの液晶表示でも、残量が確認できます。

手元スイッチ 液晶表示部の表示状況	バッテリー残量	目安
 アシストモード表示		アシスト走行できます バッテリー残量が、100パーセントから21パーセントの間は10パーセントずつ表示が減ります。
		充電時期のお知らせ 20パーセントから5パーセントまでは1パーセントずつ表示が減ります。 アシスト力が徐々に低下する場合があります。
 ザンリョウナシ表示：アシスト停止		アシスト走行停止 充電してください。 充電しない場合はアシスト無しの自転車として走行できます。

お知らせ

- 残量が0パーセントから4パーセントまでは「0%」の点滅表示になります。
- 手元スイッチの液晶表示部は、残量が0(空)になると、アシストモード表示が「ザンリョウナシ」になります。

荷物やお子様を乗せるとき

■幼児を乗せて走行するまえに

幼児を乗せる場合は、ハンドル部分のチャイルドシートやリアキャリアに取り付けたチャイルドシートに乗せて走行するため、慣れるまでは、ハンドルがふらつき、不安定になる場合があります(特に、発進時、低速走行時、カーブや下り坂での走行時、幼児が不意に動いたときなど)。また、幼児を同乗させることにより、同乗させていないときと同じ要領でブレーキ操作をした場合には、制動距離が長くなります。

車が通らない平坦な場所(自転車乗り入れ可能な公園や広場など)で十分練習をしてください。

お願い

- チャイルドシートに幼児と同じ重さのもの(新聞や雑誌など)を積んで押し歩きや走行で練習し、重さに慣れてください。
- 次に幼児を乗せてゆっくり走行し、ハンドル操作を練習してください。
- 停車するときは、先にリアブレーキをかけながら、フロントブレーキをかけ、必ず両足を地面に着けてください。
(バランスを崩しにくい押し歩きの方法)
押し歩き時には同乗幼児の動きや路面の凹凸・傾斜などによるバランスの崩れによって、自転車の立て直しができずに転倒があるので、幼児を自転車から降ろし、押し歩きをしてください。やむを得ず、幼児を乗せて押し歩きを行う場合には、転倒のリスクがありますので以下の事項を考慮して慎重に押し歩きを行ってください。
 - 自転車は垂直より少し手前に傾けて、ハンドルをしっかりと握り、ブレーキがすぐにかけられるようにする。
 - 同乗幼児が動かないように注意するとともに、路面の凹凸・傾斜などに注意して、バランスを崩さないようにする。
 - 押し歩きのための十分なスペースがあることを確認し、混雑した場所ではバランスを崩しやすいので無理な進入は控える。
- チャイルドシート(前用)に幼児を乗せた場合、前方の視界および下方の視界が低下するおそれがありますのでご注意ください。
- 雨上がりに乗車する場合、クッション類に水が含まれていないか確認してから幼児を乗せてください。
- パッド類を外したまま使用しないでください。また、本製品以外のものと取り換えたりしないでください。
- 乗せることができる幼児の条件については、58ページを参照してください。
- 同乗させる幼児の年齢は、各都道府県で決められていますので、お住まいの地域の警察署等にご確認ください。

お知らせ

- 自転車に取り付けるチャイルドシートは、幼児2人同乗用自転車では前後に各1つだけに限ります。
- 16歳未満の方は、幼児を乗せて使用することは法令で禁止されています。
- チャイルドシートのクッションにプリントや染料を使用している異質の素材と長時間接触させると双方に色移りが生じことがあります。また、プラスチック製品、塩化ビニール製品、塗装された製品などと長時間接触させると材料成分の化学変化により表面が損傷する可能性があります。

荷物やお子様を乗せるとき(つづき)

■幼児2人を同乗させる場合 (リアキャリア取付式チャイルドシート[チャイルドシート(後用)]のご使用について)

お願い

- 幼児2人を乗せる場合は、リアキャリア取付式チャイルドシートを取り付けて、リアキャリアにも幼児を乗せることができます(☞58~59ページ)。弊社指定のチャイルドシートを装着してください(☞91ページ)。取付は販売店にご依頼ください。
- 弊社指定のチャイルドシートの取扱説明書の指示に従ってください。
- ハンドル取付式チャイルドシートに幼児を乗せた場合、前方の視界および下方の視界が低下するおそれがありますのでご注意ください。

お知らせ

- この自転車は幼児2人同乗用自転車安全基準(BAA)の適合車です。
- 弊社指定以外のチャイルドシートを装着すると、幼児2人同乗基準に適合しなくなります。



幼児2人同乗基準適合車
社団法人自転車協会

幼児の乗せかた

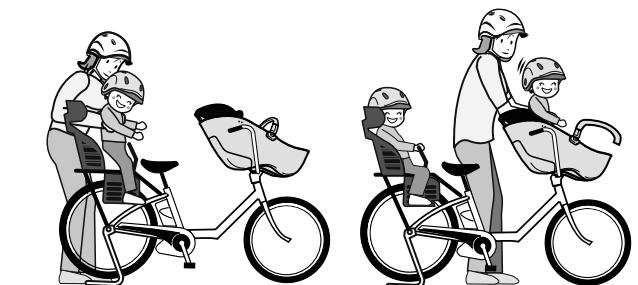
警告



- 必ず守る ■荷物の積み下ろしや、幼児の乗せ降ろしをする際には、安全のためスタンドロックが正常なロック位置にあることを確認する
(スタンドが跳ね上がり、転倒によるけがのおそれ)
- 幼児を乗せてスタンドの操作をする場合は、十分練習してから使用する
(ふらつきや転倒によるけがのおそれ)
- 幼児を乗せるまえに、後輪サークル錠解錠動作を行い、後輪サークル錠が解錠していることを必ず確認する
(後輪サークル錠が施錠状態のままスタンド解除動作を行うと、車体のバランスが崩れて転倒し、けがのおそれ)

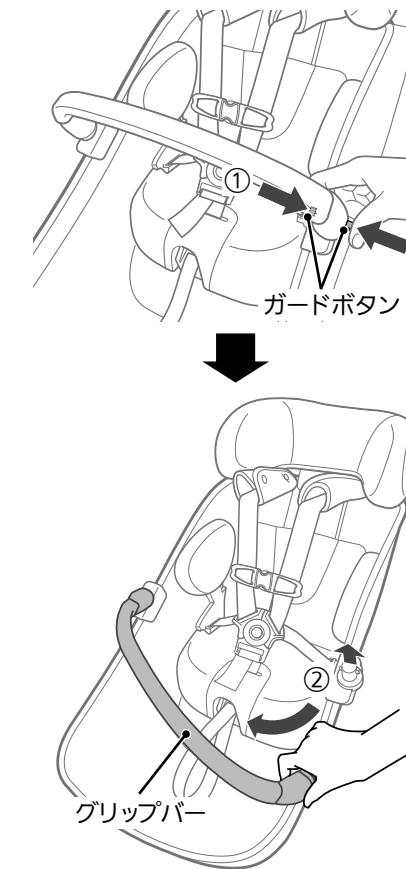
幼児を乗せ降ろしするときの注意点

- 必ず自転車を平坦で硬い路面に停車させてください。
- ハンドルの旋回が抑制されていることを確認してください。
- 自転車が倒れそうになってもすぐに手で支えられる位置に立ってください。もし倒れそうになった場合はすぐに手で支えてください。
- チャイルドシートに幼児を乗せているときは、自転車から離れないでください。



1. 後輪サークル錠を解錠する(☞60・61ページ)

2. グリップバーを開く



- ① 2つのガードボタンを矢印方向に押しながら

注意

- ガードボタンは幼児に操作させない
(外れて幼児の足や身体に当たるけがのおそれ)



- ② グリップバーを引き抜く

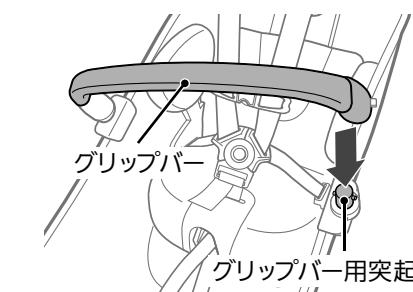
お知らせ

- グリップバーの開閉ができるのは正面から見て右側だけです。

注意

- グリップバーの片側を外した状態で、グリップバーを引っ張って使用したり、ふりまわしたりしない
(破損や幼児に当たるけがのおそれ)
- グリップバーには過度の力を加えたり、必要以上に広げたりしない
(故障や破損のおそれ)
- グリップバーを外したままの状態にしない
(変形のおそれ)

グリップバーを閉じるとき



グリップバーをグリップバー用突起にあわせて押し込む

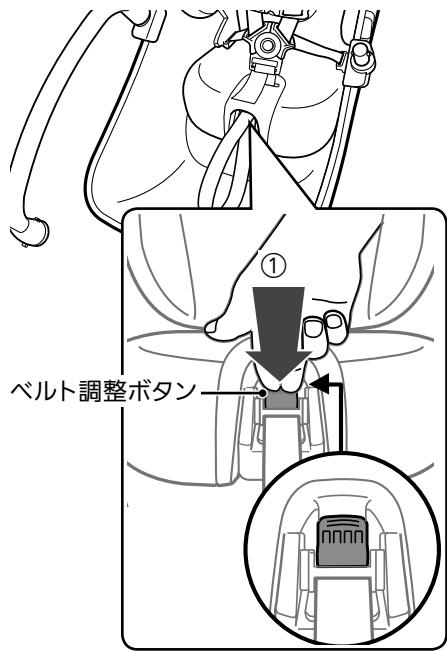
注意

- 必ず守る ■グリップバーの開閉時に、手や指の位置を確認する※
■グリップバーが確実に固定されているか確認する※
※(指を挟んだり、けがのおそれ)

荷物やお子様を乗せるとき(つづき)

乗るまえに

3. シートベルトを緩める



① ベルト調整ボタンを奥へ押しながら、

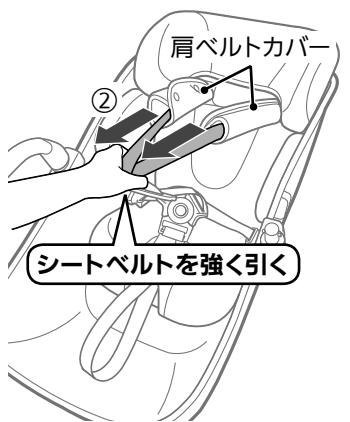


注意
必ず守る
■爪を伸ばしていたり、付け爪をしている場合、拘束や調節操作をするとき十分注意する
(巻き込まれ、けがをするおそれ)

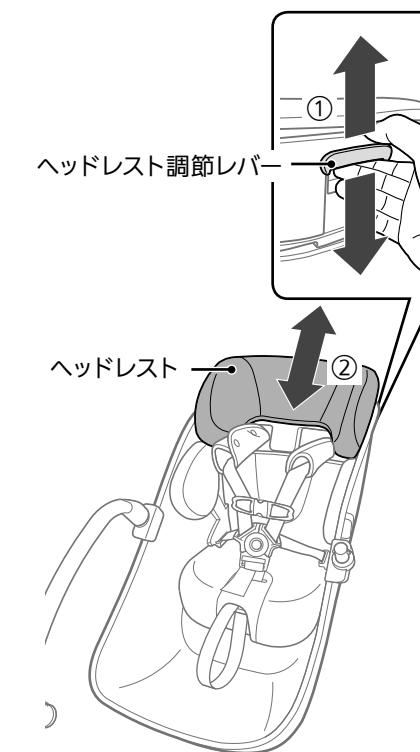
② 左右のシートベルトの両方を持ち、手前に強く引き、緩める

お願い

●肩ベルトカバーを引いても、シートベルトは緩まず、肩ベルトカバーや肩ベルトスプリング(☞75ページ)が外れてしまうので、ベルトだけを引いてください。



4. ヘッドレストの高さを調節する



高さの目安



お願い

●ヘッドレストの高さ調節と連動してシートベルト(肩部)の位置も変わります。下記を目安にヘッドレスト位置を調節してください。

① ヘッドレスト調節レバーを引きながら、
② ヘッドレストを上下に動かし位置を調節する

お知らせ

●シートベルトを緩めないと、シートベルトが突っ張り、ヘッドレストの高さ調節ができません。



注意
必ず守る
■ヘッドレストの上下スライド時に手や指の位置を確認する
(指を挟んだり、けがのおそれ)



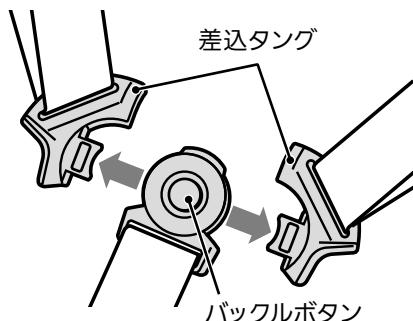
警告
必ず守る
■ヘッドレストが幼児の頭部中心(耳の上)よりも高くなっているか確認する
(幼児が落下して、けがをするおそれ)

■ヘッドレストの高さ調節をしてからシートベルトの調節をする
(シートベルトの締め過ぎや緩みによる落下により、幼児がけがをするおそれ)

荷物やお子様を乗せるとき(つづき)

乗るまえに

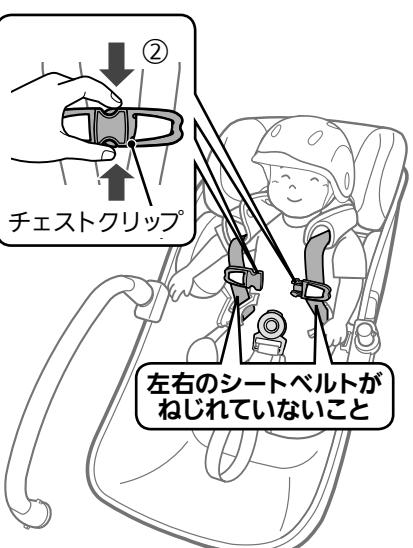
5. ハンドルの旋回が抑制されていること(☞ 33 ページ)を確認し、幼児を座らせる



- ① バックルボタンを押し、差込タングを抜く

お知らせ

●バックルは幼児の力で、容易に外れないように固くしてあります。



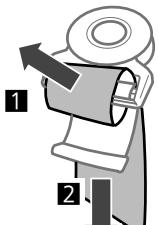
- ② チェストクリップを外す
③ 幼児を深く座らせて、左右の腕をシートベルトに通す
④ 左右のシートベルトがねじれていなか確認する
⑤ 左右の差込タングを『カチッ』と音がするまで、バックルに差し込む
⑥ 左右の差込タングを引っ張り、バックルから外れないか確認する

警告



- 左右の差込タングを、確実にバックルに差し込む
(幼児が抜け出し、落下しけがをしたり、シートベルトが首に巻き付き、窒息するおそれ)
⇒体格や服装によって、タングがバックルに差し込めない場合は、シートクッション(☞ 28 ページ)の使用を中止してください。

緩めるとき

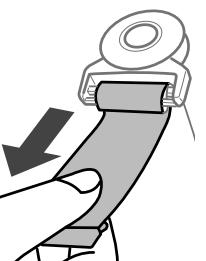


お知らせ

●シートベルトを限界まで緩めても長さが足りない場合は、調整式股ベルトの長さを調整してください。

- ① バックル表側から調整式股ベルトを矢印①の方向に引き、調整式股ベルトを緩める
② バックル裏側を通る調整式股ベルトを矢印②の方向に引く

締めるとき



- ① 調整式股ベルトの先端を矢印の方向に引く

6. シートベルトの長さを調節する



手のひらに入る程度に調節する

幼児の骨盤をしっかりと拘束するように、必ずシートベルトを低く下げる

- ① シートベルト(肩部)は、必ず肩の中央に十分かかるようにする

- ② 調整式股ベルトを手前に引き、さらに腰部を密着させる(☞ 56 ページ)

- ③ 調節ベルトを手前に引き、幼児とシートベルトの間に、大人の手のひらが入る程度にシートベルトの長さを調節する

- ④ チェストクリップをとめる

お願ひ

●調節ベルトを引いたとき、チェストクリップが引っ掛かり、しっかりと締めきれない場合は、チェストクリップを上に移動させてください。

警告



- チェストクリップの位置を高く上げ過ぎない
(シートベルトを締めたとき、幼児ののどを突き、けがのおそれ)



- 調節ベルトを引き、シートベルトを幼児の体格に合わせ調節する
(長過ぎると幼児が飛び出しあげをしたり、首に巻き付き窒息するおそれ)

- チェストクリップは必ず付ける
(幼児が抜け出し、落下しけがのおそれ)

7. グリップバーを閉じる(☞ 53 ページ)



お知らせ

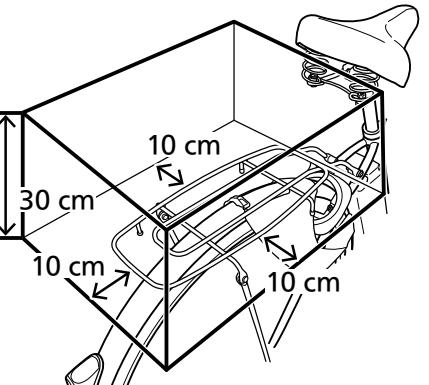
- SGマーク制度は、チャイルドシートの欠陥によって発生した人身事故に対する補償制度です(新品で購入した日より3年間。自転車全体はSGマーク制度の対象ではありません)。
●幼児の適用範囲の記載および取扱説明書の記載を守らない場合には、SGマーク制度の対象外になるおそれがあります。
●小学生以上の児童を同乗させることは、道路交通法違反となり、違反の場合はSGマーク制度の対象外となるおそれがあります。

荷物やお子様を乗せるとき(つづき)

乗るまえに

■積載条件

積載物の大きさ限度	
リアキャリア(クラス 27)	
幅 : リアキャリアの幅プラス 10 cm まで	
長さ : リアキャリアの長さプラス 10 cm まで	
高さ : リアキャリアから 30 cm まで	



お願い

- 荷物の運搬には、別売品のバスケット(☞ 91 ページ) およびリアキャリア以外は使用しないでください。
- 最大積載質量以上の荷物を積まないでください。劣化度合が大きくなり、場合によってはバスケット、リアキャリア、フレームなどが破損するおそれがあります。

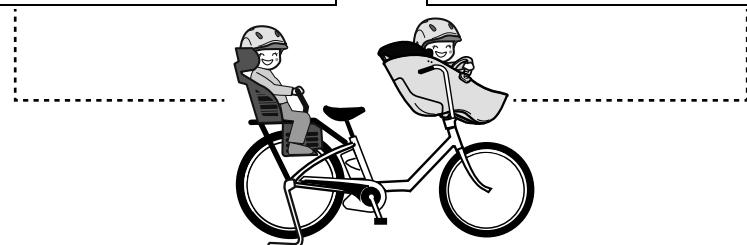
お知らせ

- 荷物の積載量が増えると、バッテリーの電力消費が増え、アシスト走行できる距離が短くなります。また、タイヤなどの消耗品の劣化が激しくなります。
- 荷物を満載していたり、幼児を同乗させている場合と、空荷や幼児を載せていないときでは、操舵性や制動性能が異なります。
- リアキャリアを交換される場合は、当社純正品 NCR1649 をご使用ください。当社の純正部品以外をご使用になり、不具合が生じた場合は、保証の対象外になります(純正以外の部品を取り付けられた場合、強度の不足や、操縦性の低下による転倒のおそれがあります)。

●乗せることのできる幼児の条件

チャイルドシート(後用)
使用可能体重 : 8 kg 以上 22 kg 以下
使用年齢 : 1 歳以上、小学校就学の始期に達するまでの者(2 歳以上推奨)
目安身長 : 70 cm 以上 115 cm 以下
●乗車定員 : 1 名

チャイルドシート(前用)
使用可能体重 : 8 kg 以上 15 kg 以下
使用年齢 : 1 歳(12 か月) 以上、4 歳(48 か月) 未満
目安身長 : 70 cm 以上 100 cm 以下



●最大積載質量

※幼児の体重には幼児の着衣(靴やヘルメットなど身に着けているものすべて)を含みます

最大積載質量	幼児を同乗させる場合	荷物を載せる場合
前のみ使用	体重 15 kg まで 前に乗せる幼児の体重*だけ = 15 kg まで	 フロントバスケットに積載する荷物 = 5 kg まで
後のみ使用	体重 22 kg まで チャイルドシートを含まない幼児の体重*だけ = 22 kg まで	 リアキャリアに積載する荷物 = 27 kg まで
前後使用 自転車の最大積載質量は 30 kg までです	2 人前後合わせて体重合計 30 kg まで チャイルドシートを含まない幼児 2 人の体重*合計 = 30 kg まで	 リアキャリアに積載する荷物 + フロントバスケットに積載する荷物 5 kg まで = 30 kg まで
		前後合わせて合計 30 kg まで 前に乗せる幼児の体重* 15 kg まで + リアキャリアに積載する荷物 = 30 kg まで

お願い

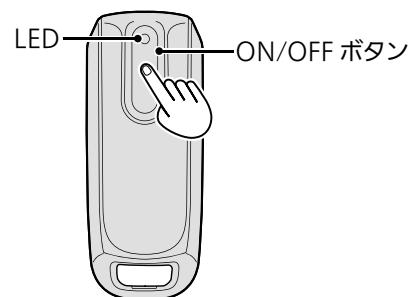
- チャイルドシート・バスケットは必ず弊社指定の別売品(☞ 91 ページ)を使用してください。
- バスケットを使用して荷物を積載する場合は、バスケットの積載条件を確認してください。

乗るまえに

さあ、乗りましょう!

ラクイックシステムの場合

1. 電子キーの作動状態を確認する



- ①電子キーのON/OFFボタンを軽く押して、作動可能状態であることを確認する

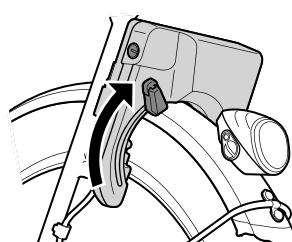
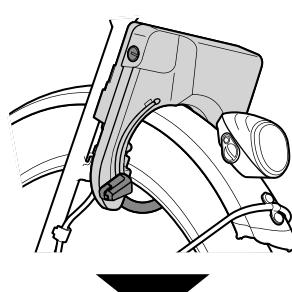
お願い

- 作動可能状態でない場合はON/OFFボタンを長押しし、作動可能状態(LEDが緑色)にしてください。

お知らせ

- 通常は作動可能状態のまま保持していただいてかまいません。

2. 手元スイッチの電源ボタンを長押しして(約1秒)、後輪サークル錠を解錠する



- ①後輪サークル錠を解錠する

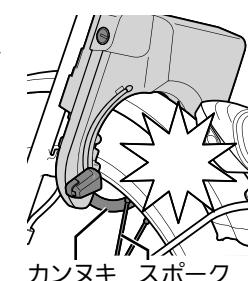
- ・電源ボタンを長押しすることで、電子キーと後輪サークル錠の相互認証をして解錠されます。

お願い

- 解錠できない場合は、82ページをご確認ください。
- 必ずスタンドを立てた状態で、解錠してください。解錠せずスタンドを上げると、スポークと後輪サークル錠が接触し、スポークや錠前または、錠前を取り付けるフレームの台座が変形・破損するおそれがあります。

お知らせ

- 手動でもキーを使って解錠することができます。
- スポークがカンヌキに当たり、解錠できない場合はアラーム音が鳴る場合があります。
- 相互認証できないと、アラーム音が鳴ります。



- ②後輪サークル錠が解錠されているか確認する

注意

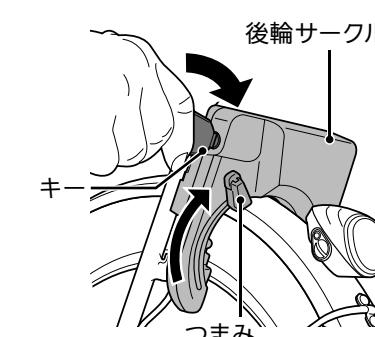
- 解錠するとき、つまみに指を近づけない
(衝撃でがをするおそれ)

禁止

62ページ「3. スタンドを上げ、ハンドルがスムーズに回ることを確認し、乗車する」へ

手動キーの場合

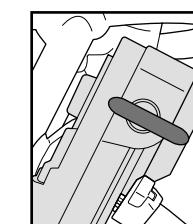
1. 後輪サークル錠を解錠する



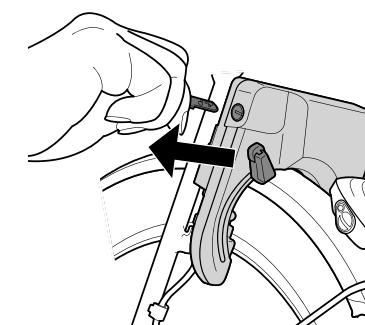
- ①後輪サークル錠にキーを差し込み、時計方向に回す
・つまみがスライドし、解錠します。

お願い

- 必ずスタンドを立てた状態で、解錠してください。解錠せずスタンドを上げると、スポークと後輪サークル錠が接触し、スポークや錠前または、錠前を取り付けるフレームの台座が変形・破損するおそれがあります。



- ②後輪サークル錠が解錠したことを確認してキーを抜く
・キーを左図の状態まで戻して抜いてください。



お願い

- キーをキー穴に挿したまま走行しないでください。挿したまま走行すると、キーがキー穴から抜け落ち、紛失のおそれがあります。解錠後は必ずキーをキー穴から抜いて、走行してください。

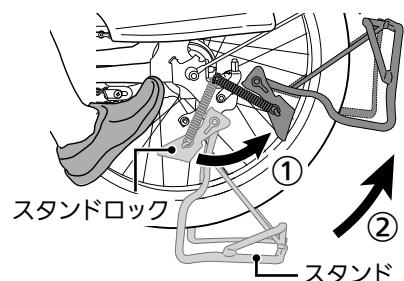
注意

- キーを回すとき、つまみに指を近づけない
(衝撃でがをするおそれ)
- 手動で解錠したときは、キーを付けたまま乗車しない
(走行中、落下し、紛失するおそれ)

62ページ「3. スタンドを上げ、ハンドルがスムーズに回ることを確認し、乗車する」へ

さあ、乗りましょう！(つづき)

3. スタンドを上げ、ハンドルがスムーズに回ることを確認し、乗車する



- ① スタンドロックを足で押して解除する
- ② スタンドを後方へ完全に跳ね上げる
 - ・スタンドを上げることで、ハンドルの固定が自動的に解除されます。

お願い

- スタンドロックを押しながら、スタンドを後方へ跳ね上げないでください。故障の原因となります。

4. ラクイックシステムの場合 手元スイッチの液晶表示部を確認する

(前回電源を OFF したときのアシストモードとバッテリー残量が表示されています)

手動キーの場合



液晶表示部



アシスト
切替
電源

ペダルを踏まずに電源を入れる

① 手元スイッチの電源ボタンを長押しする(約1秒)

- ・電源が ON になり、液晶表示部に「888」が表示されています。
電源が ON になってから、約 1 秒後にバッテリー残量表示(%)に切り替わります。

お願い

- 「888」表示の間は駆動ユニットの初期化をしているので、ペダルを踏まないでください。
ペダルを踏みながら電源を入れると、ペダル入力が小さい状態と誤検知され、走行時にアシスト力が弱くなります(故障ではありません)(☞ 79 ページ)。
- 電源ボタンを長押ししても手元スイッチの液晶表示部が点灯しないときは、バッテリーの充電や固定が確実にできているかを確認してください。
- 走行途中には電源を入れないでください。

お知らせ

- 電子キーを携帯していない場合、電源ボタンを押すとアラーム音が鳴りますが故障ではありません。
- 電源が入った状態で 10 分以上車両を放置すると、自動的に電源が切れます(オートオフシステム)。
再度走行するときは、電源を入れてください。

5. サドルに座り発進する



- ・ハンドルをしっかりと握り、前後左右の安全を確認してから、発進してください。

- ・発進すると電動アシストシステムが働き、作動音がします。

警告



■けんけん乗り(けり乗り)しない

(転倒や接触事故によるけがのおそれ)
⇒ペダルを強く踏めば、モーターがそれに応じて強いアシスト力を出すため、乗り込む際に自転車が飛び出し、危険です。必ずサドルにまたがって、発進してください。



●けんけん乗り(けり乗り)とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動を付けてサドルにまたがる乗りかたです。

注意



■バッテリーロックにキーを付けたまま走行しない

(足に当たってけがをするおそれ)



お願い

- 慣れるまでは、踏み始めおよび坂道を上がり終えた直後のアシスト力に注意してください。
- 土踏まずやかかとでペダルをこがないでください。
- 停車中は、ブレーキ(前・後)をかけた状態にし、ペダルに足を乗せないでください。
- 走行中に異常な音がした場合は、乗車を中止し販売店へ相談してください。

お知らせ

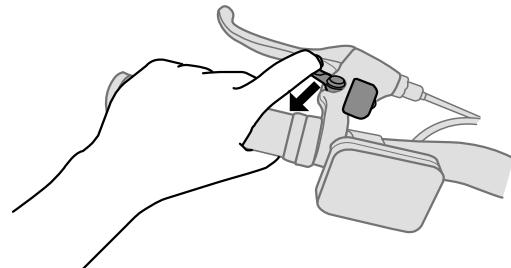
- 走行中は、ラジオなどに雑音が入る場合があります。
- ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、駆動ユニット固有の特性によるもので、故障ではありません。
- スピードメーターなどのワイヤレス式の機器を使用すると、誤表示となる場合があります。

さあ、乗りましょう！(つづき)

乗りかた

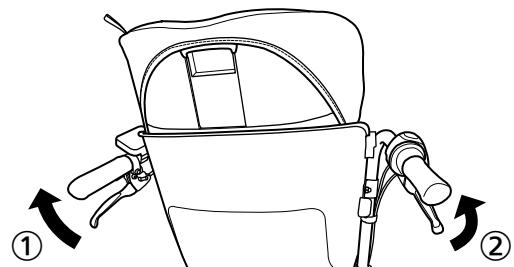
ベルの鳴らしかた

ベルの操作は、左図のように人差し指で行ってください。



ブレーキのかけかた

- ① 先に、左手のブレーキ(リアブレーキ)をかけてから
- ② 右手のブレーキ(フロントブレーキ)をかける



警告

- 雨天時や下り坂ではスピードを出さない
(制動距離が長くなったり、スリップしやすくなったりするため、衝突や転倒によるけがのおそれ)
■フロントブレーキだけを強くかけない
(車輪がロックし、自転車が前方に転倒し、けがのおそれ)

お願い

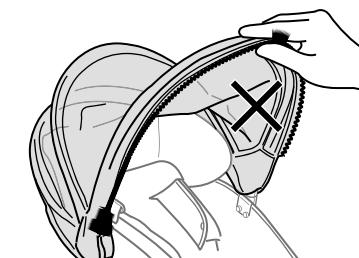
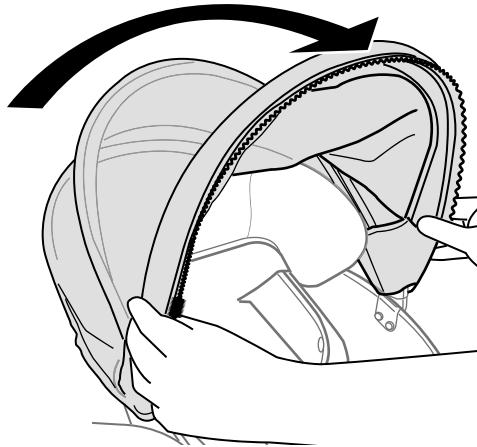
- 急ブレーキをかけなくても良いように、いつも前方に注意してください。
- 下り坂の手前では、ブレーキテストを行ってください。
- 下り坂のときは、適時ブレーキをかけながら速度が出すぎないように走行してください。
- 急な坂道のときは、降りて押してください。

サンシェードの使いかた

図のようにサンシェードの両端を持って広げてください。

お願い

- サンシェードが破損するおそれがありますので、サンシェードの先端を持って広げないでください。



フットカバーの使いかた

お願い

- 幼児の服や靴に面ファスナーが付いている場合は、本製品に面ファスナーが付着しないように気を付けてください。メッシュ生地に引っ掛けて傷つけるおそれがあります。
- 鋭利な物で突いたり、引っかいたりしないでください。
- ぬれた状態のまま放置した場合、カビの発生や劣化のおそれがあります。すぐに乾燥させてください。
- 紫外線や酸性雨などの自然現象、経年変化により劣化が早まる場合がありますので、日差しの強い場所で保管したり、雨ざらしにしないでください。



お知らせ

- フットカバーを付けたままグリップバーの開閉操作ができます。
- 別売品のレインカバーとの同時取り付けはできません。
- 別売品のインナーシートセットとの同時取り付けは可能です。
- 洗濯を繰り返すと表地の撥水性能が低下する場合があります。

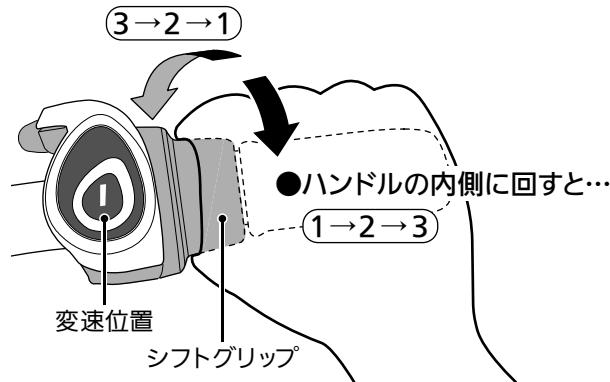
乗りかた

さあ、乗りましょう！(つづき)

乗りかた

変速のしかた

- ハンドルの外側に回すと…



- ① 足を止めるか踏む力を抜いて、シフトグリップを1段ずつゆっくり回す

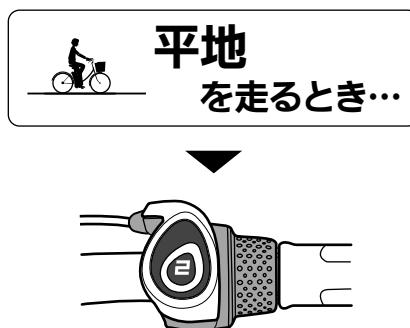
・位置決めの軽い手ごたえがあるまで回してください。

変速位置	ペダルの回転が
1	軽くなる
2	重くなる
3	

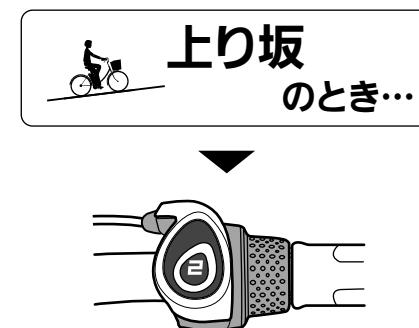
お願い

- 変速操作は、よく練習してください。
- シフトグリップを無理に回す変速はしないでください。また、変速するときは、足を止めるか踏む力を抜いてください(変速機を傷める原因になります)。

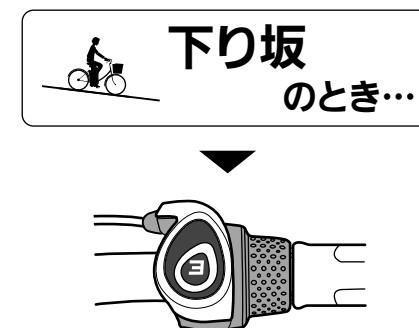
●変速機の上手な使いかた



平地
を走るとき…



上り坂
のとき…



下り坂
のとき…

- シフトを2(または3)の位置に合わせる
安全に走行するために、発進するときや、きつい上り坂の手前では、シフトを1に合わせてください。

上り坂の手前で…

- シフトを2(または1)の位置に合わせる

安全に走行するために、発進するときや、きつい上り坂の手前では、シフトを1に合わせてください。

お願い

- 上記は推奨変速位置です。標準的な変速位置を示していますが、自分の体調や脚力に合わせ、適切な変速位置をお選びください。
- 長期間変速しない場合(保管時含む)や、極端な低温でのご使用で変速ケーブルが固着し変速できなくなることがあります。走行まえには正しく変速することを確認してください。また固着を防止するために、走行時はこまめな変速をこころがけてください。

●安全に走行するには…

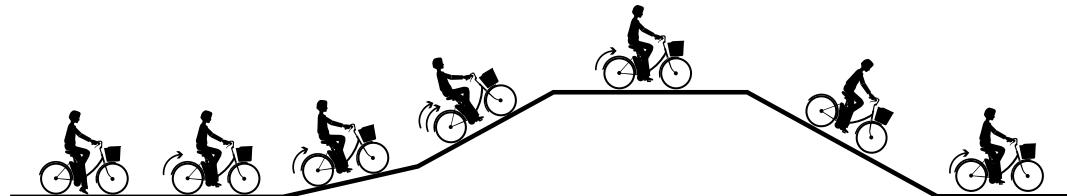
- 軽めの変速位置を選んでください(特に発進と上り坂)。
- 変速機やアシストモードは、坂や風の状態、体調などによって、最適の位置を選んでください。
- タイヤの空気圧はいつも適切にしてください(☞42ページ)。

アシストの強さを変える

手元スイッチに電源が入った状態で、アシスト切替ボタンを押すと、アシストモードの切り替えができます。

アシストモード	
「パワーアシスト」	常にパワフルなアシスト力で、坂道や重い荷物を積んでいるときでも快適な走行ができます。
①↑↓②	
「オートマチックアシスト」	走行条件により、アシスト力を自動的にコントロールします。
①↑↓②	
「ロングアシスト」	走行条件により、アシスト力を自動的にコントロールし、さらにアシスト力を抑え、1回の充電で長距離走行が可能です。

●アシスト力の変化



モード設定/走行条件	スタート	平地	上り坂	急な上り坂	平地	下り坂	平地
『パワーアシスト』	強	強	強	強	強	アシストOFF	強
『オートマチックアシスト』	強	中	強	強	中	アシストOFF	中
『ロングアシスト』	中	弱	中	中	弱	アシストOFF	弱

お知らせ

- 坂道や重い荷物を載せて走行するときは、アシスト切替ボタンを押し、「パワー」にしてください。
- 電源を入れたときは、前回電源をOFFしたときのモードで起動します(オートメモリー機能)。
- 下り坂などでペダルが軽くなると、すべてのモードで自動的にモーターが止まり無駄な電力消費を抑えます。
- アシスト切替ボタンを何度も押すことで、アシストモードを一巡することはできません。

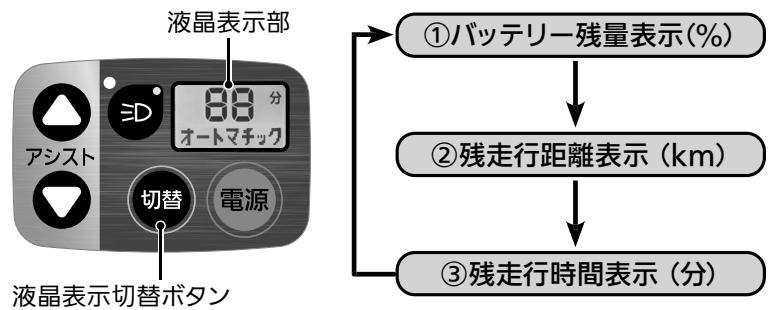
乗りかた

さあ、乗りましょう！(つづき)

あとどれくらい走れるかを見る

手元スイッチに電源が入った状態で、液晶表示切替ボタンを押すと、「バッテリー残量表示」→「残走行距離表示」→「残走行時間表示」の順で、データを表示できます。

●液晶表示部の表示例



バッテリー残量の目安を割合で表示します。

残りアシスト走行可能距離の目安を表示します。

残りアシスト走行可能時間の目安を表示します。

表示項目	表示例	表示例の説明
①バッテリー残量表示(%)		バッテリー残量が、100パーセント満充電状態です。
②残走行距離表示(km) (残りアシスト走行可能距離)		残り30kmアシスト走行可能です。 ※選択するアシストモードや実際の走行状況によって変わります。
③残走行時間表示(分) (残りアシスト走行可能時間)		残り128分アシスト走行可能です。 ※選択するアシストモードや実際の走行状況によって変わります。

上記内容は表示例であり、実際の表示とは異なる場合があります。

●1回の充電で走行できる距離の目安

- ① バッテリーを満充電にして自転車に装着してください。
- ② 液晶表示切替ボタンで残走行距離表示にして、走行距離を確認してください。表示値は目安としてご使用ください。実際の走行状況により、69ページの測定値とは異なります。

お知らせ

- 電源を入れたときは、「バッテリー残量表示」から表示します。
- 残走行距離表示や残走行時間表示は目安となる数字です。実際の走行状況により異なる場合があります。
- 満充電時の残走行距離表示、残走行時間表示は、バッテリーの劣化状態(バッテリーは充放電を繰り返すと徐々に能力が低下し、走行できる距離が短くなります)により、最大値が小さくなります。

走行できる距離の目安

- 1回の充電で走行できる距離の目安は下表のとおりです。

走りかた	走行条件	走行距離(km)			
		20	40	60	80
標準パターン (業界統一テスト条件)※	標準パターン(4 km) Ⓐは、平坦路1km、 変速③、15km/h			50 km	
	Ⓑは、4度坂1km、 変速②、10km/h			60 km	
	Ⓒは、平坦路1km、 変速③、15km/h				
4度登坂連続パターン 4度坂、変速②、10km/h	Ⓓは、4度坂1km、 変速③、20km/h			86 km	
	●印は10秒間の停止を表す				
パワーロング	パワーロング(19 km)				
オートマチック	オートマチック(21 km)				
オートマチック	オートマチック(26 km)				

- 測定方法 一般社団法人自転車協会が定める、『電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準(2010年4月1日施行)』に基づき測定

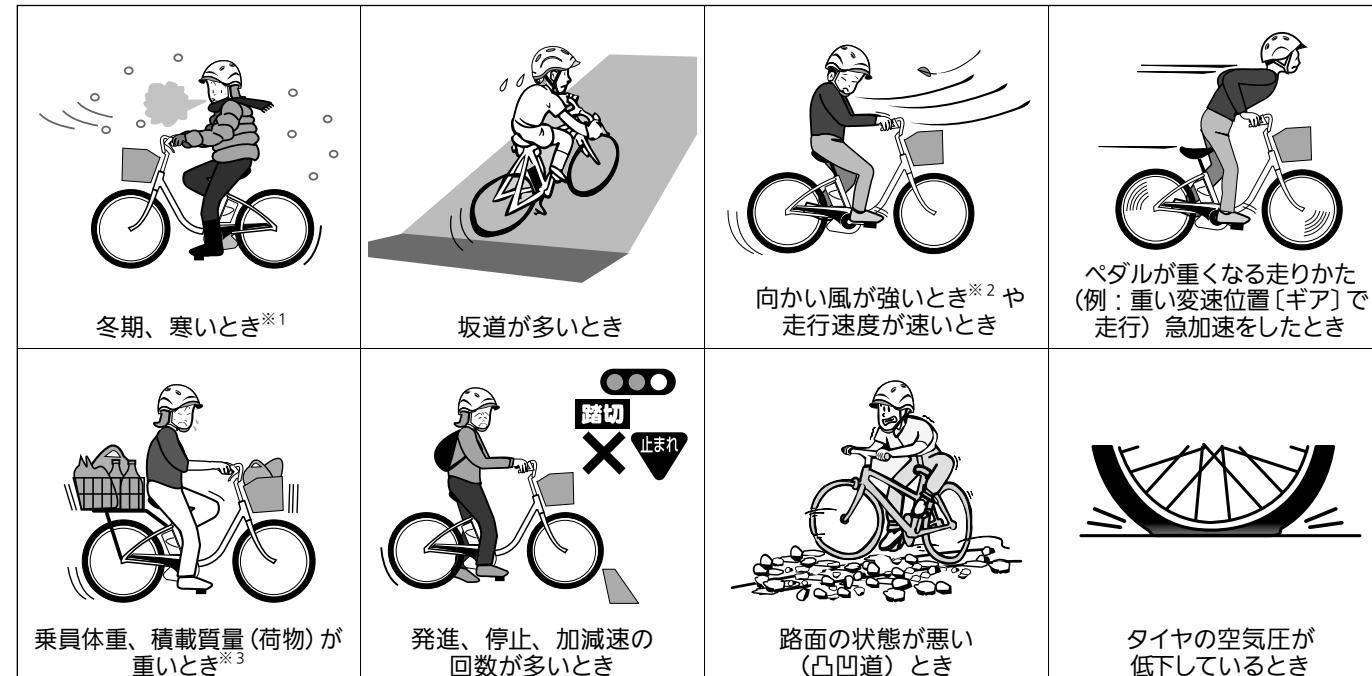
※一般社団法人自転車協会が定める、『電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準』に準拠したテスト条件。

先に記載している、1満充電当たりの走行距離の測定条件は、以下のとおりです（業界統一テスト条件）。

- 1) 環境温度は20±5℃、無風の状態
- 2) バッテリーは新品を用い、バッテリーライトは消灯状態
- 3) 車載重量（乗員と荷物の合計）は65kg
- 4) 路面は乾燥した平滑な路面
- 5) タイヤ空気圧はタイヤ側面に刻印されている標準空気圧
- 6) シャーシダイナモ（室内計測機）による計測

- 各アシストモードの詳細については、67ページをご覧ください。
- 走行距離は、バッテリーの劣化度合や、発進停止・徐行後の加速・登坂路走行の頻度により短くなります。
また、冬期など気温が低いときにも短くなります。

●走行距離が短くなる環境 / 使いかた



※1 冬期（寒い環境 約5°C以下）では、バッテリーの性能が低下し、走行距離が大幅に短くなることがあります。
⇒バッテリーを暖かい室内で保管し、使用するときだけ自転車に装着することで、性能低下を軽減することができます。

※2 風速2m/sの向かい風中を走行した場合、約40パーセント、走行距離が短くなります。

※3 積載質量（乗員体重）が10kg増えた場合、約10パーセント、走行距離が短くなります。

●バッテリーは消耗品です。使いかたによっては3年程度で容量が半分以下になる場合があります。1回の満充電で走行できる距離が著しく短くなったり、走行できなくなったときはバッテリーの寿命ですので交換が必要となります。

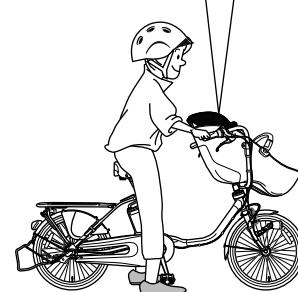
●バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電し、目安の走行距離まで走れないことがあります。
⇒乗車まえにバッテリーの残量確認を心掛けてください。

●そのほかにも、走行距離は、気象条件、路面の状況、自転車の整備具合、自転車の乗りかたなどにより、大幅に短くなることがあります。

●次のようなときはアシスト力は働きません。

- ・速度が24km/h以上のとき。
- ・ペダルを踏む力が弱いとき、または、ペダルの回転を止めているとき。

1. 自転車から降りるまえに、手元スイッチの電源を切る



- ① 手元スイッチの電源ボタンを押す
・液晶表示部が消灯し、電源がOFFになります。

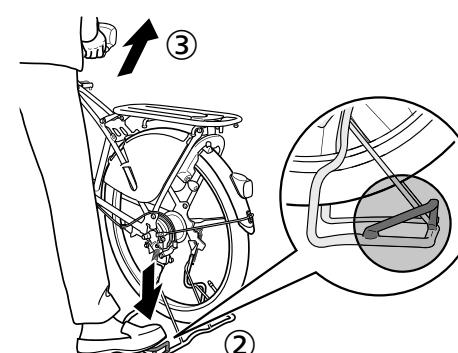
お知らせ

- バッテリーライト点灯時、電源を切ると、ライトは消灯します。



- 走行直後は、ブレーキ部に手を触れない**
(ブレーキ部が高温になり、やけどの原因)
接触禁止

2. 駐輪する



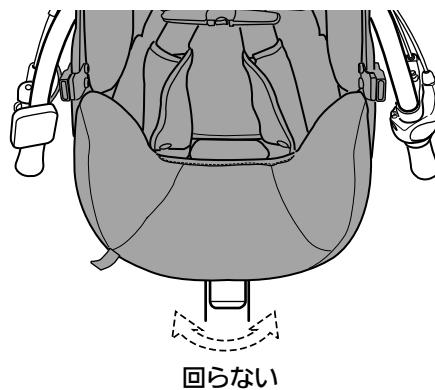
- ① ブレーキレバーを握ったままサドルから降りる
- ② 左手でハンドルを持ち自転車を固定する。スタンドの○の位置を足で踏む
- ③ 右手でサドルを引っ張り、スタンドを立てる
・スタンドロックが自動的にかかります。

お願い

- スタンドを立てた状態で、無理な力を加えないでください（自転車を引きずったり、重いものを乗せたりしないでください）。
- スタンドを立てた状態で、無理なハンドル操作を行わないでください。前車輪旋回抑制機構が壊れる原因になります。
- 次のような場合、スタンドを立てたときにスタンドロックがかかっているか必ず確認してください（意図せずスタンドが上がり、自転車が倒れるおそれがあるため）。
 - ・使用による摩耗や転倒などにより、スタンドが変形した場合
 - ・油切れにより、オートロック機構が作動しない場合
- スタンドと地面の接地部分は、地面との摩擦により表面処理が取れ、さびが発生します。地面にさびが付く場合がありますので、駐輪場所にご注意ください。

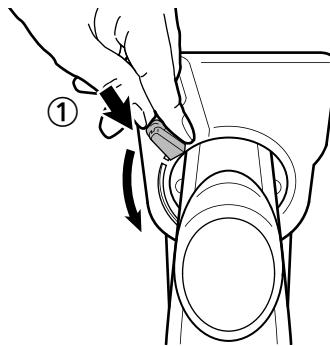
駐輪・施錠のしかた(つづき)

3. ハンドルの状態を確認する



- ① スタンドのロックがかかり、ハンドルが容易に回らないことを確認する

4. 後輪サークル錠を施錠する



- ① 後輪サークル錠のつまみを押し込みながら、下へ止まるまで回す

お願い

- 必ず車輪の回転が止まってから、後輪サークル錠を施錠してください。スポーク・後輪サークル錠が接触すると、スポークや錠前または錠前を取り付けるフレームの台座が変形・破損するおそれがあります。
- 駐輪場など、決められた場所に駐輪してください。

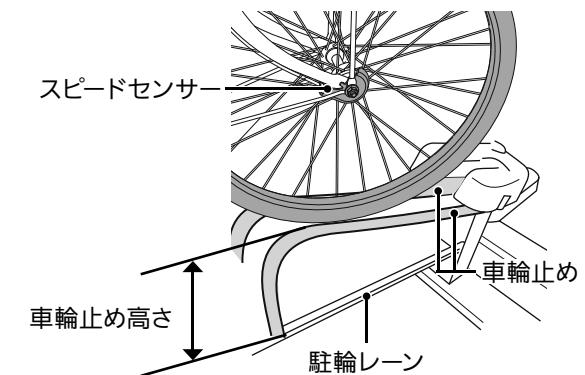
駐輪場をご使用になるときは

駐輪時、駐輪レーン上の車輪止め高さにより、駐輪設備に適応しない場合があります。
駐輪場にてご確認の上、ご使用ください。

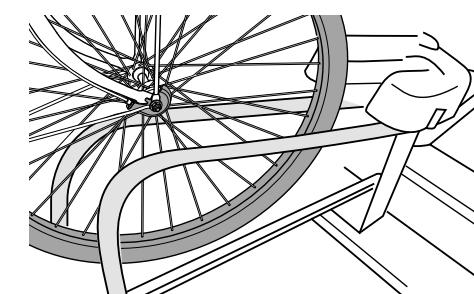
●車輪止め高さの確認

スピードセンサー下端 までの高さ	約 22 cm
---------------------	---------

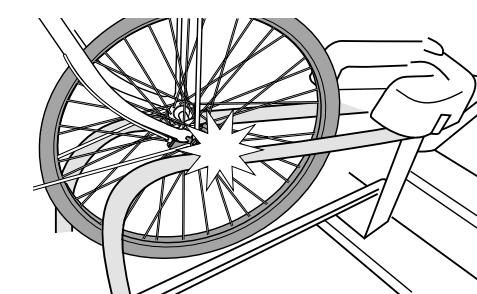
- 自転車を左右および斜めに倒しても、車輪止めにスピードセンサーが接触しないことを事前に確認してください。接触する場合は駐輪レーン付駐輪場のご利用はお控えください。スピードセンサーが変形したり破損するおそれがあります。



※上記レーンのイラストは一例です。



〈○ スピードセンサーが接触していない〉



〈× スピードセンサーが接触している〉

●スピードセンサーが変形・破損した場合

スピードセンサーが割れている、フロントフォークと接触・変形・破損などしている場合は、お買い上げの販売店へご相談ください(破損したまま走行すると、手元スイッチにエラー表示が点灯する場合があります)。

お手入れについて

■日常のお手入れ

- 乾いた布やブラシで、泥や土、ほこりを落としてください。
- がんこな汚れには、台所用洗剤(中性)を薄めてご使用ください。



■次のような場所では、

〈湿気の多い場所・海岸沿い・工場地域・エアコンの室外機のそば・自動車の排気ガスのかかる所・鉄道の線路際など〉

- さびやすいので、お手入れの回数を、多くしてください。

■ステンレス部品

- ステンレスはさびにくい金属ですが、使用条件や環境によってさびることがあります。

下記の点にご注意の上ご使用ください。

○ステンレスに付着した鉄粉などがさびることによって「もらいさび」が発生しますので、お手入れを頻繁に行ってください(例: 鉄道や鉄工所の近辺での保管車、後車輪周りのステンレス部品など)。

○ステンレスは塩素にも弱く、さびることがあります。塩分や塩素系の洗浄剤が付着したときは、乾いたあとでもさびが発生しますので、水を含んだ布などでしっかりふき取ってください。

お願い

- 本自転車は生活防水性能を備えていますが、駆動ユニットやバッテリー、手元スイッチ、バッテリーライト、ラクイックシステム(後輪サークル錠)などの電装部品や回転部(前後ハブ、ヘッド部など)にはホース先端をすばめて圧力のある水を直接かけての洗車や、高圧洗浄機やスチーム洗車機を使った洗車はしないでください。水が入った場合、故障の原因となるおそれがあります。万一、駆動ユニット、バッテリーなどが水につかった場合は、直ちに使用を中止して販売店にご相談ください。

- 融雪剤や農薬を散布した道路を走行後、または台風が通過したあとなどは薬剤や塩分の影響により、自転車のステンレス部品にもさびが生じることがあります。このような場合、水道水で薬剤や塩分を流していただき、乾いた布でふき取るようにしてください。

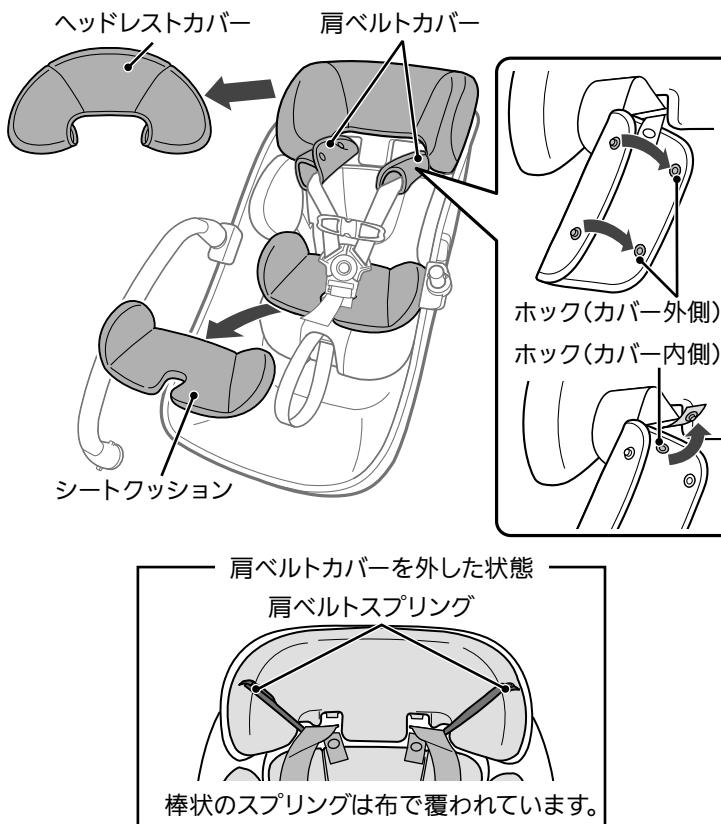
- 長期間ご使用になった場合、車体側接続端子の表面に汚れや酸化物が付着し、バッテリー端子との滑りが悪くなり、バッテリーの取り外しが固くなることがあります。バッテリーの取り外しが固くなったときは、乾いた布で車体側接続端子の汚れや酸化物をふき取ってください。このとき、金属製のものは使用しないでください。ショートして感電・火災のおそれがあります。ふき取っても汚れが取れないときは、販売店に依頼し、車体側接続端子を交換してください。

- バッテリーケースの汚れは、水を含んだ布などでふき取ってください。
- シンナー・ベンジンなどの有機溶剤、ガソリンなどの石油類薬品、酸性・アルカリ性の洗剤などは使用しないでください(塗装がはげたり、樹脂製部品が浸食されたりします)。
- サドルには、ワックスをかけないでください(座ったとき衣服が汚れたり、滑ったりします)。
- 雨天走行後は、アルミリム側面のブレーキシュー接触面の砂や泥をふき取ってください(黒く変色するのを防ぎます)。
- 定期的にリム側面の清掃を行ってください。清掃しないと、ブレーキとの擦れくずや汚れなどが飛び、衣服が汚れるおそれがあります。

必要なとき

チャイルドシートのカバー類のお手入れのしかた

■カバーの外しかた・取り付けかた



- ①ヘッドレストを最上段まで引き上げる
- ②ヘッドレストカバーの側面を片側ずつ外す
- ③肩ベルトカバー外側2か所のホックを外す
- ④肩ベルトカバー内側の上部1か所のホックを外し、肩ベルトスプリングから引き抜く(下図参照)
- ⑤肩ベルトスプリングを本体から引き抜く
- ⑥シートクッションを外す

※取り付けるときは、外すときの手順を逆に行つてください。



注意

- 肩ベルトカバーを外した状態で肩ベルトスプリングを本体に取り付けたまま、使用しない
(肩ベルトスプリングだけを取り付けて使用した場合、幼児に当たりけがをするおそれ)

■カバーの洗いかた

- ヘッドレストカバーに縫製されている洗濯ラベルに従い洗濯してください。
- 肩ベルトスプリングは洗濯しないでください。
- 洗濯機をご使用の際は、洗濯用ネットに入れて、洗濯してください。ほつれや傷みの原因になります。
- 水、またはぬるま湯で洗濯機の弱水流または手洗いしてください。
- 洗濯の際は、中性洗剤をお勧めします。蛍光剤・漂白剤入りの洗剤は肌荒れ、湿疹などのおそれがありますので、使用しないでください。
- 製品の特性上、色あせすることがあります。
- 色落ちすることができますので、ほかの洗濯物とは別に洗ってください。また、つけ置き洗いも避けてください。
- 十分にすすぎ、軽く脱水したあと、形を整えて陰干してください。
- 乾燥機の使用やドライクリーニングはできません。

お知らせ

- 縫製品は雨や汗でぬれたまま放置したり、皮脂などの汚れが原因でカビが発生することがあります。こまめにお手入れをすることをお勧めいたします。

お願い

- 縫製品がほつれたり、破れたりした場合は交換してください(☞77ページ)。

必要なとき

お手入れについて(つづき)

チャイルドシート本体・パッド・グリップバーのお手入れのしかた

- 通常は、固くしぼった布で水ぶきしてください。
- 汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水ぶきし、日陰で乾燥させてください。

サンシェードのお手入れのしかた

- サンシェードは液中につけず、洗剤を入れた水、またはぬるま湯をつけたスポンジなどを使用して、汚れをふき取ってください。
- 洗剤を使用して汚れを取ったあとは、水分を含ませた布やスポンジで洗剤分が残らないように数回ふき取ってください。
- 乾かすときは、乾いた布で水分をふき取り、陰干ししてください。
- 製品の特性上、若干色あせすることがあります。

フットカバーのお手入れのしかた

- 洗濯機をご使用のときは、洗濯用ネットに入れて、洗濯してください。ほつれや傷みの原因になります。
- 水、またはぬるま湯で洗濯機の弱水流または手洗いしてください。
- 洗濯の際は、中性洗剤をお勧めします。蛍光剤・漂白剤入りの洗剤は肌荒れ、湿疹などのおそれがありますので使用しないでください。
- 製品の特性上、色あせすることがあります。
- 色落ちすることがありますので、ほかの洗濯物とは別に洗ってください。また、つけ置き洗いも避けてください。
- 十分にすすぎ、軽く脱水したあと、形を整えて陰干ししてください。
- 乾燥機の使用やドライクリーニングはできません。

交換用純正品品番

色	パッドの部位	品番
ネイビー	頭部	NCD545K
	側面部(左右セット)	NCD548K
	背面部	NCD546K
	座面部	NCD547K
ブラウン	頭部	NCD549K
	側面部(左右セット)	NCD552K
	背面部	NCD550K
	座面部	NCD551K

品名	品番
グリップバー(ネイビー)	NCD014H
グリップバー(ブラウン)	NCD015H
ヘッドラストカバー(ネイビー)	NCD492K
ヘッドラストカバー(ブラウン)	NCD493K
肩ベルトカバー	NCD557K
肩ベルトスプリング	NCB237K
サンシェード	NAR190
フットカバー(ネイビー)	NAR186
フットカバー(ブラウン)	NAR185
シートクッション(ネイビー)	NCD537K
シートクッション(ブラウン)	NCD538K

お願い

- 炎天下で放置した場合に色あせや変形があります。交換する際は上記純正品を使用してください。

注油について

故障かな？

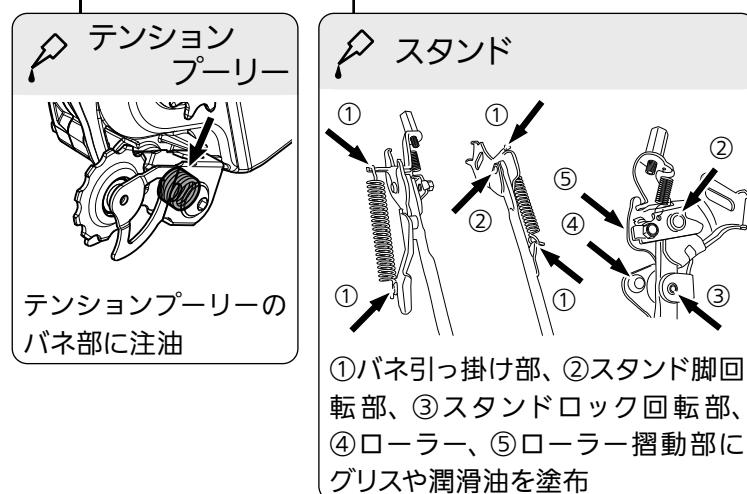
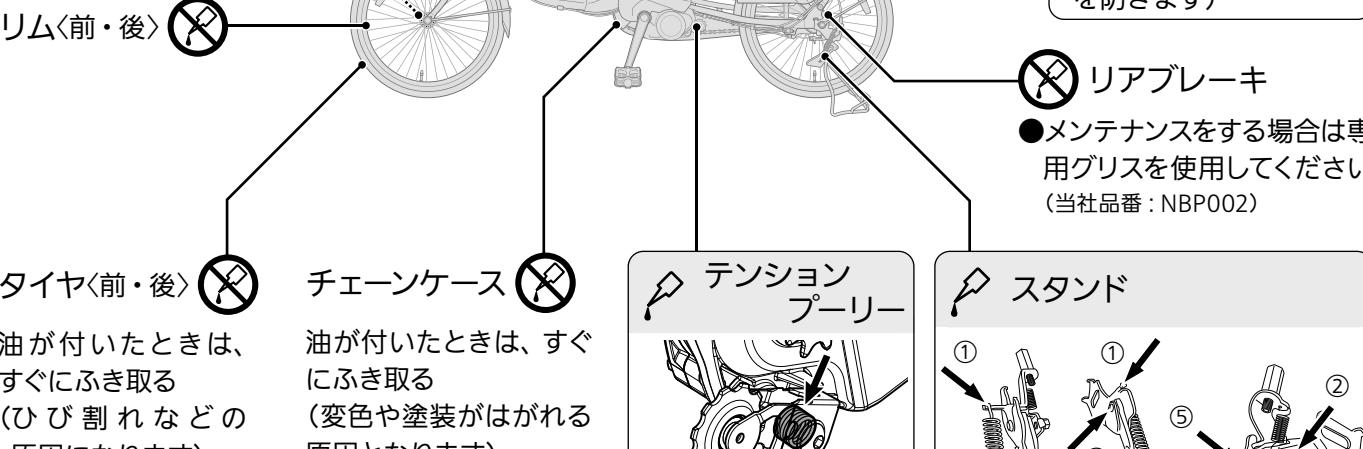
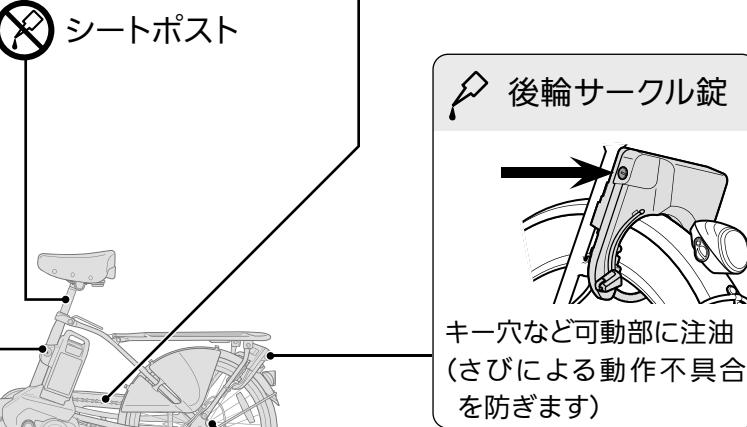
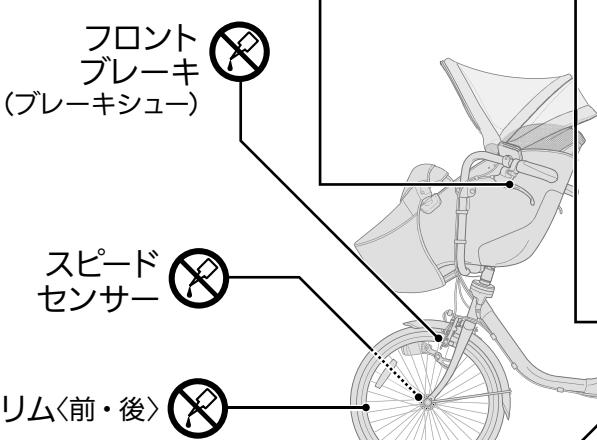
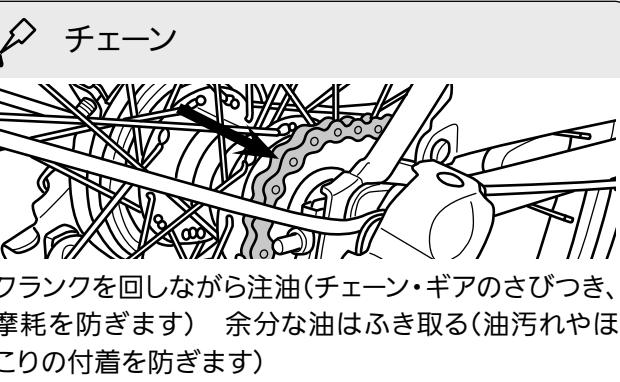
注油場所と注油禁止場所

このマークは、注油場所を示します。

このマークは、注油禁止場所を示します。

お願い

- 油の種類は、必ず、自転車用油を使用してください(食用油などは、硬化するおそれがあります)。
- 余分な油は、乾いた布でふき取ってください。
- キー穴には鍵穴専用の潤滑剤をご使用ください。ほかの潤滑剤などを使用するとほこりが付着し動作不良の原因となります。



まず、次の表に従ってお調べいただき、直らないときは、お求めの販売店に修理をご依頼ください。

症 状	対処方法	ページ
手元スイッチの液晶表示部が点灯しない	<ul style="list-style-type: none"> ●バッテリーが確実に取り付けられていますか? ⇒バッテリーを確実に取り付けてください。 ●バッテリーの残量表示ボタンを押したときに、2・4番目のLEDランプが点滅すれば、保護機能が働いています。 ⇒バッテリーを充電してください。 	47
ペダルが重い・アシストしない	<ul style="list-style-type: none"> ●バッテリーの残量表示ランプが点灯しないときは、保護機能が働いています。 ⇒バッテリーを充電してください。 ※充電しても表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。 ●充電ができますか? ⇒バッテリーを充電してください。 ●配線が緩んでいたり、端子が汚れていたりしませんか? ⇒販売店にご相談ください。 	45
補助(アシスト)が弱い	<ul style="list-style-type: none"> ●ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか? ⇒電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。 	62
補助(アシスト)しない	<ul style="list-style-type: none"> ●停止して10分以上たっていませんか? (オートオフシステム) ⇒電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。 ●液晶表示部に「アシストナシ」と表示されていませんか? (手動でバッテリーライトを点灯させている場合) ⇒電源ボタンを押して、電源を入れてください。 	31
充電できない	<ul style="list-style-type: none"> ●バッテリーが充電器に正しく挿入されていますか? ⇒バッテリーを充電器に正しく挿入してください。 ●充電器のバッテリー挿入部が汚れていませんか? ⇒汚れを取り除いてください。 <p>〈バッテリーの残量表示ボタンを押して確認してください。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ランプが5つ点灯のとき ⇒満充電のため、再充電はできません。1度使用してから、充電してください。 ○ランプが空 ⇒ 満(左 ⇒ 右)に1個ずつ流れるように点滅のとき ⇒バッテリーの故障が考えられますので販売店にご相談ください。 	46
バッテリーの残量表示ランプが点灯しない	<ul style="list-style-type: none"> ●高温・低温による充電停止です。 ⇒周囲温度が5℃～35℃の場所で充電している場合は、そのまま充電を続けてください。バッテリーの温度が充電に適した温度になると自動的に充電を開始します。 ●走行直後ではありませんか? ⇒走行直後はバッテリーの温度が上昇し、充電できない場合があります。温度が下がるまでお待ちください。 	48
バッテリーの残量ランプの1・3・5番目が同時に点滅する(充電中に表示しない場合もあります)		—

故障かな?(つづき)

症 状	対処方法	ページ	症 状	対処方法	ページ
充電できない バッテリーの残量ランプが空 ⇒ 満(左 ⇒ 右)に消灯 LED が1つずつ流れる	●バッテリーの故障が考えられます。 ⇒販売店にご相談ください。	—	充電が完了したのに、車体に搭載すると、手元スイッチの残量が100%にならない	●バッテリーが高温、または低温になっていませんか? ⇒保護機能により充電待機状態になり、満充電されていません。周囲温度が5 °C~35 °Cの場所で充電している場合は、そのまま充電を続けてください。バッテリーの温度が充電に適した温度になると自動的に充電を開始します。	48
走行距離が短い 手元スイッチの液晶表示部が短い走行で点滅を始める	●充電ができますか? ●長期間使用せずに、放置されていませんでしたか? ⇒バッテリーを充電してください。 ●初めて使用するバッテリーではないですか? ⇒バッテリーを充電してください。 ●道路条件や変速位置、70 ページに記載しているような走行により、走行距離が、短くなります。 ●冬期は、バッテリーの特性で性能の低下が大きくなります。 ●タイヤの空気圧が低下していませんか? ⇒自転車用ポンプを使って空気を入れてください。 ●ブレーキの調整は正しくできていますか? ⇒ブレーキの調整を販売店に依頼してください。 ●繰り返しの充電や長時間の使用でバッテリーは劣化(性能低下)します。 ⇒1回の充電で走行できる距離が著しく短くなった場合(新品時の約50パーセント以下)は、新しいバッテリーに交換してください。	45 45 69 70 42 40 86	充電器のプラグをコンセントに差し込むと火花が散る	●充電器は正常なものでも火花が発生する場合があります。 ⇒電気は直流・交流に関わらず回路が成立する直前(金属が触れる直前)から流れ始めるため、電圧・電流の違いにより必ず大小の火花は出ております。スイッチ付電源タップをご使用の場合、OFFにして接続し、ONにすると火花は発生いたしません。ただし、コンセント端子以外から火花が発生している場合は製品の異常が考えられます。販売店にご相談ください。	46
バッテリーの残量表示ボタンを押すと、残量表示のあと、ランプが満 ⇒ 空(右 ⇒ 左)に2個ずつ流れるように2回点滅表示する	●バッテリーが劣化し、容量が新品時の約50パーセント以下になっています。 ⇒新しいバッテリーに交換してください(故障ではありませんので使用できますが、残量ボタンを押すたびに表示が現れます)。	86	ペダルに振動を感じる	●ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、モーター固有の特性です。故障ではありません。	—
充電器が熱くなる	●充電中に、充電器が熱くなります(底面は、天面や側面よりも熱くなります)。 ⇒異常ではありません。 ●充電器本体が変形などしている場合は異常です。 ⇒直ちに使用を中止し、販売店にご相談ください。	—	明るくなてもバッテリーライトが自動で消灯しない	●手元スイッチの保護フィルムをはがしましたか? ⇒照度センサーの感度が悪くなる場合がありますので、手元スイッチの保護フィルムをはがしてください。	—
バッテリーが熱くなる	●手で触れられないほど熱い場合は異常です。 ⇒直ちに使用を中止し、販売店にご相談ください。	—	自転車をバック(後車輪を逆回転)させると、回転が重い	●駆動ユニットの負荷状態により、車輪を逆回転させた際に、一般の自転車より負荷を感じることがあります(特にバッテリーを取り外した状態や、バッテリーの保護回路が働いた状態)。	—
充電が完了したのに残量表示ランプが5個全部点灯しない	●充電途中で電源プラグを抜きましたか? ⇒再度充電してください。 ●充電器の端子が汚れていませんか? ⇒乾いた布などで清掃してください。 ●長期間使用されたバッテリーですか? ⇒バッテリーの寿命です。販売店にご相談ください。	45 46	液晶画面に黒い線や残像が残る	●保護フィルムをはがしたときや、ご使用時の摩擦等により、静電気の影響で液晶画面に黒い線や残像が残ることがあります。また、これらの表示は時間経過により消えます。	—

必要なとき

必要なとき

故障かな?(つづき)

症 状	対 处 方 法	ペ ー ジ
サークル錠が解錠できない アラーム音「ピーッ、ピーッ、ピーッ、ピーッ」が鳴る(通信エラー)	<ul style="list-style-type: none"> ●電子キーが作動可能状態になっていますか? ⇒通信エラーが発生しているので電子キーを作動可能になる状態にしてください。 <ul style="list-style-type: none"> ・電子キーを携帯していますか? ・電子キーの電源を切っていませんか? ・電子キーの電池が消耗していませんか? ・近くにテレビ塔や発電所、ラジオ局、空港など強い電波を発生する設備がありますか? ・電子キーと一緒にノートパソコン、ラジオ、携帯電話などの無線通信機器を携帯していませんか? ・電子キーが金属製のものに接したり、覆われたりしていませんか? 	30
アラーム音「ピピッ、ピピッ、ピピッ、ピピッ」が鳴る(作動エラー)	<ul style="list-style-type: none"> ●サークル錠のカンヌキがスポークと接触していませんか? ⇒作動エラーが発生しているので、車両を動かしてカンヌキがスポークと接触しないようにしてください。 ●サークル錠のカンヌキが途中で止まっていますか? ⇒作動エラーが発生しているので、つまみを押し上げて、カンヌキを完全に解錠させてください。改善しない場合は販売店にご相談ください。 ●冬期に雨や雪が直接かかる場所に駐輪していませんか? ⇒サークル錠シリンダー内に入った水分が凍結し、一時的に解錠できなくなることがあります。とけると解錠できます。雨や雪がかかりにくい場所に駐輪してください。 ●ラクイックシステム本体の異常または故障が考えられます。 ⇒販売店にご相談ください。 	60
アラーム音が鳴らない	<ul style="list-style-type: none"> ●サークル錠からのケーブルが断線していませんか? ⇒販売店にご相談ください。 ●バッテリー残量が0%になっていませんか? ⇒アシスト停止状態なので、ラクイックシステムでの解錠はできません。バッテリーを充電してください。 	—
サークル錠(カンヌキ)は完全に解錠しているが、アラーム音がなる	<ul style="list-style-type: none"> ●ラクイックシステム本体の異常または故障が考えられます。 ⇒販売店にご相談ください。 	45

手元スイッチに次の表示が出たときは、内容を確認して対処してください。

表 示	対 处 方 法	ペ ー ジ
	<ul style="list-style-type: none"> ●ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか? ⇒ペダルを踏まないで、電源ボタンを押し、電源を入れてください。 <p>※改善しない場合は、販売店に修理をご依頼ください。</p>	62
	<ul style="list-style-type: none"> ●手元スイッチと駆動ユニットの間の通信異常です。 ⇒販売店に修理をご依頼ください。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> ●駆動ユニットのエラーを検出しています。 ⇒バッテリーを取り外して1分後に再度試してください。 <p>※改善しない場合は販売店に修理をご依頼ください。</p>	—
	<ul style="list-style-type: none"> ●駆動ユニットが過負荷のため、保護モードに入っています。 ⇒変速を「1」にし、軽負荷で走行してください。しばらくすると正常に戻ります。 <p>※(炎天下での乗車など)保護モードに入るとアシスト力が制限されます。そのまま走行していただいても問題ありません。表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。</p>	—
	<ul style="list-style-type: none"> ●スピードセンサーが正しく信号を検出できていません。 ⇒電源を入れ直してください。直らない場合は販売店にご相談ください。 <p>※スタンドを立てた状態(両立スタンド装着車の場合)でペダルをこぐと、『S センサエラー/E2』が表示される場合があります。電源を入れ直すか、実際に走行すると元に戻ります。</p>	—
	<ul style="list-style-type: none"> ●駆動ユニットまたはラクイックシステムの異常です。 ⇒販売店にご相談ください。 	—

お知らせ

- S センサエラー、M1・M2・B1・B2 オーバーヒート、C カギエラーの複数エラーが発生した場合、それぞれ「S、M1、M2、B1、B2、C」と省略して表示する場合があります。

運搬／保管／廃棄について

運搬



必ず守る
■自転車を運搬するときはバッテリーを外す
(自動車への積載時など、運搬の際に不意にペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転し、巻き込まれてけがをするおそれ)



■チャイルドシートのグリップバーを持って移動させない
(自転車が転倒し、幼児が落下してけがをするおそれ)

お知らせ

- リチウムイオンバッテリーは危険物であるため、基本的には公共交通機関への持込や飛行機や船での輸送は禁止されています。ただし、輸送・公共交通事業者によっては、制限を設けた上で、輸送(輸行)可能な場合があるため、事前に利用しようとする事業者にお問い合わせください。

廃棄

- 自転車・充電器を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。
- 使用済みの充電式バッテリーは、お早めに販売店にお持込いただきサイクル協力店にご相談ください
(資源有効利用促進法に基づき、貴重な資源を守りましょう)。
- バッテリーの廃棄については 86 ページをご覧ください。

保管

■保管場所(下記の場所に保管してください)

- 安定の良い所
- 風通しが良く、湿気の少ない所
- 雨つゆや直射日光が当たりにくい所

お知らせ

- バッテリーのケースや樹脂カバー類で白色や淡い色の物は、長期間の使用により変色や色あせが生じます。また、液晶表示部は直射日光に長期間さらされると、変色することがあります。
それを緩和するため、日の当たらない所での保管や「サイクルカバー」(91 ページ)の使用をお勧めします。
- チャイルドシートは雨ざらしにせず、屋根のある所で保管するか、別売品の「サイクルカバー」(91 ページ)の使用をお勧めします。
- レインカバーを装着したまま、直射日光の当たる場所に放置した場合、チャイルドシート内部が高温になるため、パッド類が変形するおそれがあります。
- ビニールシートをかぶせた状態で、直接太陽光が当たる風通しの悪い場所での保管は、パッド類(頭部、側面部、背面、座面部)の変形につながるおそれがありますのでご注意ください。

■タイヤの管理

- 空気を適正空気圧まで入れてください(42 ページ)。

■長期間保管する場合

- ごみやほこりが付くのを防ぐため、「サイクルカバー」(91 ページ)の使用をお勧めします。
- 長期間、バッテリーを取り外したままにするときは、汚れやほこりが付かないように、「端子カバー」(90 ページ)を装着することをお勧めします(端子カバーを装着したまま走行しないでください。落下して破損するおそれがあります)。

■バッテリーの保管

- バッテリーの保管については 86 ページをご覧ください。



禁止
■台風など雨風が強い屋外で自転車を横倒しにして保管しない
(モーターやバッテリー内部に水が浸入し、異常動作によりけがの原因)



必ず守る
■長期間保管した場合は乗るまえにケーブル類の点検を行う
(ケーブル類が固着してスムーズに動作せず、転倒につながりけがの原因)

バッテリーについて

■バッテリーの種類

- この自転車には、メモリー効果の心配が無く、軽量で安全性に優れたリチウムイオンバッテリーを搭載しています。

お知らせ

- バッテリーは標準品もしくは互換性のある当社製バッテリーを使用してください(☞ 90 ページ 互換性のあるバッテリーについては、販売店にご相談ください)。

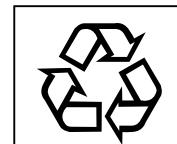
■バッテリーの容量表示

- バッテリー本体の PSE マーク部に表示している容量表示数値(16 Ah) は電気用品安全法(PSE)において JIS C8711 で規定された試験での測定容量値を定格容量値として表示しています。

- バッテリーの PSE マーク部以外の部分、取扱説明書、カタログの容量表示数値は実走を想定した社内試験条件放電での平均値(16 Ah) を容量値として表示しています。

■バッテリーの交換・廃棄

- お買い求めの販売店にご相談ください。



使用済みの充電式リチウムイオンバッテリーはリサイクルが可能です。貴重な資源を守るために、廃棄しないで販売店にお持ちいただくリサイクル協力店にご相談ください。
弊社は小形充電式バッテリーの回収・リサイクルを実施する「一般社団法人 JBRC」に参画し、リサイクル活動を推進しています。リサイクル協力店をお探しの場合は下記ホームページよりご検索ください(<https://www.jrc.com>)。

■交換時期の目安

- バッテリーは消耗品です。使いかたによっては 3 年程度で容量が半分以下になる場合があります。1 回の満充電で走行できる距離が著しく短くなったり、走行できなくなったときはバッテリーの寿命ですので交換が必要となります。

お知らせ

- 700 ~ 900 回の充放電で走行できる距離が購入時の約半分になります。
- 冬期(約 5 °C 以下)や寒い環境下では、1 満充電あたりの走行距離が短くなります。この現象はバッテリーの特性で、気温が高くなると走行距離は元に戻ります。
- バッテリー交換時期の目安と、製品の保証期間とは関係ありません。

■バッテリーの長期保管

- 電動アシスト自転車からバッテリーを取り外し、残量表示ランプ 2 ~ 3 個点灯の状態で保管してください。
- 周囲気温が涼しい場所(15°C ~ 25°C) で保管してください。
- バッテリーの劣化を抑えるため、半年に 1 回は充電器に搭載し、残量が 2 ~ 3 個点灯になるまで充電してください。
- バッテリーの残量表示ボタンを押した場合、LED ランプが点灯しないときは、保護回路が働いています。バッテリーを充電器にセットし、充電状態にすると解除されます。
- 長期保管後再使用する場合、あらかじめバッテリー残量を確認し、不足しているときは、必ず充電してください。

お知らせ

- バッテリーが劣化する条件(以下のような条件では劣化が早まります)
 - ・放置時間が長く、使用頻度が低いとき
 - ・バッテリー残量が少ない状態で長期間放置したとき
 - ・高温になる場所で充電を繰り返したり、保管したりしたとき
- 劣化したバッテリーは必要以上の充電を行わないよう、充電量(バッテリー容量)を制限し、お知らせする機能を搭載しています(☞ 80 ページ)。

■特別保証期間および保証対象

1. 電動アシスト自転車用リチウムイオンバッテリーの特別保証期間

お買い上げ日から 2 年間

保証対象：電動アシスト自転車用バッテリーの材料、製造の不具合

保証条件：お買い上げ日から 2 年以内かつ満充電回数 700 回以下で、初期容量の 50 パーセント以下に劣化した場合

2. 保証期間内でも次の場合には原則として保証対象外とさせていただきます。

(イ) 保証対象外となる症状

(1) バッテリーの特性による使用環境、天候、積載条件などに起因する 1 満充電あたりの走行距離低下
(一時的なものを含む)

- ・外気温が低い冬期に、1 満充電での走行可能距離が夏期使用時より少なくなる現象
- ・上り坂が多い、発進頻度が高い、積載量を含む総重量が重いことによる 1 満充電での走行距離が短くなる現象など

(2) バッテリーの温度特性またはシステム保護のための一時的なアシスト力低下

- ・外気温が 10 °C 以下の冬期使用時に、一時的にアシスト力が低下する現象
- ・外気温が高い夏期に、長い坂道を登ったり、重い荷物を積載して走行したりした場合、システムの保護のためにアシスト力が低下する現象など

(3) バッテリーの温度特性またはシステム保護のための充電の一時的な中断・待機の現象(回生充電も含む)

- ・気温 0 °C 以下の低温、夏の直射日光が当たる場所や走行直後の高温時に充電した場合、充電の中断または待機になる現象など

※ 上記(1) ~ (3) のバッテリー特性について、詳しくは本書の「走行距離が短くなる環境 / 使いかた」、「バッテリーについて」をご確認ください。

(ロ) 誤った使用および不当な修理やバッテリーの分解、バッテリー内部部品の交換、バッテリーパック内部セルの直はんだなどの改造・加工をしたバッテリーを弊社電動アシスト自転車に使用されたことが原因で発生する故障および損傷

(ハ) 落下や水の浸入などの取り扱いの誤りによる故障および損傷

(ニ) 業務用(荷物運搬・新聞配達など)、営業用(レンタサイクルなど)、不特定多数で使用された場合の故障および損傷

(ホ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変および公害、塩害、ガス害など、異常電圧、指定外の使用電源(電圧、周波数) などによる故障および損傷

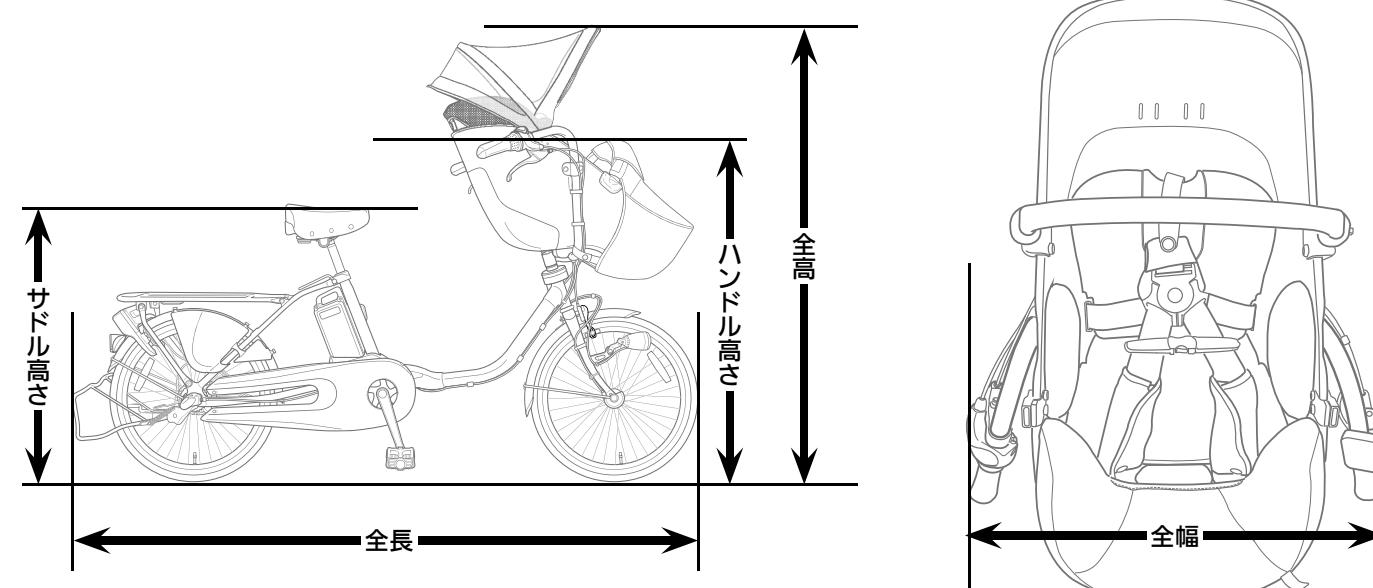
(ヘ) 保証書のご提示が無い場合

(ト) 保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入の無い場合、あるいは字句を書き替えられた場合

品名	ギュット・クルーム・EX	
品番	BE-FFE032	
寸法	全長	1,795 mm
	全幅	590 mm
	全高	1,330 mm
	ハンドル高さ	970 mm
	サドル高さ	730 mm ~ 860 mm
	タイヤ	20 X 1.95 HE
	軸間距離	1,245 mm
	総車両質量(バッテリーを含む)	32.0 kg
フレーム	U形	
ハンドルバー	ハイライズ形	
チャイルドシート	標準装備(質量: 4.0 kg)	
リフレクター	バッテリーライト部・後泥よけ・前後車輪・ペダルに取り付け	
スタンド	両立スタンド	
リアキャリア	標準装備(クラス 27)	
補助速度範囲	24 km/h 未満	
充電 1 回の走行距離(標準パターン)	50 km ^{※1} (アシストモード:「パワー」使用時)	
モーター形式 定格出力	直流ブラシレスモーター 250 W	
補助力制御方式	踏力比例制御 - 磁歪式	
バッテリー	品番	NKY594B02(ブラック)
	種類	リチウムイオンバッテリー
	容量	25.2 V - 16 Ah ^{※2} (21 cells)
	質量	約 2.5 kg
	ワット時定格量	404 Wh
充電器	品番	NKJ075Z
	形式	スタンド型
	電源	交流 100 V(50 Hz / 60 Hz)
	充電時間	約 5.0 時間
	質量	約 1.0 kg
	消費電力	約 140 W
	待機消費電力	約 0.5 W
充電できるバッテリー	90 ページ 別売品(アクセサリー) バッテリー(交換用)をご覧ください	
変速機方式	内装 3 段シフト	
駆動方式	クランク軸上合力発生一体型	
制装置	前輪	サイドプル形キャリパーブレーキ
	後輪	ローラーブレーキ
照明装置	バッテリー式前照灯	
施錠方式	後輪サークル錠	
乗車適応身長	142 cm 以上(幼児 2 人同乗の場合は 154 cm 以上)	
許容積載質量 ^{※3}	95.0 kg	
最大総質量 ^{※4}	132.0 kg	
ブレーキ性能試験時の負荷質量 ^{※5}	102.0 kg	

- 乗車適応身長は、1 人で乗車時、両足のつま先が地面に着地できる身長を指します。
幼児 2 人同乗時、両足のかかとが地面に着地できる身長を指します(☞ 12 ページ)。
 - 寸法や質量などの値は、部品のばらつきや仕様変更により、誤差が生じる場合があります。
 - 仕様変更などにより写真、イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
 - この車種は、乗員体重を 65 kg で基本設計しています。従って、著しくオーバーした体重の方が常用された場合は、各部の消耗度合、劣化度合が大きくなります。走行距離も、『標準パターン』に対して短くなります。
- ※1 走行条件: 環境温度は 20 ± 5 °C、無風の状態、バッテリーは新品、バッテリーライトは消灯状態、車載重量(乗員と荷物の合計)は 65 kg、路面は乾燥した平滑な路面、タイヤ空気圧は標準空気圧。
- ※2 バッテリー容量の表示値については 86 ページをご覧ください。
- ※3 許容積載質量: 乗員および同乗する幼児の体重(衣服や靴、ヘルメットなど身に着けているものすべて含む)と、積載する荷物の質量との合計
- ※4 最大総質量: 自転車および 2 つのチャイルドシートの質量、乗員および同乗する幼児の体重(衣服や靴、ヘルメットなど身に着けているものすべて含む)および積載する荷物の質量との合計
- ※5 ブレーキ性能試験時の負荷質量: 自転車および 2 つのチャイルドシートの質量、乗員の体重(衣服や靴、ヘルメットなど身に着けているものすべて含む)および積載する荷物の質量との合計

■寸法について



別売品(アクセサリー)

- 安全にご乗車いただくため、必ず当社の純正部品をご使用ください(当社の純正部品以外をご使用になり、不具合が生じた場合は、保証の対象外になります)。
- 別売品(アクセサリー)の品番・価格などは都合により変更することがありますので、取り付けの際に、販売店にご相談・ご確認ください(掲載している品番は2023年12月現在のものです)。

■幼児用自転車ヘルメット:

XS サイズ	S サイズ(バイザー付き)
NAY009 (マットブラック)	NAY015 (マットブラック)
NAY010 (マットレッド)	NAY016 (マットレッド)
NAY011 (マットネイビー)	NAY017 (マットカーキ)
NAY012 (マットカーキ)	NAY018 (マットオレンジ)
NAY013 (マットイエロー)	
NAY014 (マットオレンジ)	

● SG 基準認証済みです。

■フロント用バスケットアダプター:

NCB298S (リアバスケット NCB2136/2137/2198 をハンドル部取付時に使用)

■直付けサドル:

NSS2221S (ブラック)

■レインカバー(前用):

NAR177 (サンシェード装着用)
NAR178 (ブラック)
NAR179 (グレー×ブラック)

■フットカバー:

NAR168 (足元カバー / ブラック)

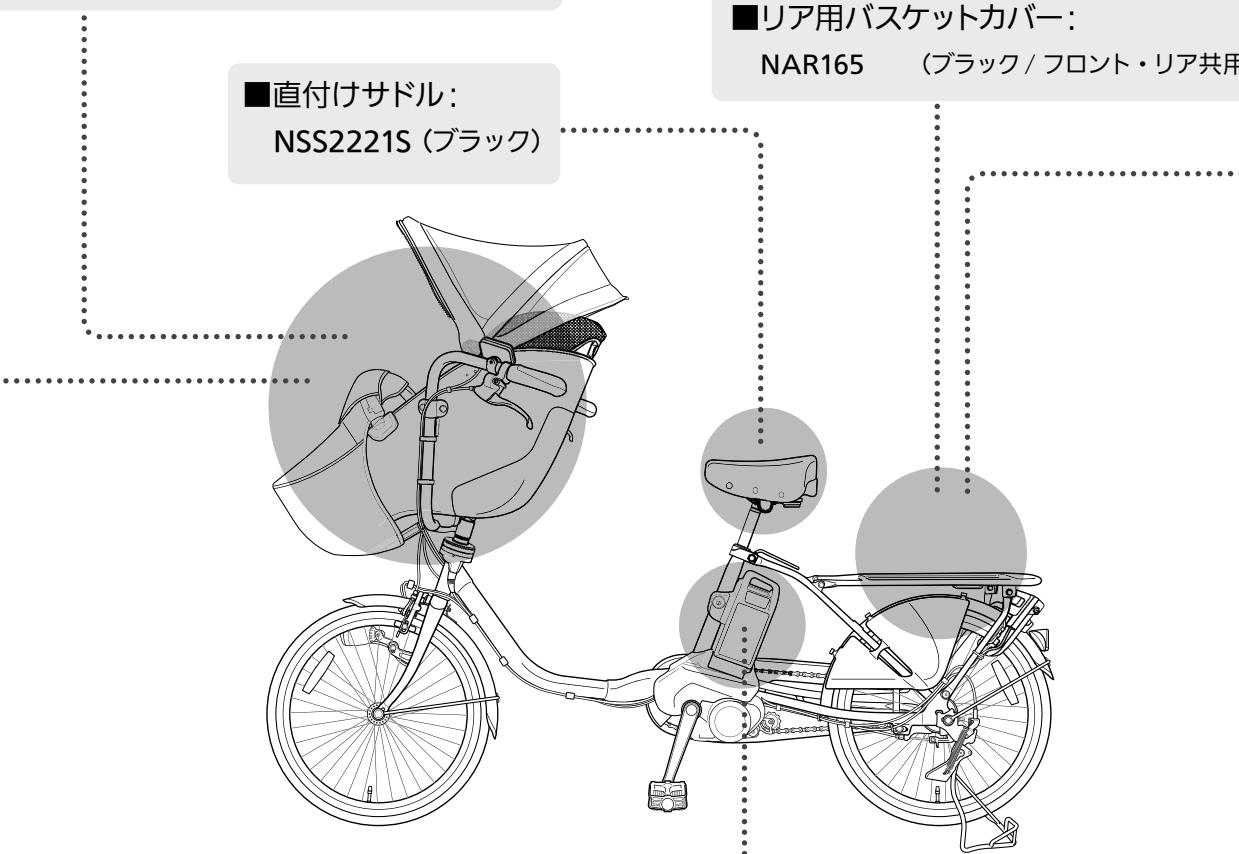
●レインカバーとの併用はできません。

■インナーシートセット(前用):

NCB313S (ネイビー / インナーシート&グリップカバー)
NCB314S (ブラウン / インナーシート&グリップカバー)
NCB315S (星柄 / インナーシート&グリップカバー)

■シートクッション(前用):

NCD510K (ブラック / プレミアムリアチャイルドシートにも取付可)



■バッテリー(交換用):

	16 Ah	12 Ah	8 Ah
ブラック	NKY580B02	NKY578B02	NKY576B02
	NKY594B02		

- 急速充電器: NKJ075Z (ブラック)
- 端子カバー: NAH413 (ブラック)
- USB出力アダプター: NKU001 (ブラック)

●2015年モデル以前のバッテリーとは互換性がありません。

●バッテリー互換性(容量アップダウン)については、当社ホームページ <https://cycle.panasonic.com/> でご確認いただけます。

■チャイルドシート(後用):

NCD500S (チャコールグレー / クルームリアシート / サンシェード付)
NCD501S (ライトグレー / クルームリアシート / サンシェード付)
NCD491S (チャコールグレー×ダークグレー / クルームリアシート / サンシェード付)
NCD502S (ブラック / プレミアムリアチャイルドシート / リールベルト付)
NCD503S (ブラウン / プレミアムリアチャイルドシート / リールベルト付)
NCD504S (ホワイトグレー×ブラウン / プレミアムリアチャイルドシート / リールベルト付)

- チャイルドシートは、SG基準認証済みです。
幼児の乗車可能範囲は年齢1歳(12ヶ月)以上、小学校就学の始期に達するまでの者、体重22kg以下で、身長115cm以下ですが、2歳(24ヶ月)からのご使用を推奨。
- チャイルドシートを取り付ける場合はドレスガードを必ず組み付けてください。

■プレミアムリアチャイルドシート用クッションセット:

NCB286S (ブラック)

■レインカバー(後用):

NAR187 (ブラック)
NAR181 (グレー×ブラック)

■インナーシートセット(後用 / クルームリアシート専用):

NCB324S (ネイビー / インナーシート&グリップカバー)
NCB325S (ブラウン / インナーシート&グリップカバー)
NCB326S (星柄 / インナーシート&グリップカバー)

■シートクッション(後用 / クルームリアシート専用):

NCD519K (ブラック)
NCD536K (ブラック / 低月齢児用)

■LEDライト(補助灯):

NSKR605 (クルームリアシート・レインカバー(後用)に取付可)

■ミニU型ロック:

NSAJ087-B (ブラック / シリコンカバー)
NSAJ087-M (ピンク / シリコンカバー)

●バッテリーの盗難防止用にご使用いただけます。

■サイクルカバー:

NAR138* (全体カバー / ピンク / レインカバー取付時併用不可)
NAR146* (ハーフ / ピンク / レインカバー取付時併用不可)
NAR175 (全体カバー / シルバー / レインカバー取付時併用可能)

■プレミアムサイクルカバー:

NSAR146* (全体カバー / シルバー / レインカバー取付時併用不可)

※サンシェードを取り外すことで使用可能

定期点検について

自転車安全基準/BAAマーク/点検整備済 TSマークのご紹介



必ず守る

■定期点検と整備は、異音がしたり、異常を感じたとき、それ以外でも必ず6か月に1回(初回を除き)実施する

(異常や故障の発見がおくれ事故発生によるけがのおそれ)

⇒必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士・自転車技士(自転車組立整備士)により点検・整備をお受けください。

・初回(2か月以内)の点検と整備

お買い上げ2か月ぐらいのご使用で、各部にねじの緩みが出ることがあります。

・2回目以降(6か月ごと)の点検と整備

安全にご愛用いただくため、お買い求めの販売店または修理代行店に依頼し、必ず継続してお受けください。

■ブレーキケーブル・変速ケーブルは、外観上異常が無くても2年に1回は、交換する*

■タイヤは、接地面(トレッド)の溝がなくなるまえに交換する*

■ブレーキシューは、溝の残りが、1mmになるまえに交換する*

■ブレーキシューは、リムにあった純正ブレーキシュー(当社品番:NBC064FF)に交換する*

*(ブレーキが利かなくなり、スリップのため転倒によるけがのおそれ)

⇒タイヤは仕様([88ページ](#))のタイヤ寸法にあったものと交換してください。

⇒交換は販売店に依頼してください。

■スタビタケーブルは、外観や作動に異常が無くても2年に1回は点検・調整し、必要に応じて交換する

(ハンドルロックがかかり、バランスを崩して転倒によるけがのおそれ)

⇒点検・調整や交換はお買い求めの販売店または修理代行店に依頼してください。

点検と整備は、自転車の大切な健康診断です。

いつまでも安全にお乗りいただくために、ご使用後、初めての初回(2か月以内)点検と、6か月ごとの定期点検の実施をお願いします(裏表紙の点検・整備チェックリストにて実施をお願いします)。

※定期点検・整備の料金は、お買い上げの販売店までお問い合わせください。

リチウムイオンバッテリー

愛情点検

●長年ご使用のリチウムイオンバッテリーの点検を!



こんな症状はありませんか

- 充電中、異常な音がする
- リチウムイオンバッテリーが異常に熱い
- こげくさいにおいがする



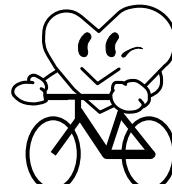
ご使用中止

このような症状のときは事故防止のため、自転車・充電器から外して、必ず販売店に点検をご相談ください。

自転車

愛情点検

●定期点検をし、安全走行をしましょう!



こんな症状はありませんか

- 異常な音がする
- がたつきや緩み
- 車輪の振れ
- ブレーキの利きが悪い



ご使用中止

事故防止のため、必ず販売店に点検、整備を依頼してください。

この自転車は一般社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。

自転車安全基準

一般社団法人自転車協会が消費者の安全第一と環境負荷の低減を目的として定めた基準です。

JIS(日本産業規格)をベースに、EN(ヨーロッパ規格)など海外の規格やヨーロッパの環境負荷物質に関する規制(RoHS指令)に基づいています。

BAAマーク



BAAマークが貼付された自転車は、安全で長持ちする自転車を目標に、一般社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。

万が一製造上の欠陥で事故が発生した場合は、製造・輸入業者の責任で補償いたします。

事故が発生した場合は、販売店にご連絡ください。

※一般社団法人自転車協会が直接利用者の皆様への補償をいたすものではありません。

「BAAマーク」は、自転車のバッテリーロックキー付近に貼り付けられています。

※BAA=自転車協会認証-BICYCLE ASSOCIATION (JAPAN) APPROVED

「幼児2人同乗基準適合マーク」は、幼児2人同乗用自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車に、貼ることができるマークです。弊社指定以外のチャイルドシートを装着すると、幼児2人同乗基準に適合しなくなります。

点検整備済 TSマーク(保険付き)のご紹介



新



旧

●工場出荷時に貼り付けているTSマーク([36ページ](#))には、保険は付帯されていません。

●傷害保険と賠償責任保険が付帯された保険付きTSマーク(左図)が別にあり、お客様のご希望により貼り付けることができます。

●保険付きTSマークは、自転車安全整備店(TSマーク取扱店)で点検整備を行い、基準に適合した自転車であることを確認した上で貼ることができます。

●費用や保険内容など詳細は、お買い求めの販売店もしくは自転車安全整備店(TSマーク取扱店)にご相談ください。

お願い

●点検□年□月□日が記入されていない場合は、

必ず、お買い求めの販売店に記入してもらってください。

記入されていない場合は、補償されないときがあります。

※2022年7月からTSマークが新様式になっています。

旧様式も引き続き有効です。

盗難補償優遇制度について

電動アシスト自転車をお買い求めいただいたお客様で、ご購入日より3年以内に盗難にあわれた場合、盗難補償優遇制度が適用されます。盗難補償優遇制度とは、盗難車本体(充電器を含む)希望小売価格(税込)の30パーセントとその組立手数料4,400円(税込)で、盗難車と同タイプの新車をお買い求めいただくことができる制度です。制度の詳細は下記のとおりです。

ご購入時、CLUB Panasonicにて商品登録をいただくか、商品登録はがきに必要事項をご記入の上、パナソニック サイクルテック商品登録係にご返送いただいたお客様に限り、次の内容により盗難補償が受けられます。

(1) 盗難補償の期間と範囲

お買い求めの日から3年間の自転車(別売部品などを含む装着部品の盗難は除く)かつ、
盗難日より90日以内に申し込みいただいた場合に限ります。

(2) 盗難補償の内容

- お客様のご負担 ①充電器を含む本体希望小売価格(税込)の30パーセント
②組立手数料 4,400円(税込) 2023年12月現在

(3) 盗難補償の申し込み要領

- 提出書類など ①盗難にあった地区的警察署から交付を受けた証明になるもの
(警察受理ナンバーまたは盗難届出証明書など)

- ②盗難車の保証書(原本)
- ③盗難車の純正キー(3本)と電子キー(1個)
- ④盗難補償申込書(販売店が用意いたします)

- 申し込み先 お買い求めの販売店へ現金を添えて、お申し込みください。
追って、販売店から新車を、お渡しいたします。

(4) 盗難車の所有権

盗難補償の申請に必要なもののすべてを販売店が受領した日を申請日とし、申請日の当日から起算して11日目に盗難車の所有権がパナソニック サイクルテック(株)に移転します。そのため、申請日の当日から起算して11日目以降に盗難車が発見された場合、当社は、当該車両の引取りを行って処分いたします(管轄警察署または保管施設から申請者本人の引取りを求められる場合があり、その場合は保管場所から引取りの上、車両を当社に引渡しいただきます)。

申請日の当日から起算して10日目までの期間においては、盗難車(その状態に関わらず)の所有権は申請者に帰属しています。

盗難車が発見された場合、申請者は、本申請をした販売(代納)店へのご連絡、警察へ手配の解除等を速やかに行なうこととします。

これらの手続きを行なわず、当社の補償を受けられると、損害賠償請求をさせていただくことがあります。

(5) 盗難補償を受けることができない場合

- ①防犯登録がされていない場合 ⑥(3)の盗難補償の申請に必要なものがそろわない場合
- ②商品登録されていない場合 ⑦申請日の当日から起算して、10日目までに盗難車が見つかった場合
- ③施錠せず盗難にあった場合 ⑧盗難補償車が再度、盗難にあった場合
- ④補償期間が過ぎている場合 ⑨自転車の占有を喪失していない場合
- ⑤景品などの贈呈品の場合 ⑩盗難以外の理由で自転車の占有を喪失した場合

ご注意

- モデルチェンジや生産中止などによりスペックダウンする可能性がありますので、同タイプの自転車をお届けできない場合がありますことをご了承願います。
- 新車のお届けは在庫状況によりお時間をいただく場合があります。

保証とアフターサービス

使いかた・お手入れ・修理などは**まず、お買い上げの販売店へ**ご相談ください。

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	品 番
電 話 () -	車体番号
お買い上げ日 年 月 日	キー番号
	バッテリーロット記号
	防犯登録番号

修理を依頼されるときは

「故障かな?」(79~83ページ)でご確認のあと、直らないときは、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

●製品名 電動アシスト自転車

●故障の状況 できるだけ具体的に

●保証期間中は、

※保証期間:お買い上げ日から本体1年間、ただし、バッテリーは2年間、駆動ユニット・フレーム・フロントフォークは3年間です(詳しい内容については、保証書をご確認ください)。

※保証対象かどうか(無償修理か有償修理か)は、お買い上げの販売店で自転車と保証書の内容を確認した上で、判断させていただきます。

※インターネットなど通信販売、懸賞、贈答品など販売形態に関わらず、保証書に記載の販売店にご相談ください。
修理や補修部品の直接販売は弊社では行なっていません。

※定期点検・整備の料金は、お買い上げの販売店までお問い合わせください。

●保証期間終了後は、有償修理となります。

※お買い上げの販売店にご相談ください。

※補修用性能部品の保有期間 8年

当社は、この電動アシスト自転車の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後、8年保有しています。

■ 転居や贈答品などでお困りの場合も、**まず、お買い上げの販売店へ** ご相談ください。

それでも、お困りの場合は次の窓口にご相談ください。

ご使用の回線(ひかり電話など)によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

サポート総合窓口

<https://panasonic.jp/support>

商品に関する、
お客様ご相談窓口



電話 0120-781-603 (通話無料)

受付時間 9:00~18:00 月~土曜日

(祝日・正月三が日を除く)

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

■左記電話番号がご利用いただけない場合

072-977-1603

■FAX 072-977-5611

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック サイクルテック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務などを委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

点検・整備チェックリスト

(販売店にチェック・記入を依頼してください。
定期点検・整備の料金は、お買い上げの販
売店までお問い合わせください。)

✓ : 異状無し A : 調整、注油 △ : 修理 × : 交換 C : 掃除その他 — : 装着されていない部品

点検の箇所	点検項目	販売時	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
			2か月	6か月	1年	1年半	2年	2年半	3年
フレーム・ フロントフォーク	変形、折損、ヒビ割れは無いか								
	ヘッド、ボトムブラケットセットにがたつきや摩耗は無いか								
ハンドル	固定は確実か、高さ、ハンドルシステムの挿入量は適正か								
	変形、折損、軽く回転するか								
泥よけ	変形、取り付けは適正か								
キャリア	変形、がたつき、折損は無いか								
車輪	固定は確実か、フレーム、フロントフォークに接触していないか								
タイヤ	切傷、摩耗は無いか、空気圧は適正か								
リム	変形、振れ、摩耗(アルミリム)は無いか								
スポーツ	緩み、変形、切損、外れは無いか								
ハブ	ハブナットの緩み、玉押しのがたつきは無いか								
クラシク	ギア板の振れ、ヒビ入り、曲がり、がたつきは無いか、締め付けは十分か								
ペダル	固定は確実か、取り付け部(クラシク側)にバリは無いか								
	軸の回転は正常か、変形、カシメ、ねじの緩み、がたつき、折損は無いか								
ブレーキ	利き具合は適正か								
	レバーの引きしろに余裕はあるか、ケーブル類にさびやほつれは無いか								
	ブレーキゴム類(ブレーキシュー、パッド、ライニング)の減りは無いか								
変速機	作動は確実か								
ベルト	ヒビ入り、歯欠け、折損は無いか、張りは適正か								
チエーン	油切れ、たるみは無いか、ギアとの噛み合わせは適正か								
サドル	固定は確実か、高さ、シートポストの挿入量は適正か								
	取り付け位置、がたつき、損傷は無いか								
ライト	点灯、照射は正常か、破損は無いか、ケーブル切れは無いか								
リフレクター	汚れ、がたつき、破損は無いか、点灯(テールランプ付)は正常か								
スタンド	作動は正常か、がたつき、変形、折損、油切れは無いか								
ベル	作動は正常か、変形、緩みは無いか、よく鳴るか								
錠	作動は正常か、変形、緩みは無いか								
その他	各部のねじの緩み、損傷は無いか								
注油箇所	チェーン、変速機、ブレーキレバー、スタンドの支点、バッテリーロックキー穴、錠前キー穴								
実施店	実施者氏名	実施日	年 /	年 /	年 /	年 /	年 /	年 /	年 /
保証書に印字されている品番および車体番号を転記してください 品番	車体番号		印	印	印	印	印	印	印

パナソニック サイクルテック株式会社

〒582-8501 大阪府柏原市片山町13番13号